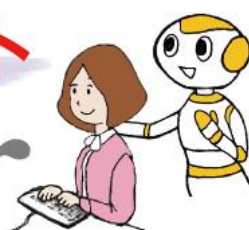


Windows操作ロボット
WinActor
シナリオ作成実践の手引き



第 1.2 版

WinActor シナリオ作成実践の手引き 第 1.2 版
2018 年 11 月 第 1.2 版発行

- Microsoft および Internet Explorer は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
- その他、本書で登場するシステム名、製品名は、一般に各開発メーカーの登録商標または商標です。

❗ ご注意

- ・ 本書の内容の一部または全部を、営業目的で無断利用・無断配付することは禁止されています。
- ・ 本書の内容の一部または全部を、無断で転載することは禁止されています。
- ・ 本書の内容は、将来予告なしに変更することがあります。
- ・ 本書の内容は、万全を期して作成しておりますが、ご不審な点や誤り、記載漏れなどお気づきの点がありましたら、発行元までご連絡ください。
- ・ 本システムを利用したことにより発生したユーザの損害およびユーザが第三者に与えた損害については、上記にかかわらず責任を負いません。

Copyright © 2018 NTT DATA CORPORATION
複製厳禁・無断転載禁止

目次

1. はじめにお読みください	4
このマニュアルについて	4
マニュアルの表記	4
メニュー・項目名などの表記	4
使用しているマーク	4
製品名の略称について	4
2. シナリオ作成の全体像	5
シナリオ作成の基礎知識	5
シナリオの基本構造	5
シナリオ作成の流れ	7
①自動化する作業を決める	8
②自動化する作業の手順を書き出す	9
③WinActor でシナリオを作成する	12
3. シナリオ例 1: Excel リストをもとに Web システムで検索→検索結果を Excel リストに転記	14
この章で自動化する作業	14
準備	14
Step1: データが 1 件の場合の作業をシナリオにする	15
①Excel のファイルを開く作業を設定する	16
②システムの検索画面を表示する作業を設定する	18
③Excel のデータをコピーする作業を設定する	20
④コピーした値を検索画面にペーストする作業を設定する	22
⑤検索画面で[検索]ボタンをクリックする作業を設定する	27
⑥検索結果画面の検索結果をコピーする作業を設定する	29
⑦コピーした値を Excel にペーストする作業を設定する	32
⑧システムを終了させる作業を設定する	34
⑨Excel ファイルを上書き保存して閉じる作業を設定する	35
Step2: 作成したシナリオを実行・修正する	39
①作成したシナリオを実行する	39
②シナリオの問題点を修正する	39
Step3: ノードをグループ化して整理する	40
Step4: データの最後まで処理を繰り返す設定を追加する	43
①どこからどこまでを繰り返すか検討する	43
②シナリオに繰り返しの設定を追加する	44
Step5: 検索結果がない場合の処理を追加する	55
4. シナリオがうまく動作しないときは	61
Step1: シナリオの問題点を確認する	61
Step2: シナリオを修正する	62
うまく動作しないノードを別のノードに置き換える	62
アプリケーションが起動するまで待機する	63
IE の拡大率、アプリケーションの画面サイズをそろえる	69
ポップアップ画面が出た場合は自動で閉じて作業を続行する	76
5. 索引	84
6. 変更履歴	85

1.はじめにお読みください

このマニュアルについて

本マニュアルでは、WinActor のシナリオ作成手順を詳細に解説しています。

「シナリオ作成の手順がイメージできない」「シナリオ作成をしてみたが、うまく動作しない」「シナリオの検討～完成までの具体的なステップを学びたい」という WinActor 初心者の方から、「シナリオ化できそうな作業の元ネタが欲しい」という中級者の方まで、広くお使いいただけます。

「2.シナリオ作成の全体像」(p.5)

シナリオを作成するための基礎知識や、シナリオ作成の基本的な流れを解説しています。

前提知識の確認や、作成フローの全体像の把握にお使いください。

「3.シナリオ例 1:Excel リストをもとに Web システムで検索→検索結果を Excel リストに転記」(p.14)以降

具体的な作業を想定し、主にノードの組み合わせでシナリオ化する手順を詳細に紹介しています。記載された手順に沿って WinActor を操作し、シナリオ作成を実践することで、シナリオ作成時の操作や考え方を身に付けることができます。

シナリオ例は、利用頻度が高い作業を組み合わせています。個別の作業をシナリオ化するときのヒントとしてもお使いください。

NOTE

- 本マニュアルは、WinActor の基本的な操作方法や機能を理解している方を対象としています。WinActor の機能や操作方法、基本的な用語について不明な点がある場合は、「WinActor 初心者の手引き」を参照してください。



マニュアルの表記

メニュー・項目名などの表記

- 本マニュアルに掲載している画面はすべて、WinActor フル機能版のものです。機能や手順については、フル機能版をもとに解説しています。
- メニュー／項目名／機能名／タブ／ボタンは[]で囲んで表記しています。

使用しているマーク

本書で使用しているマークは、次のとおりです。

マーク	説明
 重要	操作を行う上で、注意が必要な情報です。
 NOTE	操作を行う上で、ヒントやポイント、参考になる情報です。

製品名の略称について

本書で使用している製品名を、次のように略記しています。

製品名称	本文中の略記
Microsoft® Internet Explorer®	Internet Explorer、IE
Microsoft® Office	Office

2.シナリオ作成の全体像

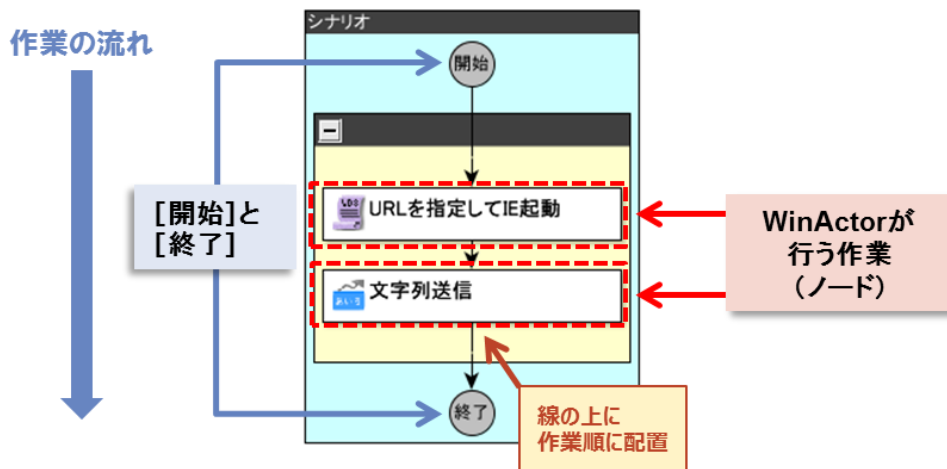
シナリオ作成の際に必要な基礎知識と、シナリオ作成の基本的な流れについて記載します。

シナリオ作成の基礎知識

シナリオの基本構造

WinActor のシナリオは、[開始]と[終了]の間に、一連の作業を作業順に配置した構造が基本です。作業は原則として、上から下に向かって一直線に進んでいきます。

フローチャート表示エリアにある[シナリオ]の[開始]から[終了]をつなぐ線上に、WinActor が行う作業(=ノード)を作業順に並べると、シナリオが完成します。

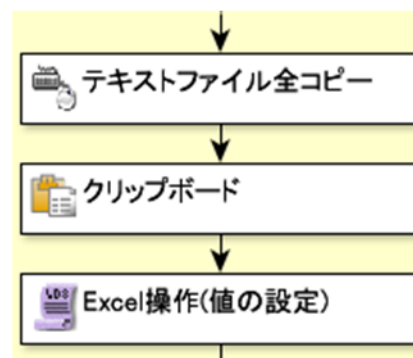


ノードは、WinActor が作業できる単位に分解して記載する必要があります。そのため、人間が作業する場合の手順よりもノードの数の方が多くなる場合があります。また、ノードの名前から作業内容が見えにくい場合があります。

人間が作業する場合の手順

- ①メモ帳の文字をコピーする
- ②Excelにペーストする

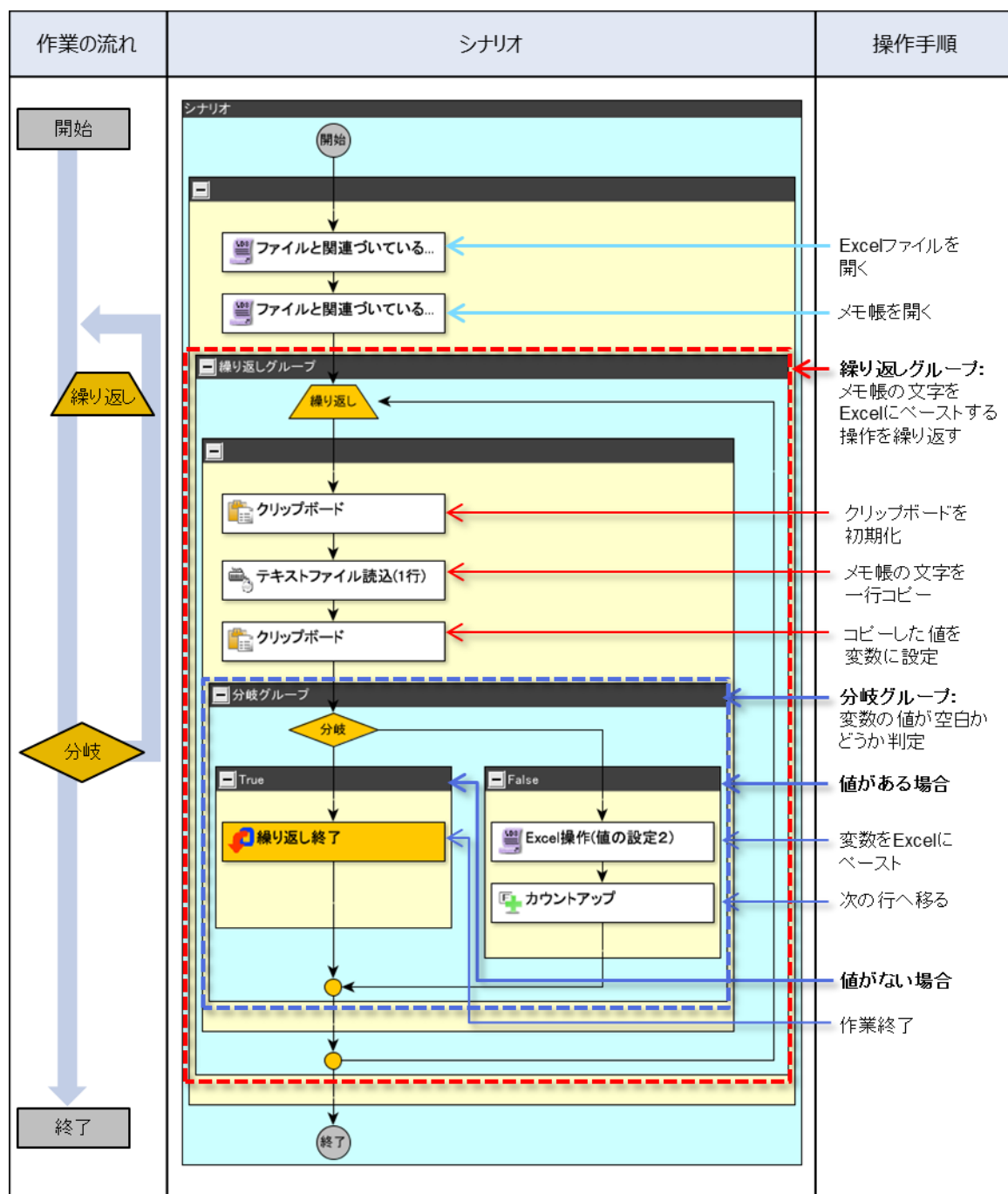
WinActorが作業する場合の手順



作業に使う値が変動する場合は、各ノードのプロパティに「変数」を設定します。

条件によって作業を分岐させたり、繰り返したりする場合は、「分岐」「繰り返し」等のノードを追加します。

例：メモ帳から Excel にテキストを転記する作業のシナリオ



シナリオ作成の流れ

WinActor のシナリオは、以下の流れで作成します。

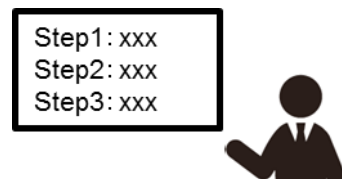
① 自動化する作業を決める

今の業務の中から、自動化する作業を決めます。
自動化できそうな作業を書き出し、自動化で期待できる効果や導入のしやすさなどを分析します。



② 自動化する作業の手順を書き出す

自動化する作業の手順を書き出します。
複雑な手順は、フローチャートにします。



③ WinActor でシナリオを作成する

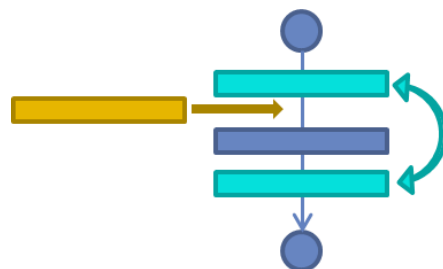
1: 操作を記録する

書き出した作業手順に沿って PC を操作し、
WinActor で記録します。
シナリオの材料が自動生成されます。



2: シナリオを編集する

自動生成した材料を並べ替えたり、記録できない動作を追加したりして、シナリオを最適化します。



シナリオが完成したら…

作成したシナリオを実行し、WinActor が意図したとおり動作するか確認します。
うまく動作しない箇所があるときは、シナリオを修正します。
意図したとおり動作するシナリオが完成したら、業務での利用を開始してください。



①自動化する作業を決める

業務の中から、自動化する作業(=「WinActor」に行ってもらう作業)を決めます。
必要に応じ、周囲のメンバーとも話し合ってください。

1. 今ある業務のうち自動化できそうな業務をリストアップする

2. 自動化で期待できる効果や導入のしやすさなどを分析する

自動化する効果が高い業務の特徴:

- ①決まった手順の作業を、日次・週次など定期的に繰り返している。
- ②決まった手順のデータの検索や登録を、一日中繰り返している。
- ③手順は決まっているが、実施の頻度が低いため手順が覚えられない。
- ④システム間のデータの転記を人間が行っている。
- ⑤先行業務のステータスやファイル作成の完了を、手動でチェックしている。

3. 自動化する作業を決める

分析結果をもとに、総合的に判断します。



⇒ 自動化する作業が決まったら、次に進みます。

②自動化する作業の手順を書き出す

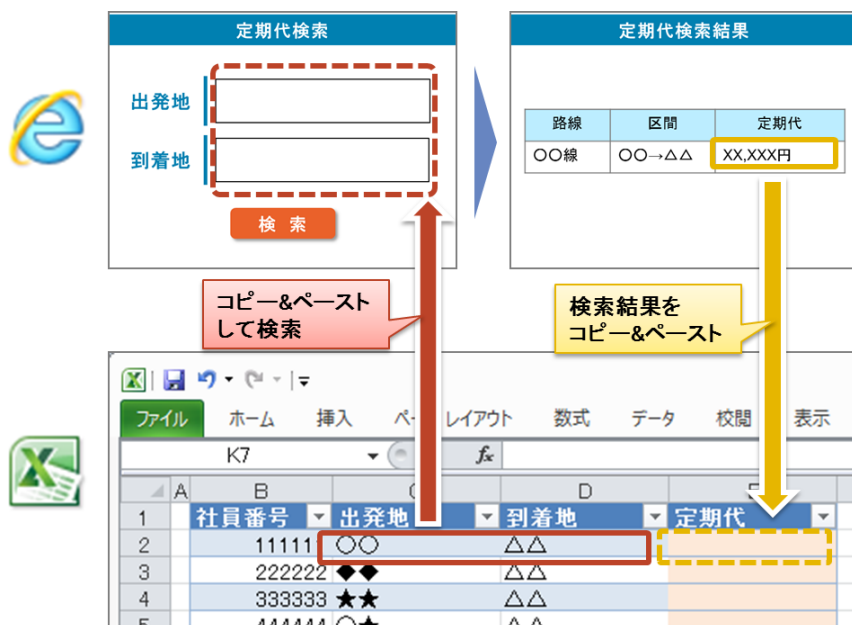
自動化する作業が決まったら、作業の手順を書き出して、作業の流れを整理します。

NOTE

- 作業の繰り返しや条件による分岐などを含む複雑なシナリオを作成するときは、特殊なノードや変数を使用します。詳しくは「WinActor 初心者の手引き」の「汎用的なシナリオを作るための基本ルール」を参照してください。

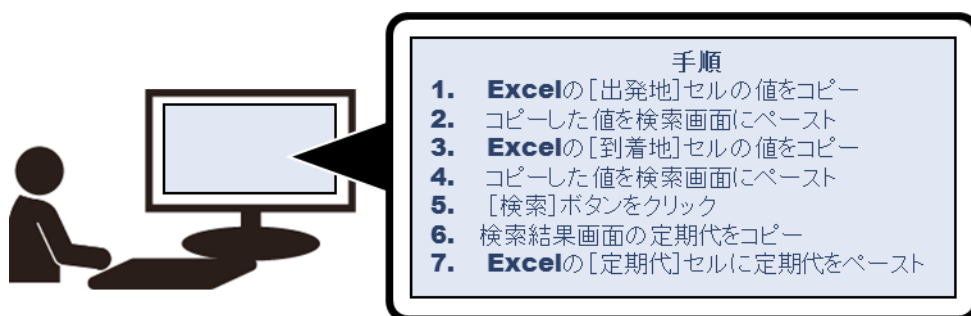
例：従業員の定期代を検索してリスト化する作業

Excel ファイルに記載された区間情報をもとに、WEB サイトで定期代を検索し、検索結果を Excel に追記する作業です。Excel リストの末尾まで、同様の処理を繰り返します。



1. 1 回だけ処理を行うときの手順を書き出す

複数の操作をまとめて書かずに、1 つの操作が 1 つの手順になるように書き出します。



2. 書き出した手順を見直し、作業が自動化に適しているかどうか再確認する

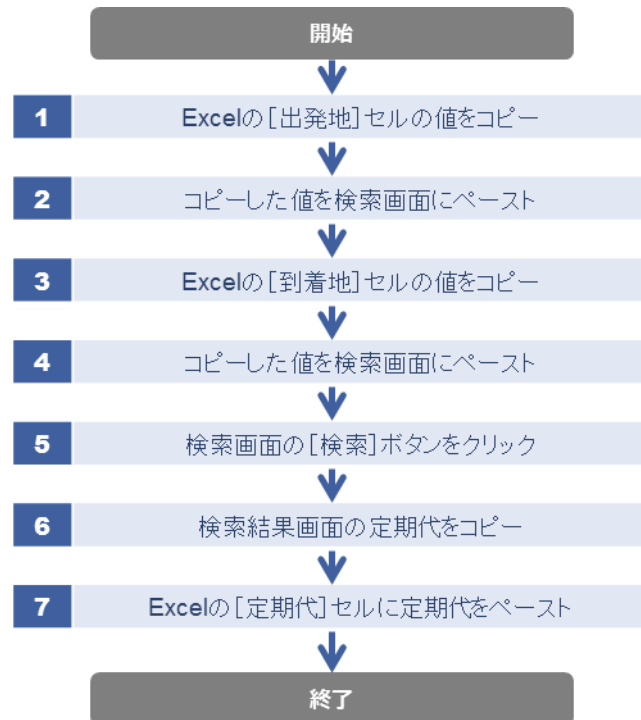
NOTE

自動化に適さないケース

- 手順がルール化できておらず、人の判断が入っている。
- 紙情報など、電子データ化されていない情報をもとに処理をする手順がある。

3. 書き出した手順をフローチャートにする

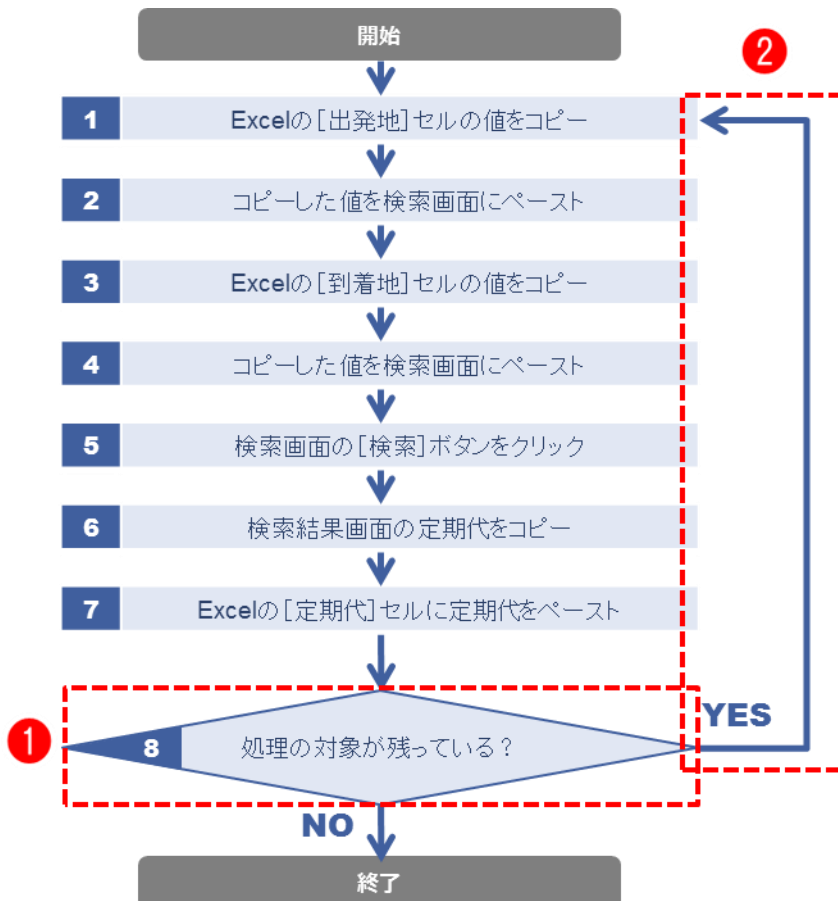
手順が多い場合や、複雑なケースがある（分岐する・例外がある・一定の値を超えた場合は別の処理が発生するなど）場合は、次の手順に進みます。



4. 同じ作業を何度も繰り返す場合は、

①作業を繰り返す条件を追加する

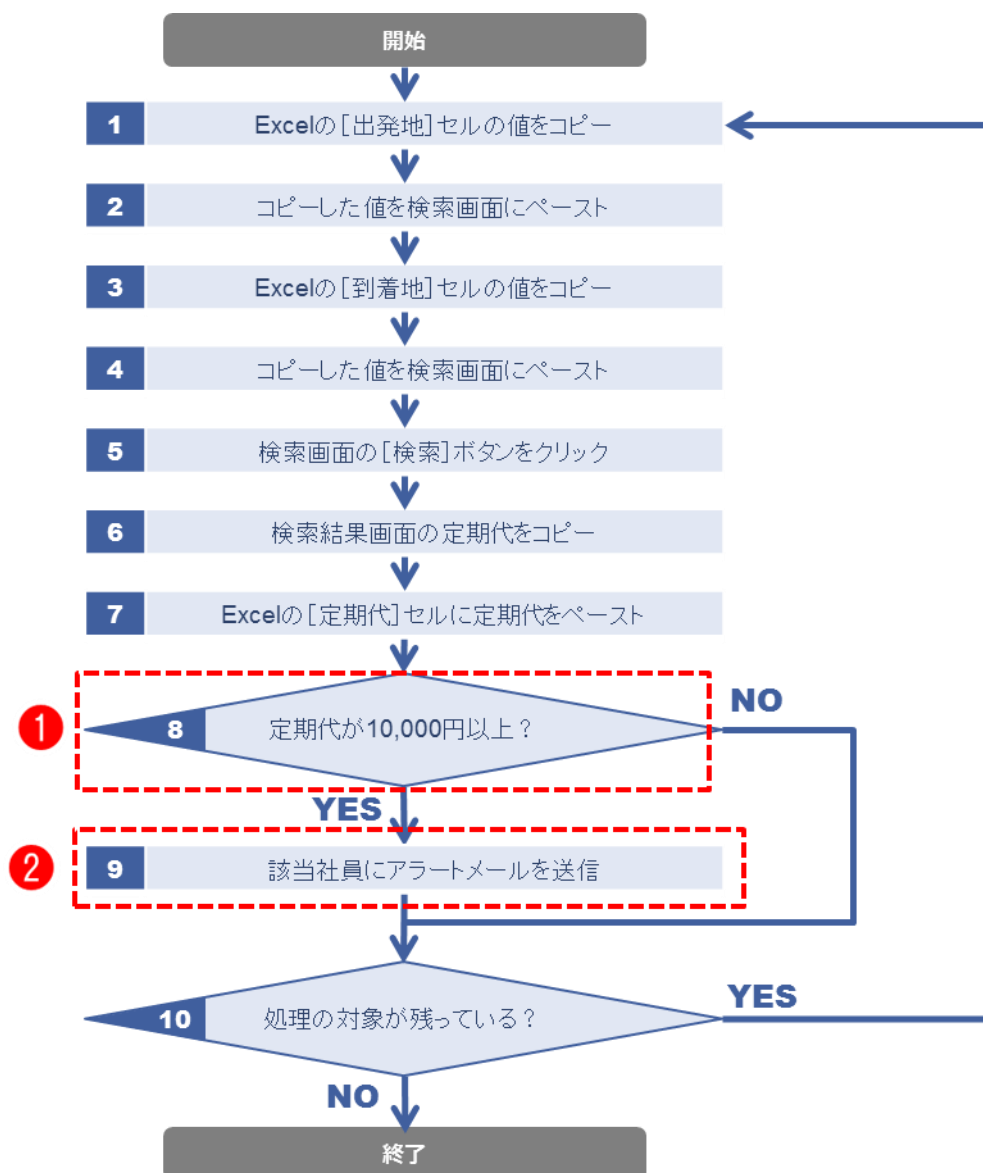
②繰り返す場合、どこから作業を繰り返すか示す矢印を追加する



5. 条件によって作業内容が異なる場合は、

①作業内容が分岐する条件を追加する

②条件に当てはまる場合／当てはまらない場合それぞれの作業を追加する



➡ 手順を書き出し終わったら、次に進みます。

③WinActor でシナリオを作成する

通常は、まず WinActor の記録機能で各操作を記録して、ノードを自動生成します。
次に、生成したノードを並べ替え、記録できない部分のノードを追加して、シナリオを完成させます。
書き出したフローチャートは、シナリオを記録・編集するときのガイドとして使用します。

NOTE

- あらかじめ用意されたノードを組み合わせでシナリオを作成することもできます。本マニュアルの14ページ以降では、ノードの組み合わせを中心に、一部記録機能を利用しながらシナリオを作成する手順を詳しく紹介していますので、参考にしてください。

□1:操作を記録する

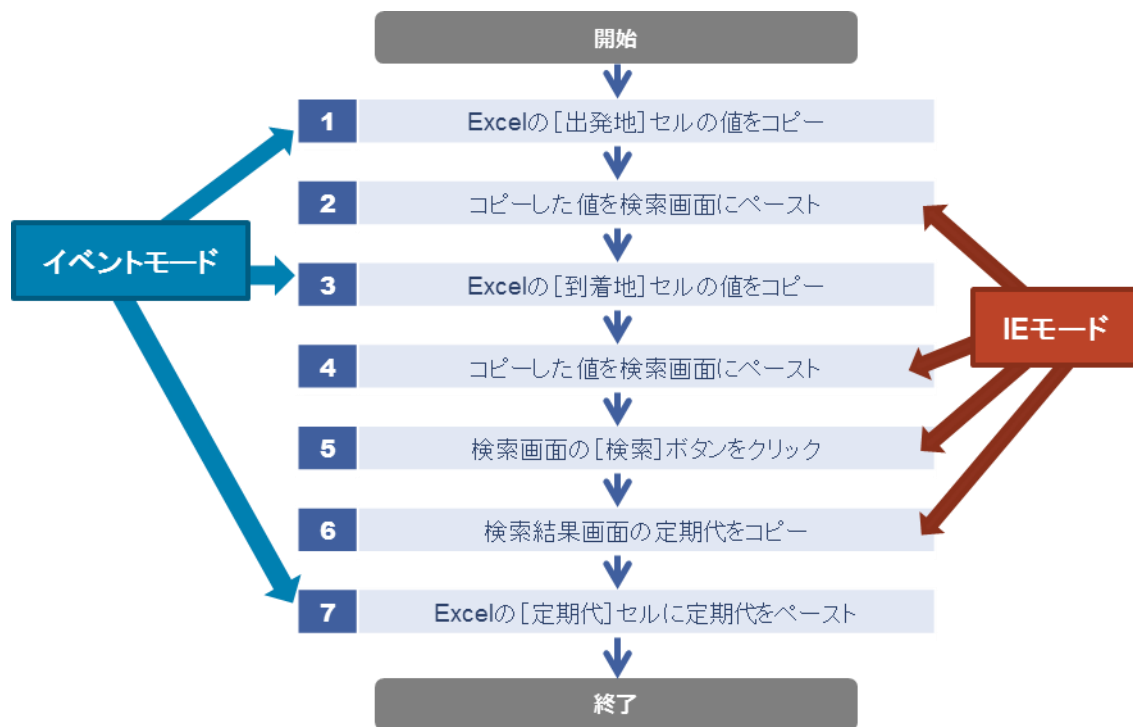
コンピュータで行った操作を WinActor で記録して、ノードを自動生成します。

NOTE

- 操作が記録できないアプリケーションもあります。詳しくは、「WinActor 操作マニュアル」の「2.4.6 記録できない場合」を参照してください。

1. 各手順をどのモードで記録するか検討する

記録対象のアプリケーションや操作内容によって、モードを使い分ける必要があります。
記録モードの種類について、詳しくは「WinActor 初心者の手引き」の「操作を記録する」を参照してください。



2. 手順を記録してノードを生成する

手順を記録する操作について、詳しくは「WinActor 初心者の手引き」の「操作を記録する」を参照してください。
記録モードが手順によって異なる場合は、記録を停止してから、適切な記録モードを選択し直して続きの手順を記録してください。

NOTE

- 記録モードを切り替えながら手順を記録していくと、フローチャート表示エリアに複数のグループが点在した状態になりますが、そのまま進めます。

➡ すべての手順のノードを生成したら、次に進みます。

□2:シナリオを編集する

操作を記録して生成したノードを配置・整理して、シナリオとして最適化します。

ノードの配置・整理について、詳しくは「WinActor 初心者の手引き」の「ノードを配置・整理する」を参照してください。

1. 生成したノードのグループを[開始]~[終了]の矢印上にドラッグ&ドロップ

2. ノードの並び順が作業の順序に沿っていることを確認

書き出した作業フローと照らし合わせて、作業順が正しいことを確認します。

3. 分岐や繰り返しがある場合は、ノードを追加して設定

記録機能では生成できないノードをパレットエリアから追加して、条件などを設定します。

4. シナリオの動作をテスト

作成したシナリオを本番の環境で実行し、意図したとおりに動作することを確認します。
意図と異なる動作をした場合は、シナリオを修正します。

5. シナリオを保存

保存したシナリオは、他の WinActor ユーザに配布できます。

⇒ 以上でシナリオは完成です。

次のページからは、具体的な作業を例に、シナリオを作成する手順を詳細に解説します。

3.シナリオ例1:ExcelリストをもとにWebシステムで検索→検索結果をExcelリストに転記

この章で自動化する作業

Excel のリストに記載された「住所コード」をもとに、Web 上の「住所管理システム」で「住所」の情報を検索し、検索結果を Excel リストに転記する作業を自動化します。

NOTE

- ・ ノードを組み合わせる方法を中心に、一部 WinActor の記録機能を利用した場合の手順です。

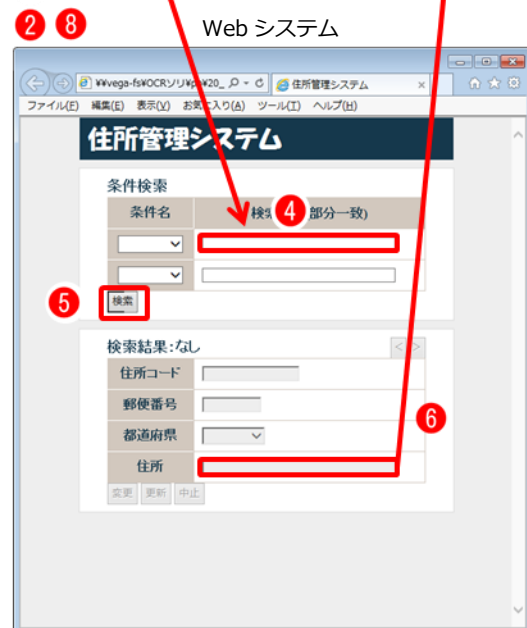
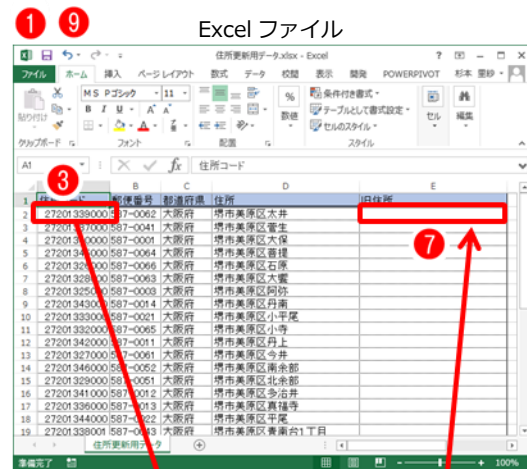
準備

シナリオ作成を始める前に、次の準備をしておきます。

1. 自動化する作業をフロー化する
2. 処理対象のファイルを準備する
3. WinActor を起動する
4. [フローチャート]画面と[変数一覧]画面を表示する
5. 住所管理システムを起動し、操作しやすいよう手前に表示させておく

Step1:データが1件の場合の作業をシナリオにする

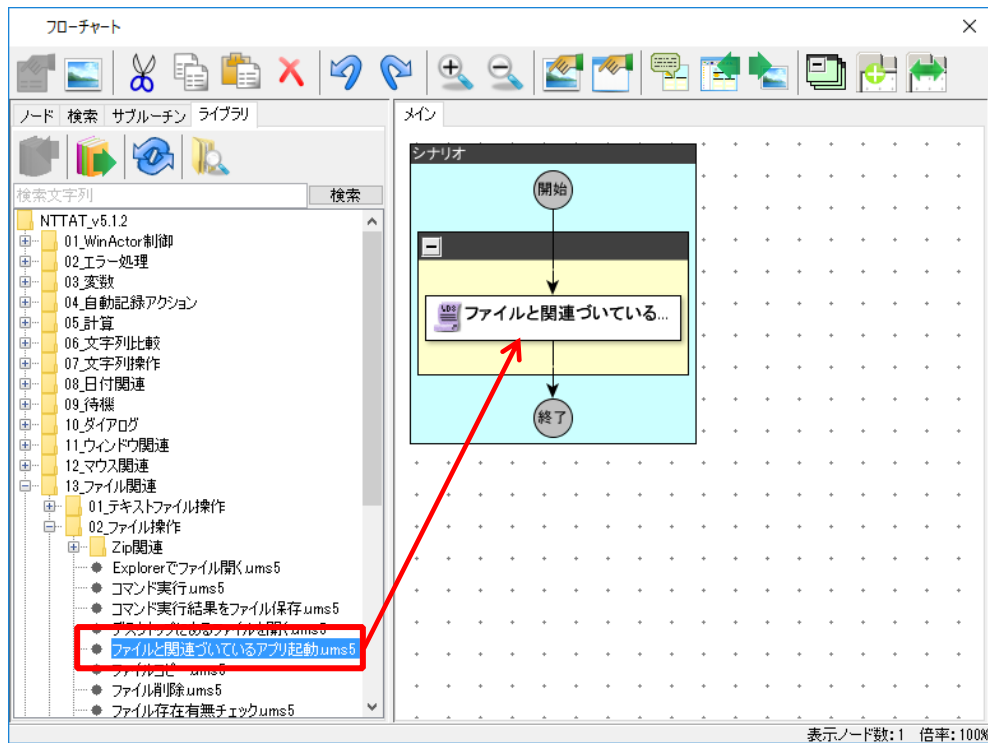
まずは、データが1件の場合の作業をシナリオ化します。
データが1件の場合の作業フローは、次のとおりです。



① Excel のファイルを開く作業を設定する

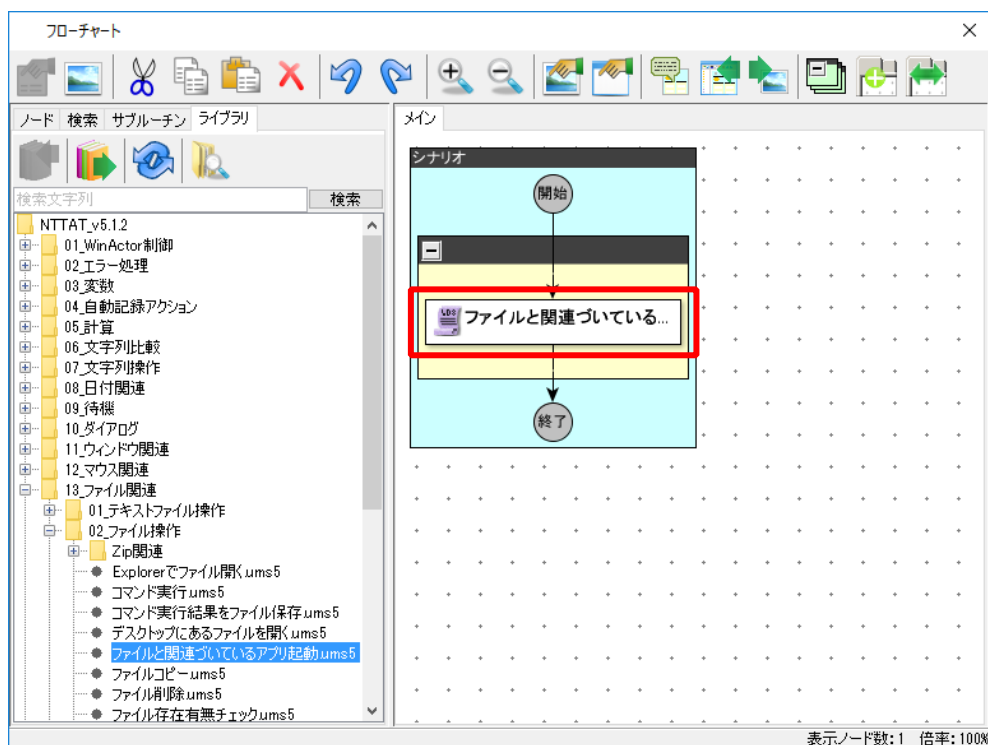
Excel を起動し、対象の Excel ファイルのリストを開く作業を設定します。

1. フローチャート画面のパレットエリアの[ライブラリ]タブー[13_ファイル関連]ー[02_ファイル操作]ー[ファイルと関連づいているアプリ起動]をフローチャート表示エリアのシナリオ上にドラッグ&ドロップ
シナリオに[ファイルと関連づいているアプリ起動]が配置されます。



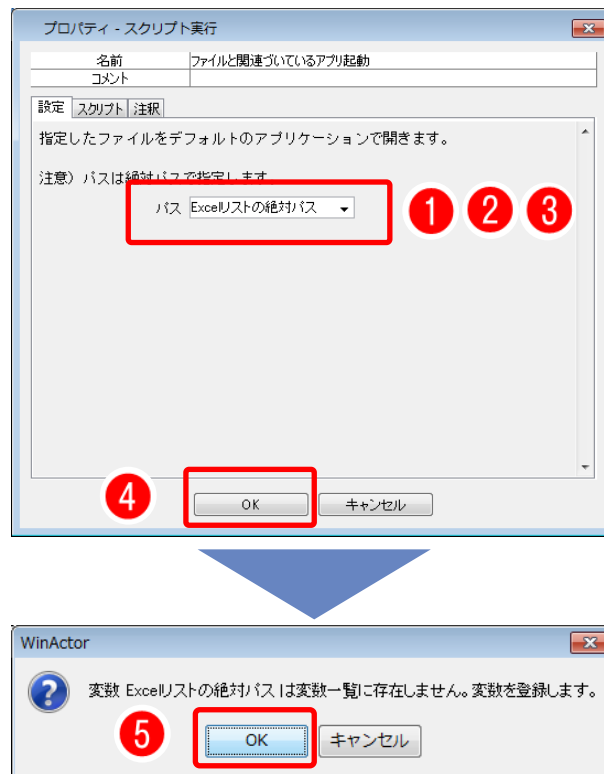
2. [ファイルと関連づいているアプリ起動]をダブルクリック

プロパティ画面が表示されます。



3. ①[パス]のプルダウンをクリック
 ②[*]を選択
 ③変数名に[Excel リストの絶対パス]を入力
 ④[OK]をクリック
 ⑤登録確認のポップアップで[OK]をクリック

開く Excel ファイルの絶対パスを格納する変数[Excel リストの絶対パス]が作成されます。
 変数一覧画面に追加した変数名が表示されます。

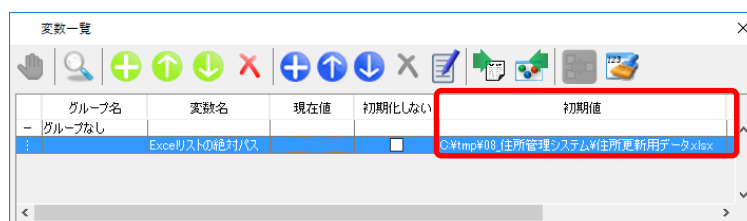


NOTE

- ここでは、後で使用するノードやライブラリでも絶対パスを指定する場面があるため、値指定ではなく、変数を指定します。

4. 変数一覧画面で変数[Excel リストの絶対パス]の初期値に、作業に使う Excel ファイルの置き場を絶対パスで入力

変数の初期値に、Excel ファイルの絶対パスが設定されます。



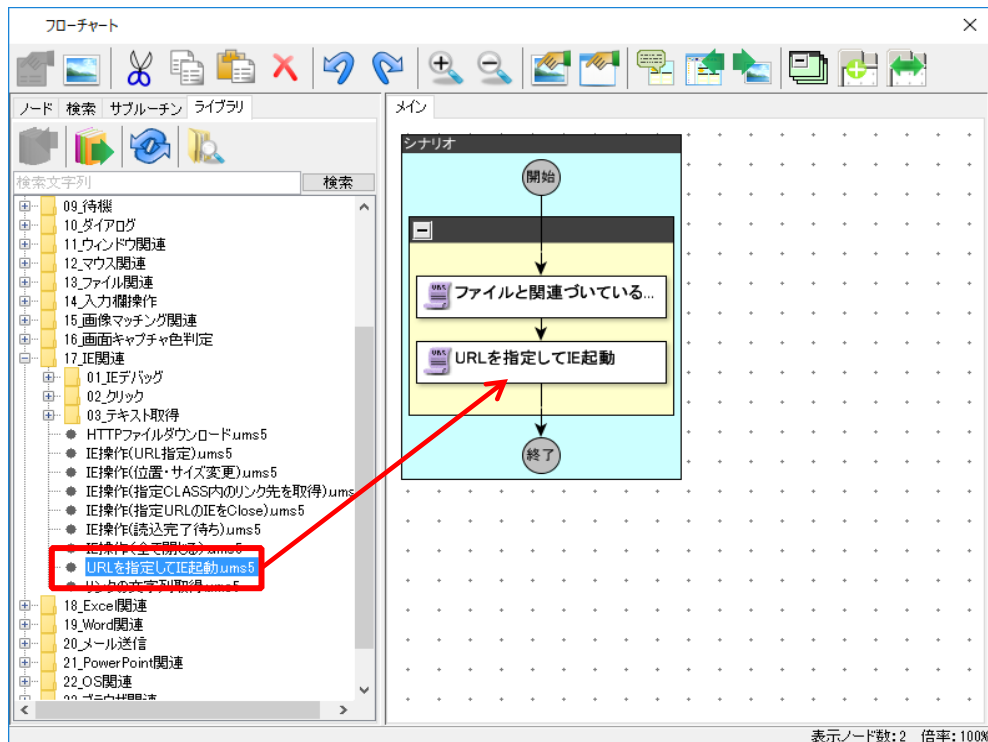
NOTE

- 絶対パスの簡単な取得方法については、「WinActor 初心者の手引き」の「ファイルを開く」を参照してください。

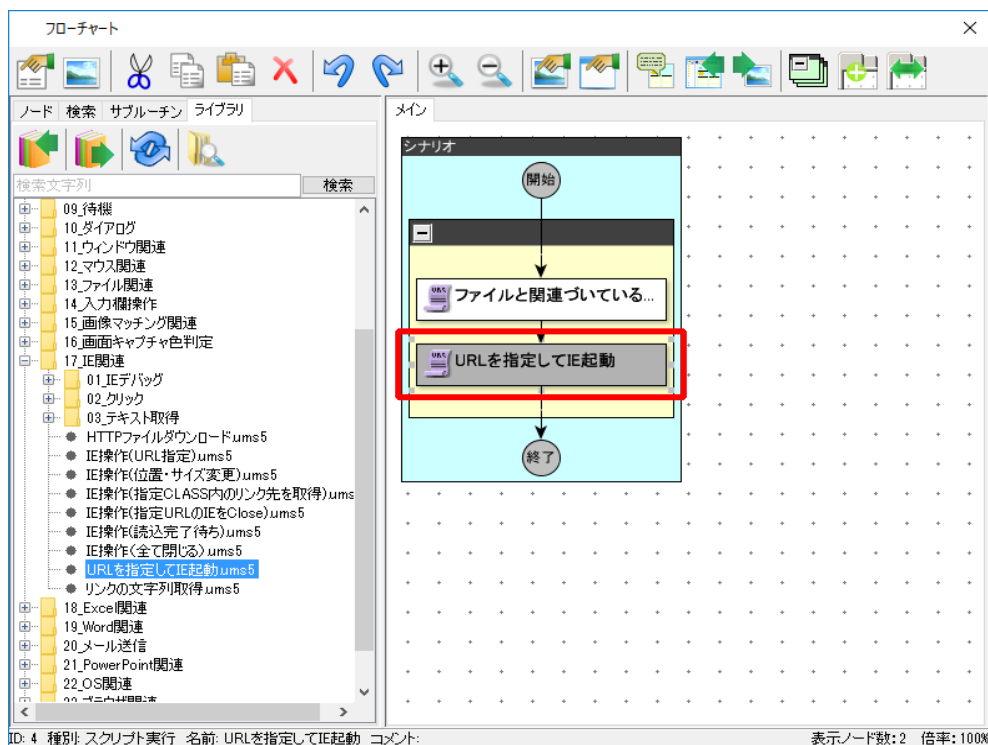
②システムの検索画面を表示する作業を設定する

次に、IE を起動して、住所管理システムの検索画面を表示する作業を設定します。

1. フローチャート画面のパレットエリアの[ライブラリ]タブ-[17_IE 関連]-[URL を指定して IE 起動]をシナリオの[ファイルと関連づいているアプリ起動]の下ヘドラッグ&ドロップ
シナリオに[URL を指定して IE 起動]が配置されます。

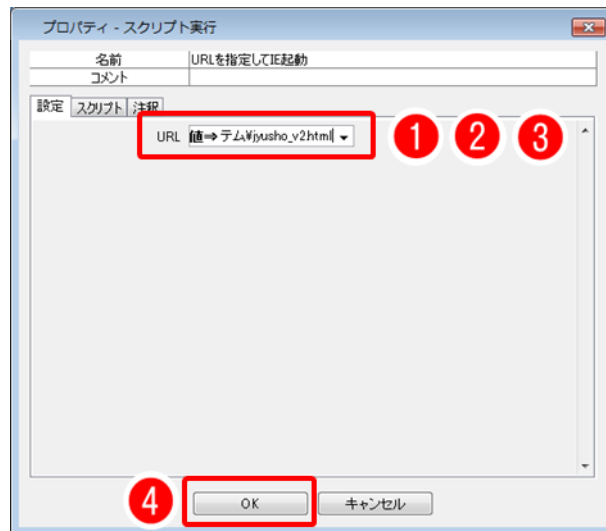


2. [URL を指定して IE 起動]をダブルクリック
プロパティ画面が表示されます。



3. ①[URL]のプルダウンをクリック
②[値⇒]を選択
③[URL]に住所管理システムの検索画面の URL を入力
④[OK]をクリック

IE を起動し、住所管理システムの検索画面の URL を開く作業が設定されます。



NOTE

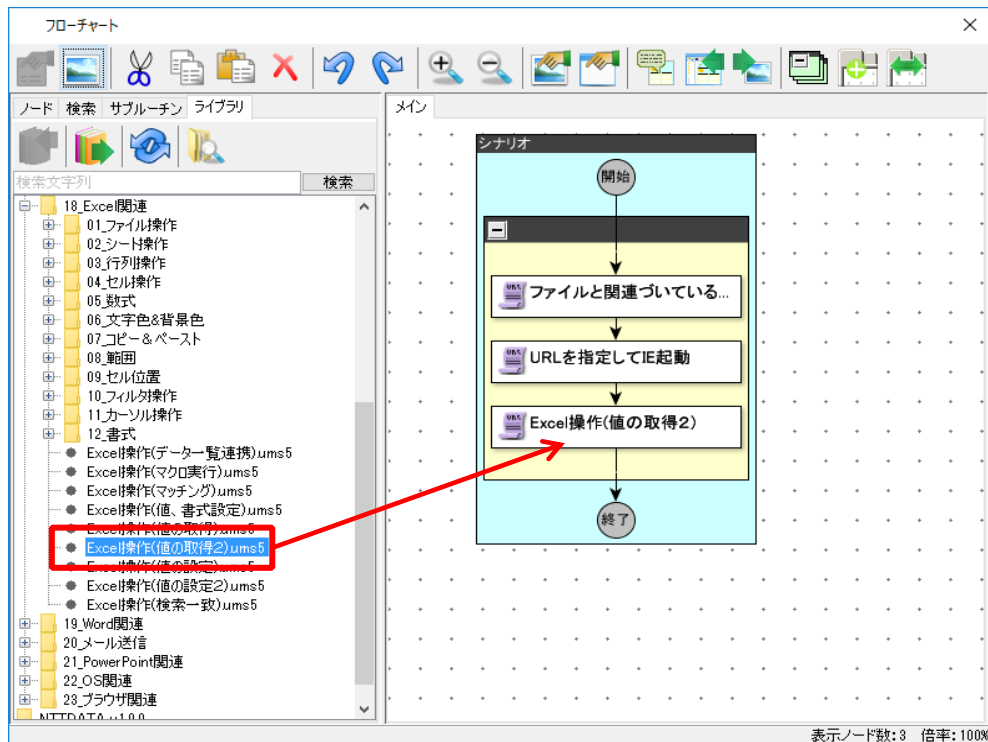
- ・ インターネット上のウェブサイト指定の場合は、「http」から始まる URL を入力してください。
- ・ 上記の画面では、コンピュータ内にある html ファイルを起動するため、html ファイルの絶対パスを入力しています。

③ Excel のデータをコピーする作業を設定する

Excel リストから、検索値に使う値をコピーする作業を設定します。

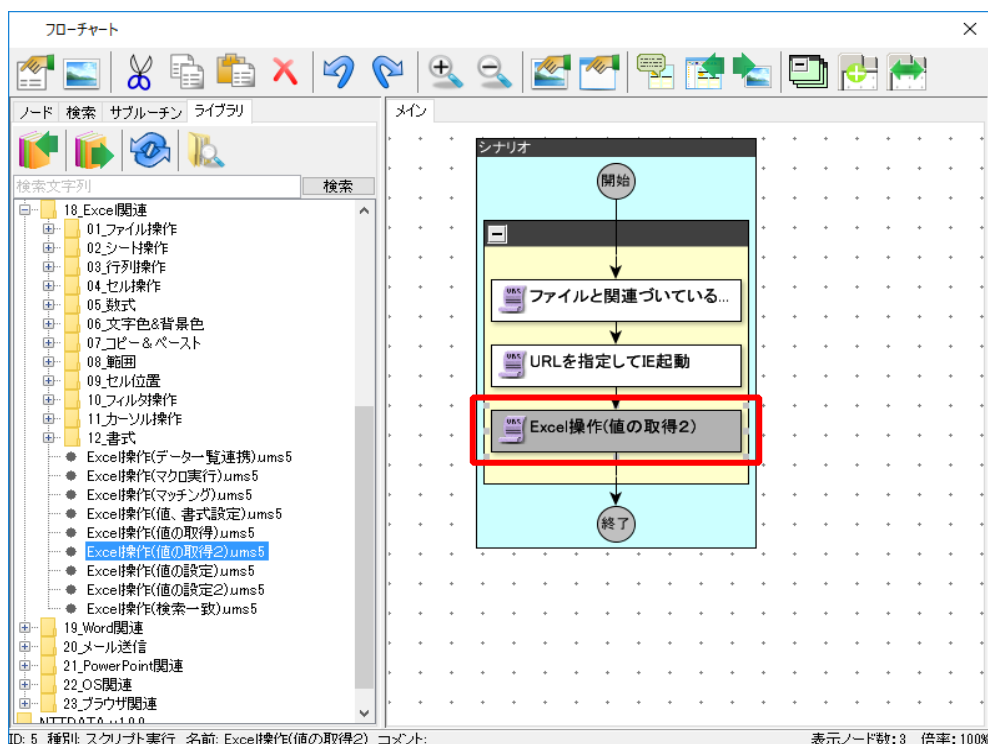
ここでは、住所コードの 1 件目 (A2 セル) の値をコピーして、変数[住所コード]に格納する設定を例に説明します。

1. フローチャート画面のパレットエリアの[ライブラリ]タブー[18_Excel 関連]ー[Excel 操作(値の取得 2)]をシナリオの[URL を指定して IE 起動]の下ヘドラッグ&ドロップ
シナリオに[Excel 操作(値の取得 2)]が配置されます。



表示ノード数: 3 倍率: 100%

2. [Excel 操作(値の取得 2)]をダブルクリック
プロパティ画面が表示されます。



表示ノード数: 3 倍率: 100%

3. ①[ファイル名]のプルダウンで変数名[Excel リストの絶対パス]を選択
- ②[シート名]のプルダウンをクリック→[*]を選択→変数名[Excel リストのシート名]を入力
- ③[セル(行)]のプルダウンをクリック→[値⇒]を選択→「2(半角数字)」を入力
- ④[セル(列)]のプルダウンをクリック→[値⇒]を選択→「A(半角英字)」を入力
- ⑤[格納先変数]のプルダウンをクリック→[*]を選択→変数名[住所コード]を入力
- ⑥[OK]をクリック
- ⑦登録確認のポップアップで[OK]をクリック

変数[Excel リストの絶対パス]で指定したファイル(「[①Excel のファイルを開く作業を設定する](#)」(p.16)で設定)内の、変数[Excel リストのシート名]シート(新規作成/次手順でシート名指定)から、A2 セルの値を取得し、取得した値を変数[住所コード]に格納する作業が設定されます。

変数[Excel リストのシート名]と[住所コード]が新規作成され、変数一覧画面に追加した変数名が表示されます。

4. 変数一覧画面で変数[Excel リストのシート名]の初期値に、コピー元にしたシートのシート名を入力
変数[Excel リストのシート名]の初期値が設定されます。

グループ名	変数名	現在値	初期化しない	初期値
グループなし	Excelリストの絶対パス		<input type="checkbox"/>	C:\temp\009_住居管理システム\住居更新用データ.xlsx
	Excelリストのシート名		<input type="checkbox"/>	住所更新用データ
	住所コード		<input type="checkbox"/>	

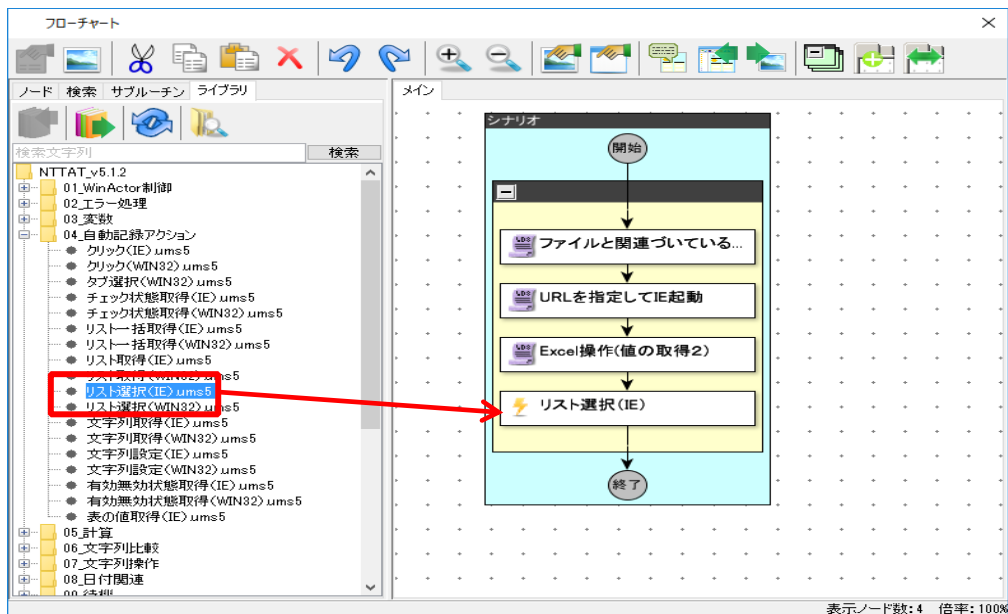
④コピーした値を検索画面にペーストする作業を設定する

住所管理システムで適切な検索条件を設定し、検索条件入力欄に Excel からコピーした値(変数[住所コード])に格納した値)を貼り付ける作業を設定します。

□1:[条件名]で[住所コード]を選択する作業を設定する

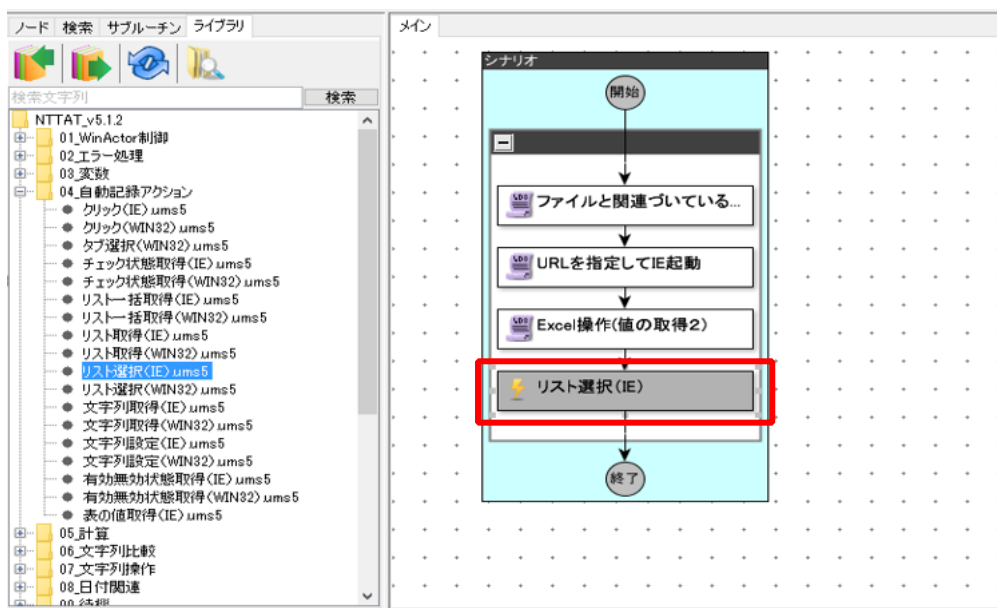
検索条件をプルダウンで選択する作業を設定します。


1. フローチャート画面のパレットエリアの[ライブラリ]タブ→[04_自動記録アクション]→[リスト選択(IE)]をシナリオの[Excel 操作(値の取得 2)]の下ヘドラッグ&ドロップ
シナリオに[リスト選択(IE)]が配置されます。

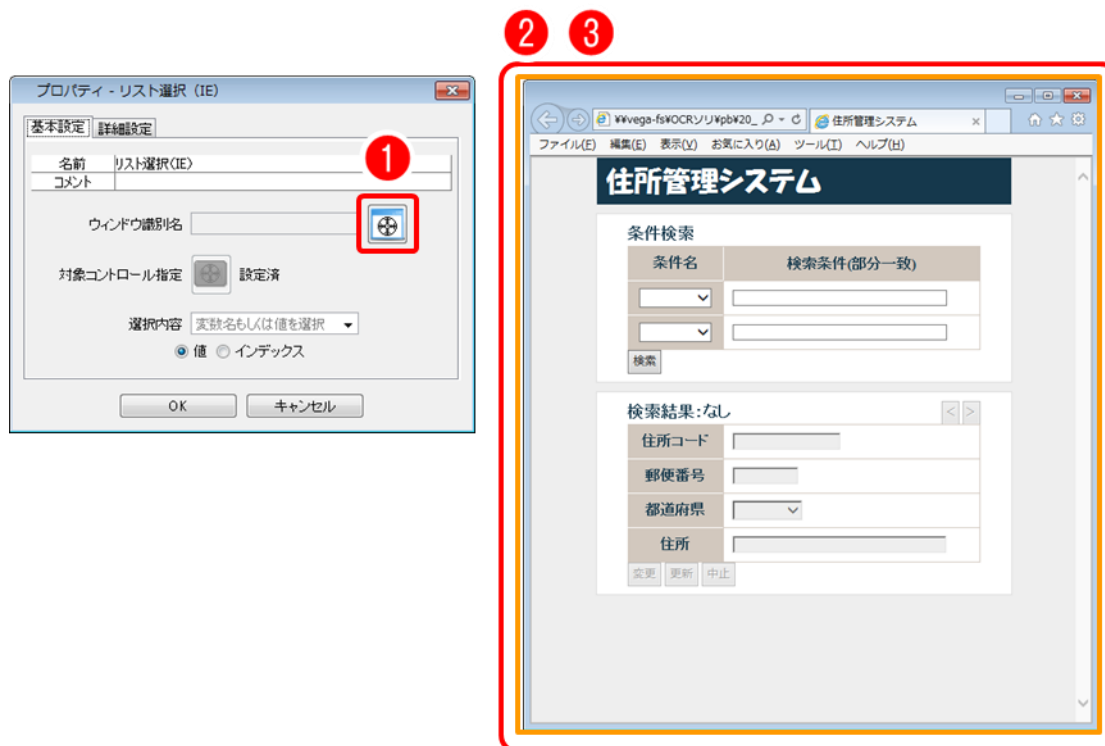



2. [リスト選択(IE)]をダブルクリック

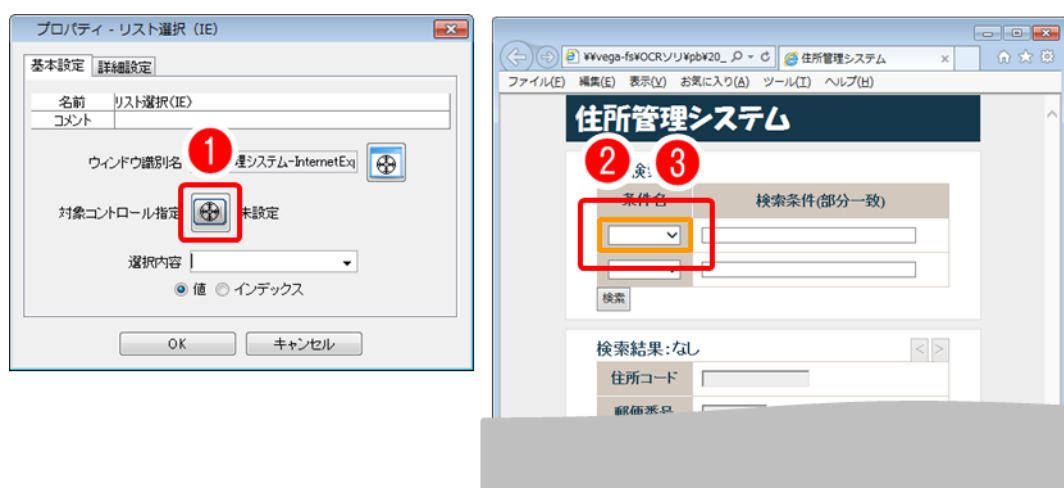
プロパティ画面が表示されます。



3. ①プロパティ画面で[ウィンドウ識別名]横の  をクリック
 ②マウスポインタを、値を入力する住所管理システム画面上に移動
 ③住所管理システム画面がオレンジの枠で囲まれたら、住所管理システム画面をクリック
- 住所管理システムが記録対象アプリケーションに設定されます。
 [対象コントロール指定]のボタン横が[未設定]に変わります。



4. ①プロパティ画面で[対象コントロール指定]横の  をクリック
 ②マウスポインタを、値を設定する住所管理システム画面上に移動
 ③条件名のプルダウンをクリック
- 選択したプルダウンがオレンジの枠で囲まれます。
 [対象コントロール指定]のボタン横が[未設定]から[設定済]に変わります。



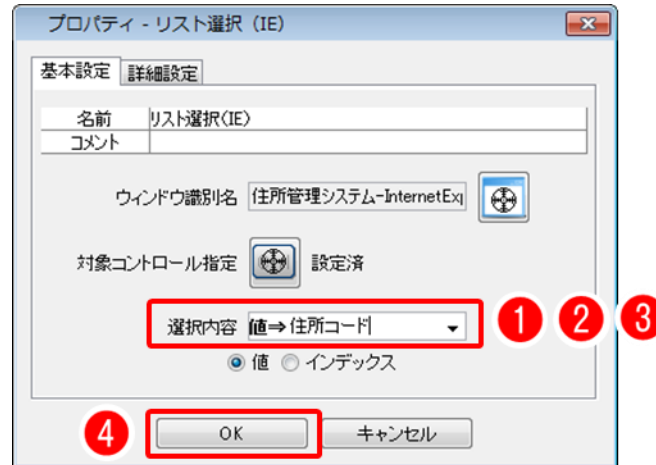
5. ①[選択内容]のプルダウンをクリック

②[値⇒]を選択

③「住所コード」を入力

④[OK]をクリック

[条件名]で[住所コード]をプルダウン選択する作業が設定されます。

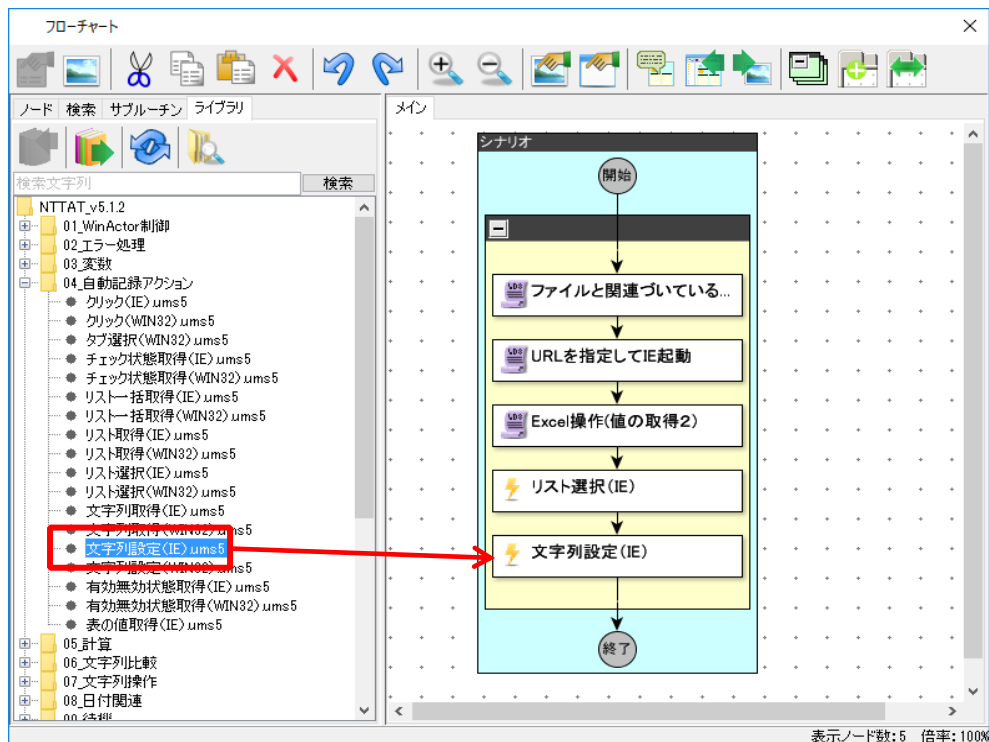


□2:コピーした値を[検索条件(部分一致)]欄にペーストする作業を設定する

1. フローチャート画面のパレットエリアの[ライブラリ]タブー[04_自動記録アクション]ー

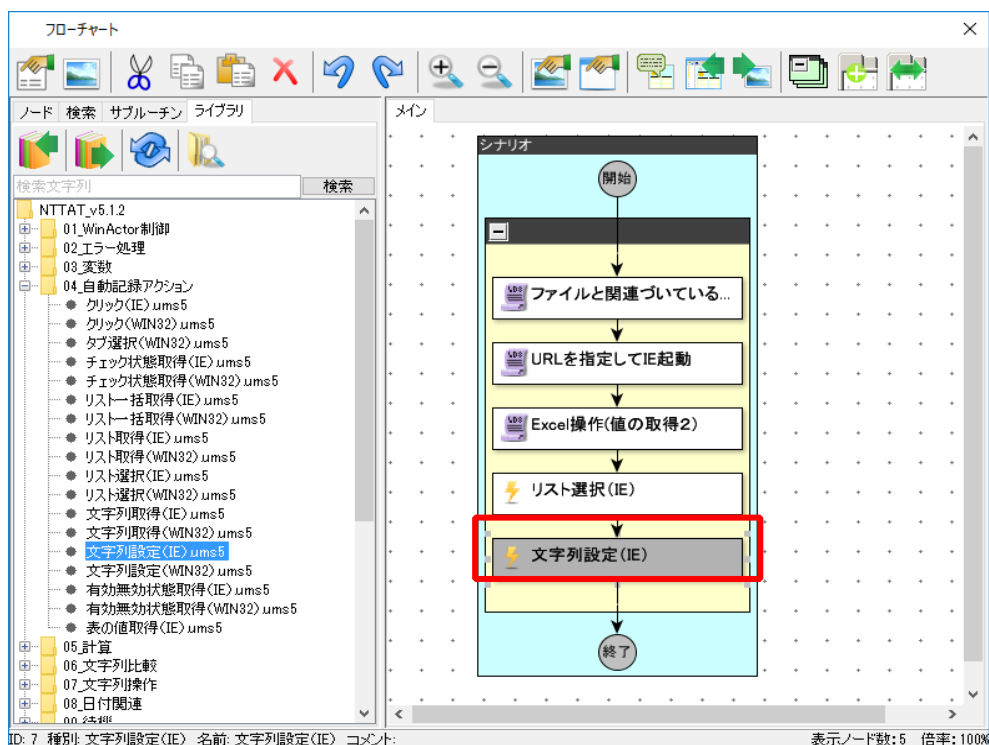
[文字列設定(IE)]をシナリオの[リスト選択(IE)]の下ヘドラッグ&ドロップ


シナリオに[文字列設定(IE)]が配置されます。



2. [文字列設定(IE)]をダブルクリック

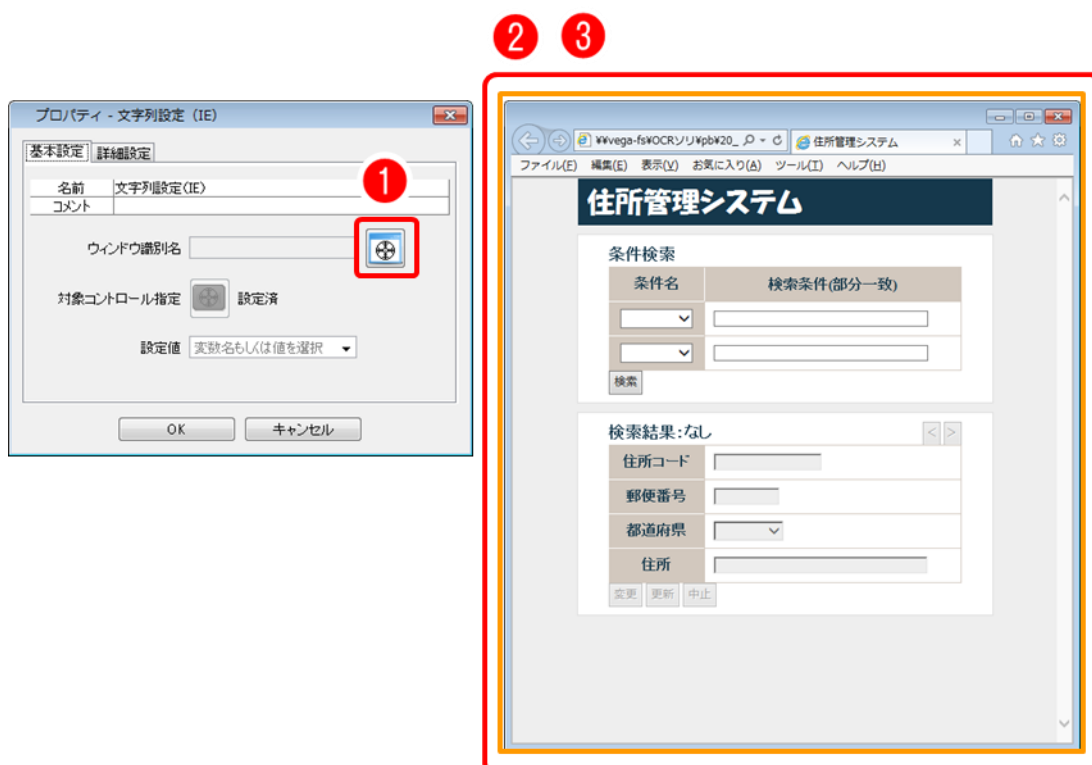
プロパティ画面が表示されます。




3. ①プロパティ画面で[ウィンドウ識別名]横の  をクリック
- ②マウスポインタを、値を入力する住所管理システム画面上に移動
- ③住所管理システム画面がオレンジの枠で囲まれたら、住所管理システム画面をクリック

住所管理システムが記録対象アプリケーションに設定されます。

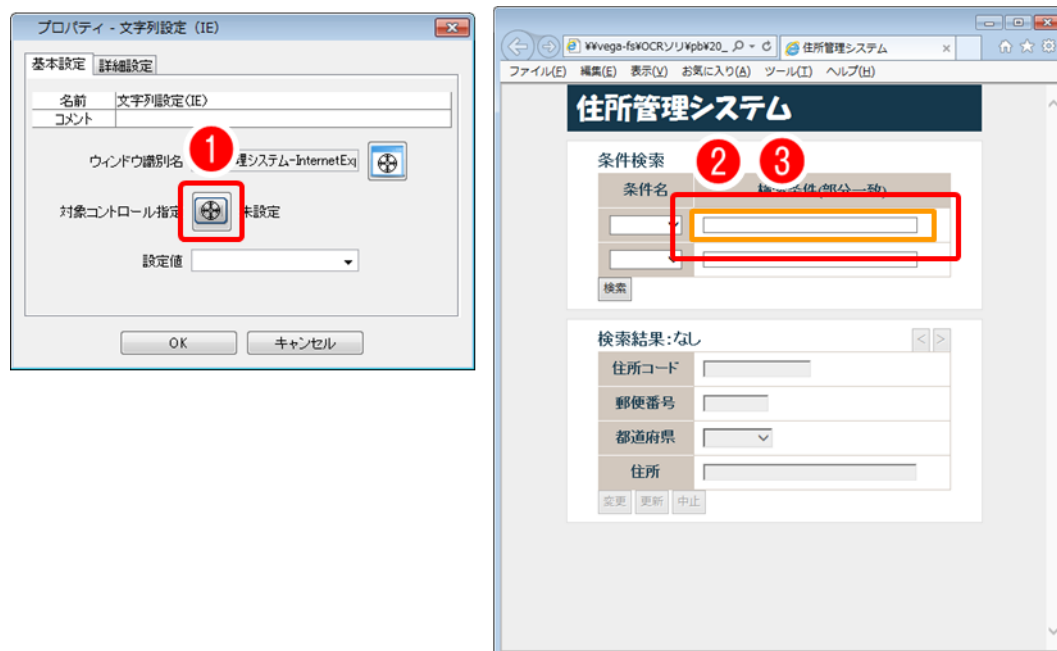
[対象コントロール指定]のボタン横が[未設定]に変わります。



4. ①プロパティ画面で[対象コントロール指定]横の  をクリック
 ②マウスポインタを値を設定する住所管理システム画面上に移動
 ③[検索条件(部分一致)]のテキストボックスをクリック

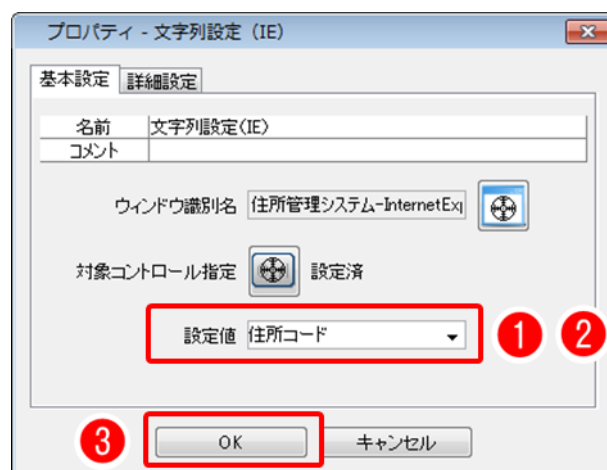
選択したテキストボックスがオレンジの枠で囲まれます。

[対象コントロール指定]のボタン横が[未設定]から[設定済]に変わります。



5. ①[設定値]のプルダウンをクリック
 ②変数名[住所コード]を選択
 ③[OK]をクリック

変数[住所コード]に格納された値(「[③Excel のデータをコピーする作業を設定する](#)」(p.20)で設定)を、[検索条件(部分一致)]欄に入力する作業が設定されます。



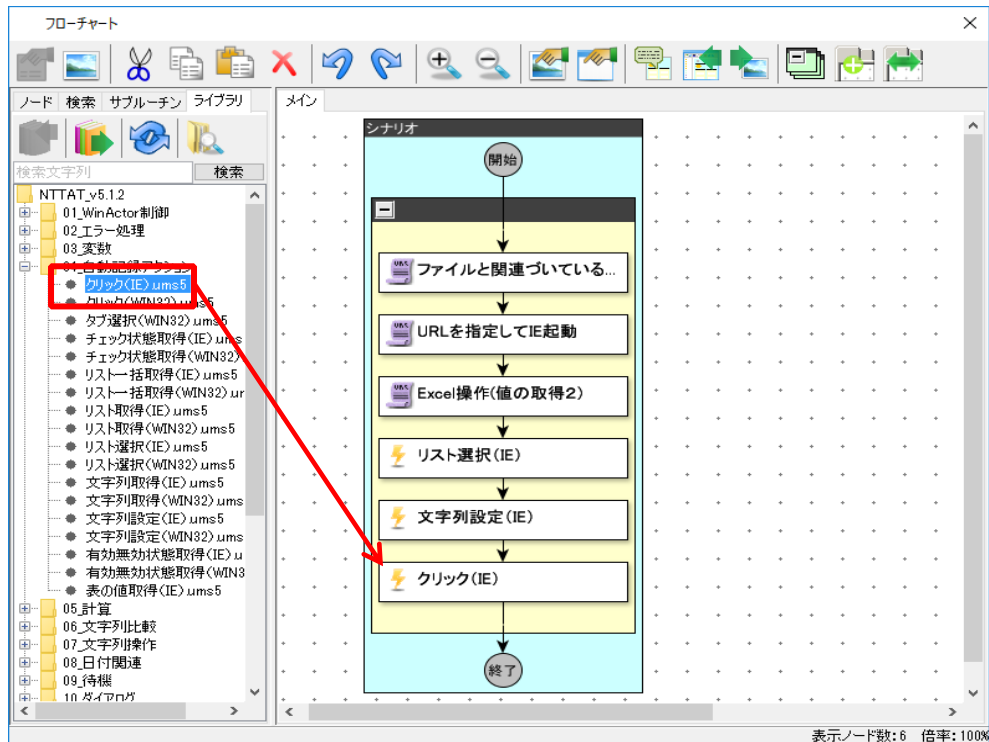
❗ 重要

- ・「[③Excel のデータをコピーする作業を設定する](#)」(p.20)で設定した変数名を選択してください。この手順で変数を新規作成したり、[値⇒]を選択して変数名を入力したりすると、シナリオが正しく動作しません。

⑤検索画面で[検索]ボタンをクリックする作業を設定する

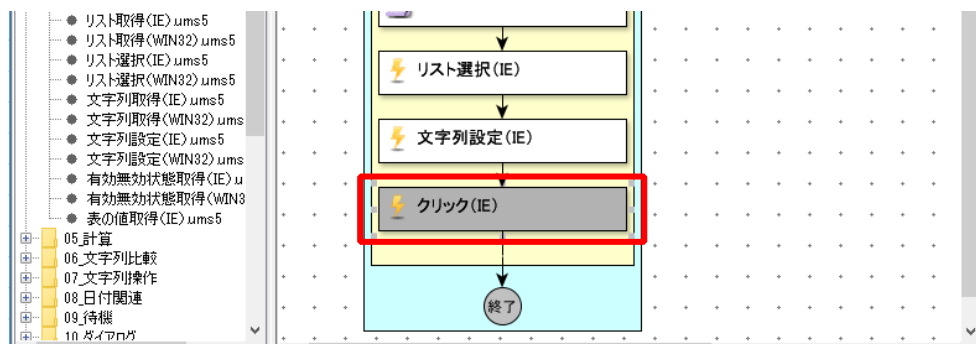
1. フローチャート画面のパレットエリアの[ライブラリ]タブー[04_自動記録アクション]ー[クリック(IE)]をシナリオの[文字列設定(IE)]の下へドラッグ&ドロップ


シナリオに[クリック(IE)]が配置されます。

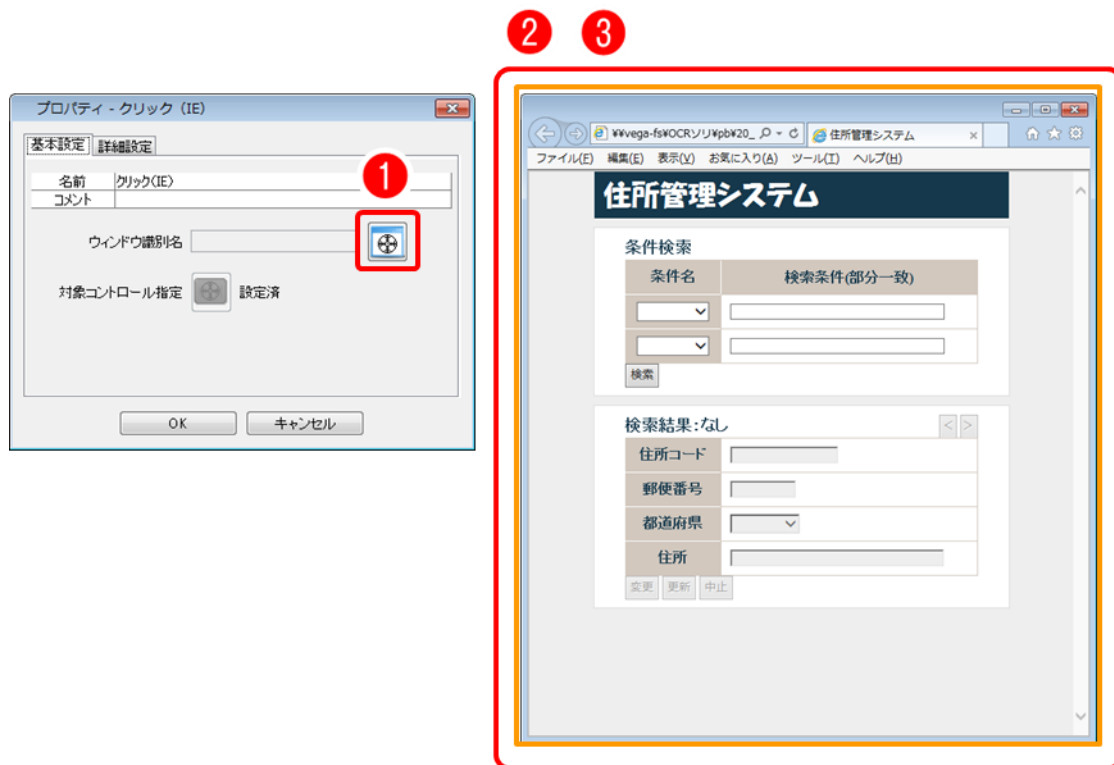



2. [クリック(IE)]をダブルクリック

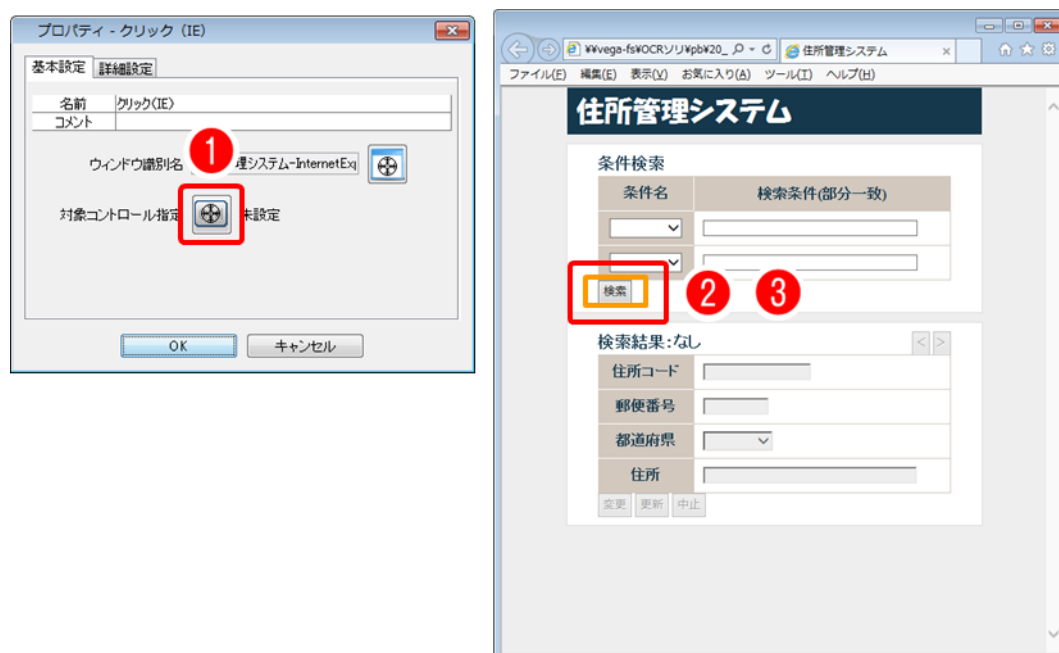
プロパティ画面が表示されます。



3. ①プロパティ画面で[ウィンドウ識別名]横の  をクリック
 ②マウスポインタを、値を設定する住所管理システム画面上に移動
 ③住所管理システム画面がオレンジの枠で囲まれたら、住所管理システムの画面をクリック
- 住所管理システムが記録対象アプリケーションに設定されます。
 [対象コントロール指定]横が[未設定]に変わります。

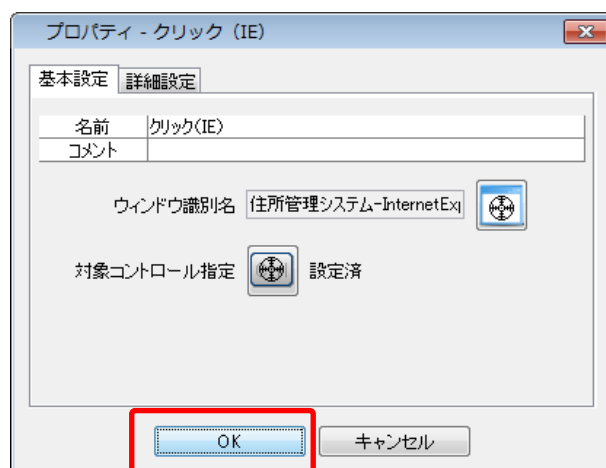


4. ①プロパティ画面で[対象コントロール指定]横の  をクリック
 ②マウスポインタを、値を設定する住所管理システム画面上に移動
 ③[検索]ボタンをクリック
- 選択した[検索]ボタンがオレンジの枠で囲まれます。
 [対象コントロール指定]横が[未設定]から[設定済]に変わります。



5. [OK]をクリック

検索画面で[検索]ボタンをクリックする作業が設定されます。

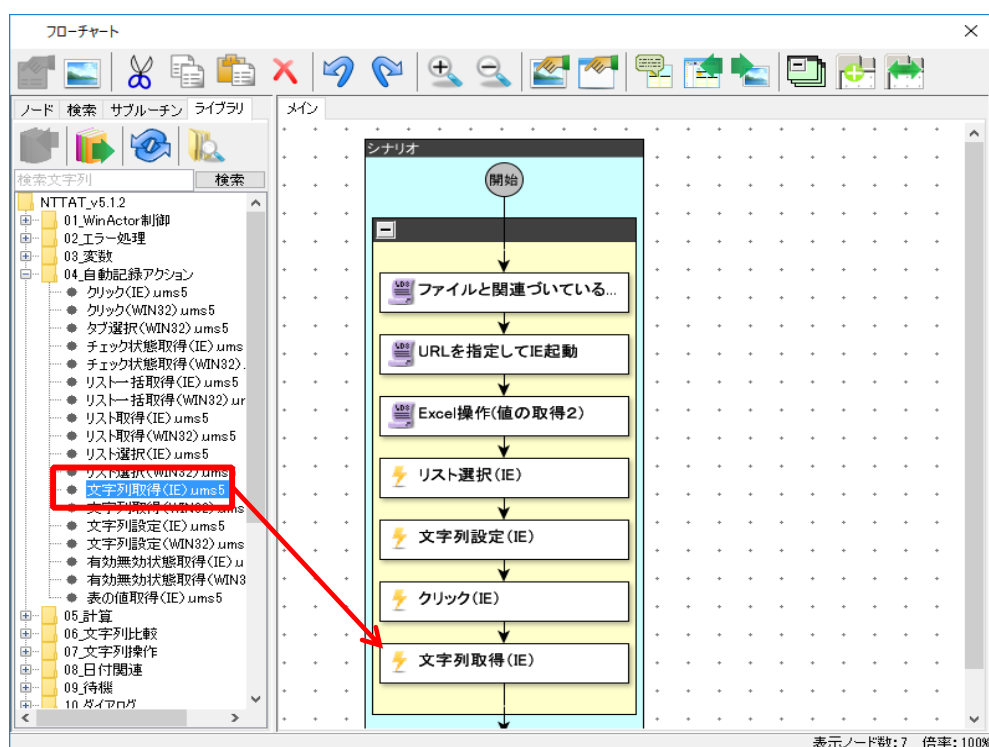


⑥検索結果画面の検索結果をコピーする作業を設定する

検索結果画面が表示されたら、表示された検索結果のうち[住所]の情報をコピーする作業を設定します。

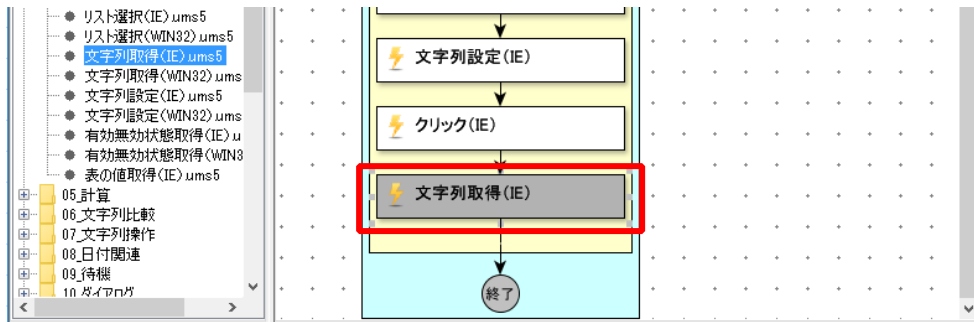
1. フローチャート画面のパレットエリアの[ライブラリ]タブー[04_自動記録アクション]ー[文字列取得(IE)]をシナリオの[クリック(IE)]の下へドラッグ&ドロップ

シナリオに[文字列取得(IE)]が配置されます。



2. [文字列取得(IE)]をダブルクリック

プロパティ画面が表示されます。



3. ①プロパティ画面で[ウィンドウ識別名]横の をクリック


②マウスポインタを、文字を取得する住所管理システム画面上に移動

③住所管理システム画面がオレンジの枠で囲まれたら、住所管理システム画面をクリック

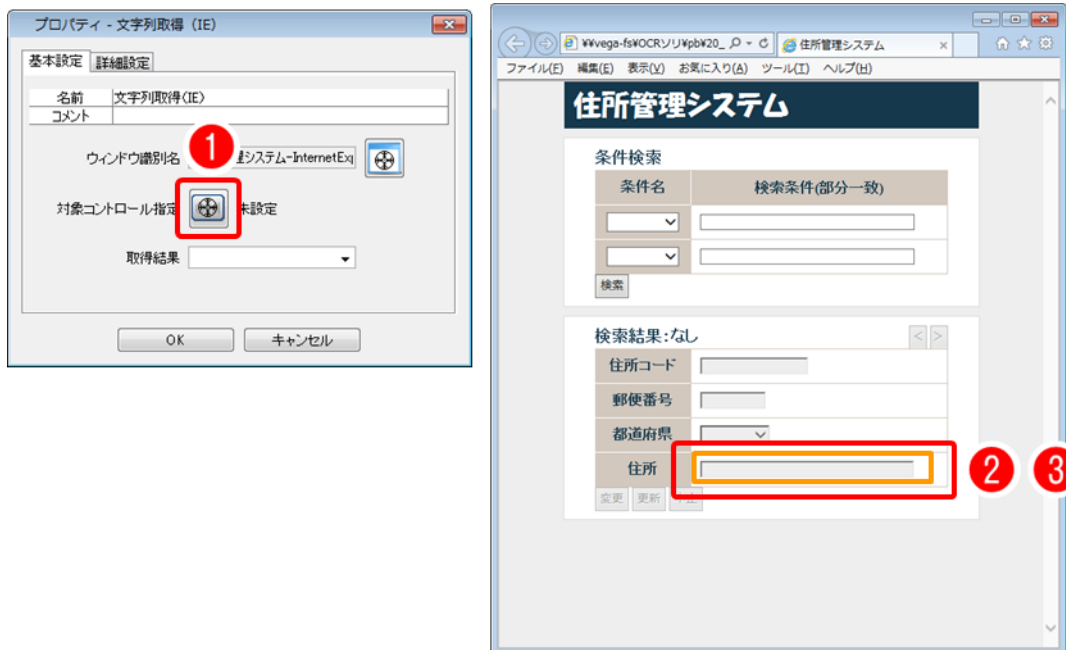
住所管理システムが記録対象アプリケーションに設定されます。

[対象コントロール指定]横が[未設定]に変わります。



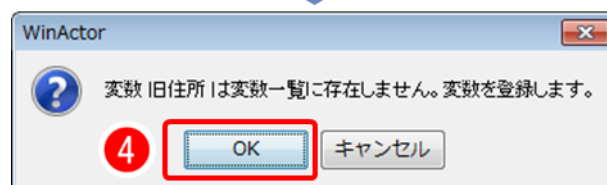
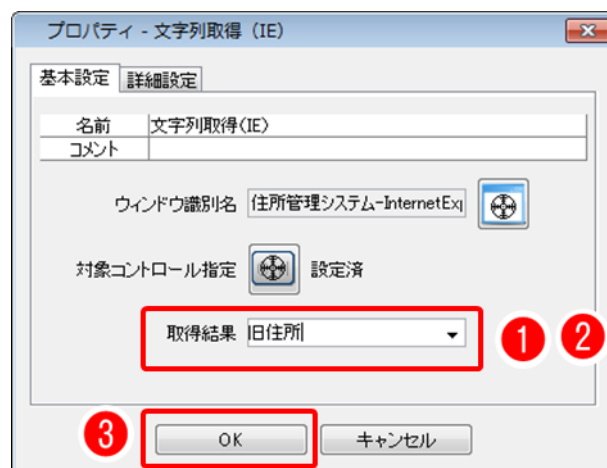
4. ①プロパティ画面で[対象コントロール指定]の  をクリック
 ②マウスポインタを、文字を取得する住所管理システム画面上に移動
 ③[住所]のテキストボックスをクリック

選択したテキストボックスがオレンジの枠で囲まれます。
 [対象コントロール指定]横が[未設定]から[設定済]に変わります。



5. ①[取得結果]のプルダウンをクリック
 ②[*]を選択—変数名[旧住所]を入力
 ③[OK]をクリック
 ④登録確認のポップアップで[OK]をクリック

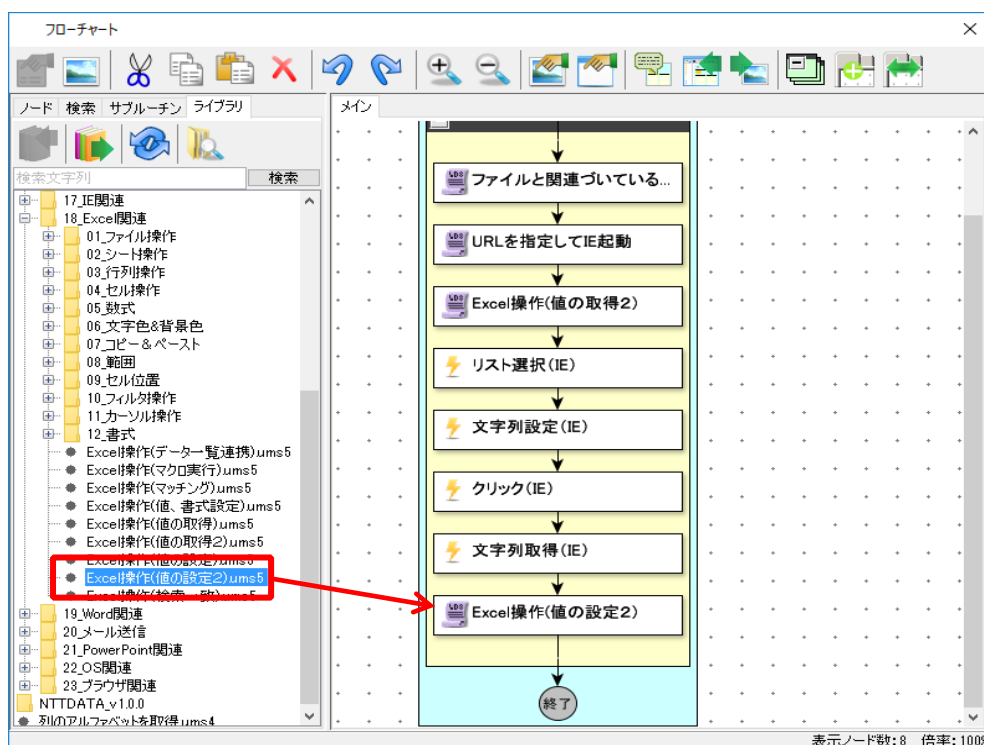
[住所]欄から取得した文字列を、変数[旧住所]に格納する作業が設定されます。
 変数一覧画面に追加した変数名が表示されます。



⑦コピーした値を Excel にペーストする作業を設定する

住所管理システムの検索結果からコピーした値を、Excel ファイルにペーストする作業を設定します。
変数[旧住所]に格納した値を、開いている Excel リスト・シートの「旧住所」(E2 セル)に設定する方法を例に説明します。

1. フローチャート画面のパレットエリアの[ライブラリ]タブー[18_Excel 関連]ー
[Excel 操作(値の設定 2)]をシナリオの[文字列取得(IE)]の下ヘドラッグ&ドロップ
シナリオに[Excel 操作(値の設定 2)]が配置されます。

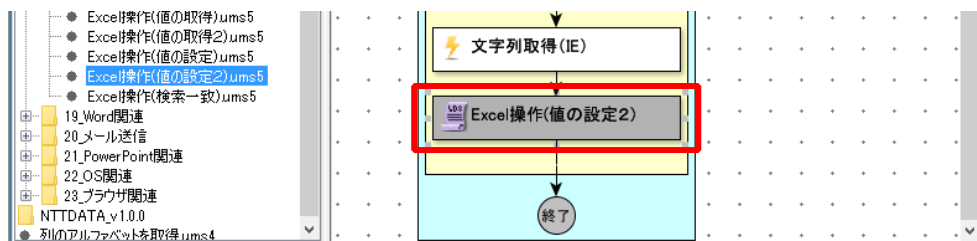


NOTE

- 取得した値とは
変数[旧住所] : 「⑥検索結果画面の検索結果をコピーする作業を設定」(p.29)で設定
- Excel リストとは
変数[Excel リストの絶対パス] : 「①Excel のファイルを開く作業を設定する」(p.16)で設定
- シートとは
変数[Excel リストのシート名] : 「③Excel のデータをコピーする作業を設定する」(p.20)で設定

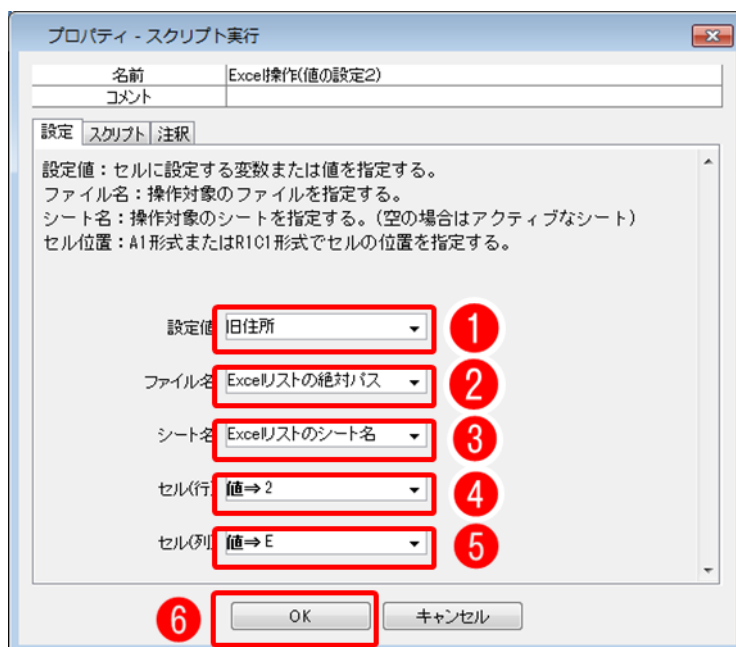
2. [Excel 操作(値の設定2)]をダブルクリック

プロパティ画面が表示されます。



3. ①[設定値]のプルダウンで変数名[旧住所]を選択
- ②[ファイル名]のプルダウンで変数名[Excel リストの絶対パス]を選択
- ③[シート名]のプルダウンをクリックー[*]を選択ー変数名[Excel リストのシート名]を選択
- ④[セル(行)]のプルダウンをクリックー[値⇒]を選択ー「2(半角数字)」を入力
- ⑤[セル(列)]のプルダウンをクリックー[値⇒]を選択ー「E(半角英字)」を入力
- ⑥[OK]をクリック

Excel リストの E2 セルに変数[旧住所]の値をに貼り付ける作業が設定されます。

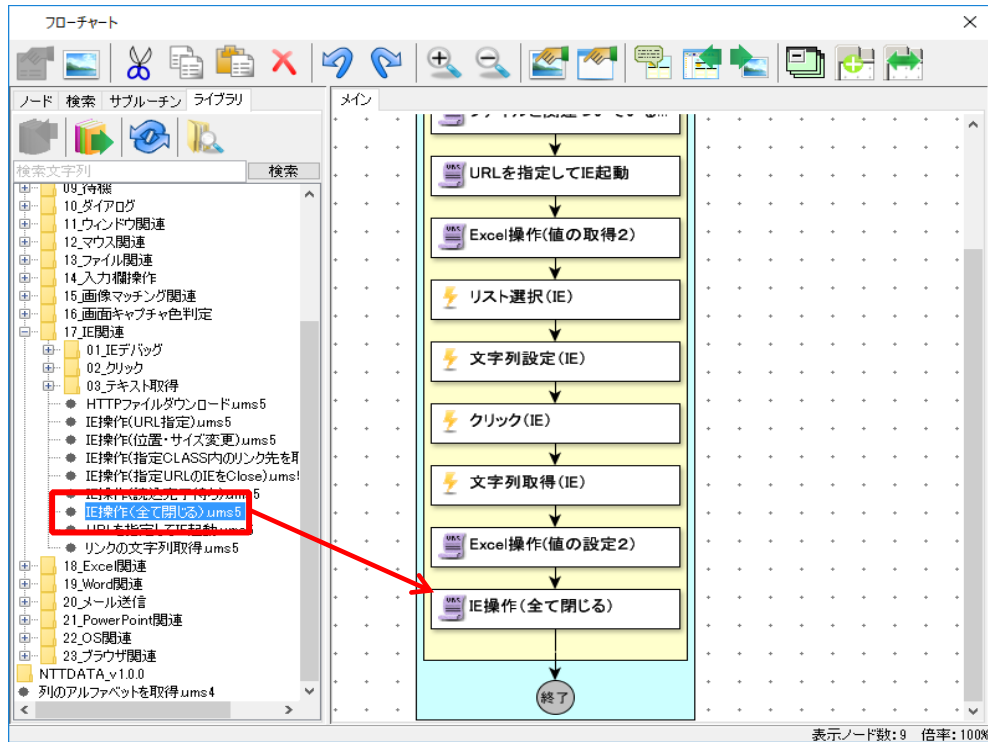


⑧システムを終了させる作業を設定する

IE を閉じて、住所管理システムを終了させる作業を設定します。

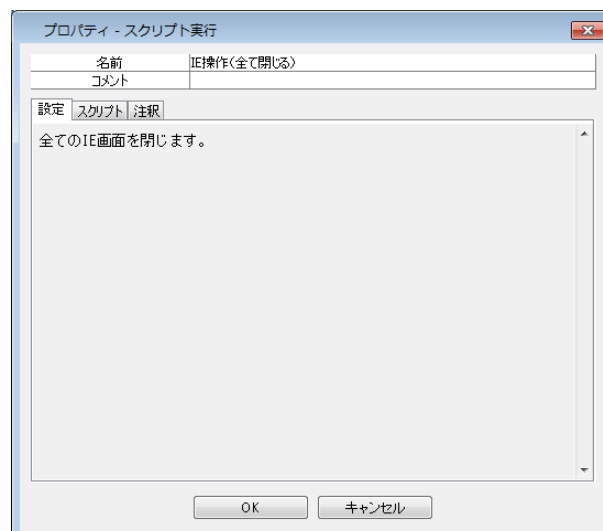
1. フローチャート画面のパレットエリアの[ライブラリ]タブ-[17_IE 関連]-[IE 操作(全て閉じる)]をシナリオの[Excel 操作(値の設定2)]の下ヘドラッグ&ドロップ

シナリオに[IE 操作(全て閉じる)]が配置されます。



NOTE

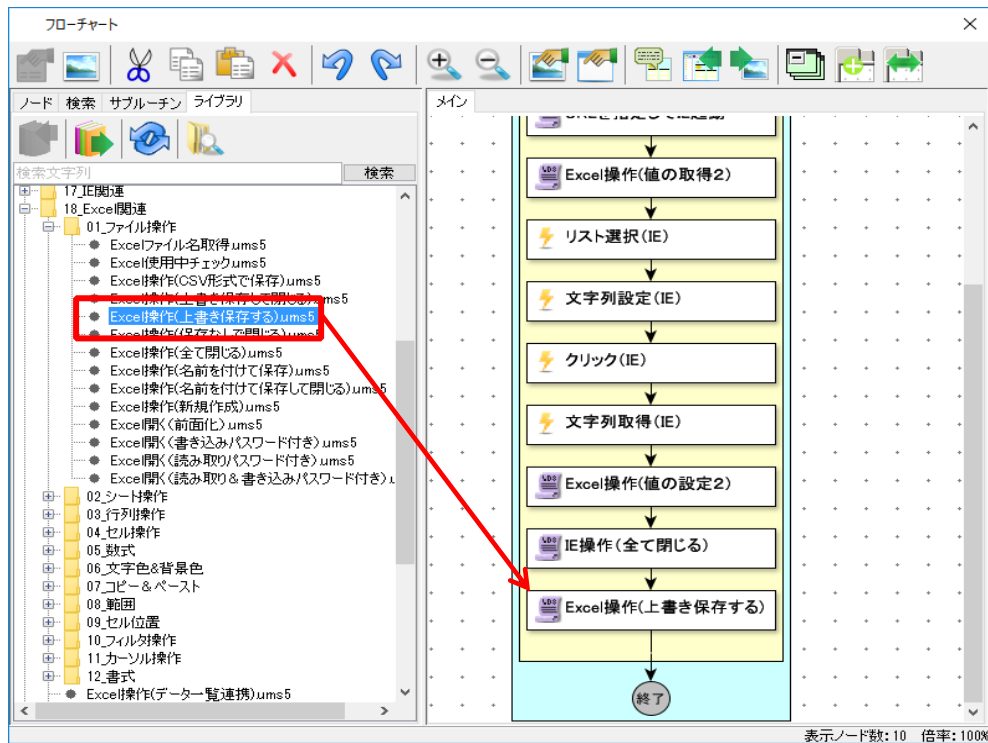
- ・「②システムの検索画面を表示する作業を設定する」(p.18)で html ファイルの絶対パスを指定して IE を起動している場合は、[IE 操作(全て閉じる)]を使用します。ウェブサイトの URL を指定している場合は、[IE 操作(指定 URL の IE を Close)]でも操作できます。
- ・[IE 操作(全て閉じる)]では、プロパティ画面の登録操作はありません。



⑨Excel ファイルを上書き保存して閉じる作業を設定する

□1:Excel ファイルを上書き保存する作業を設定する

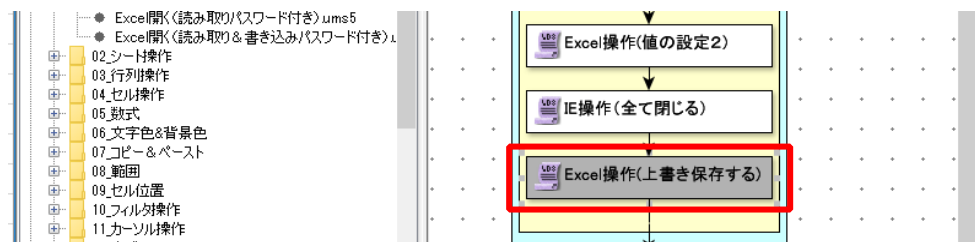
1. フローチャート画面のパレットエリアの[ライブラリ]タブ→[18_Excel 関連]→[01_ファイル操作]→[Excel 操作(上書き保存する)]をシナリオの[IE 操作(全て閉じる)]の下ヘドラッグ&ドロップ
シナリオに[Excel 操作(上書き保存する)]が配置されます。



表示ノード数: 10 倍率: 100%

2. [Excel 操作(上書き保存する)]をダブルクリック

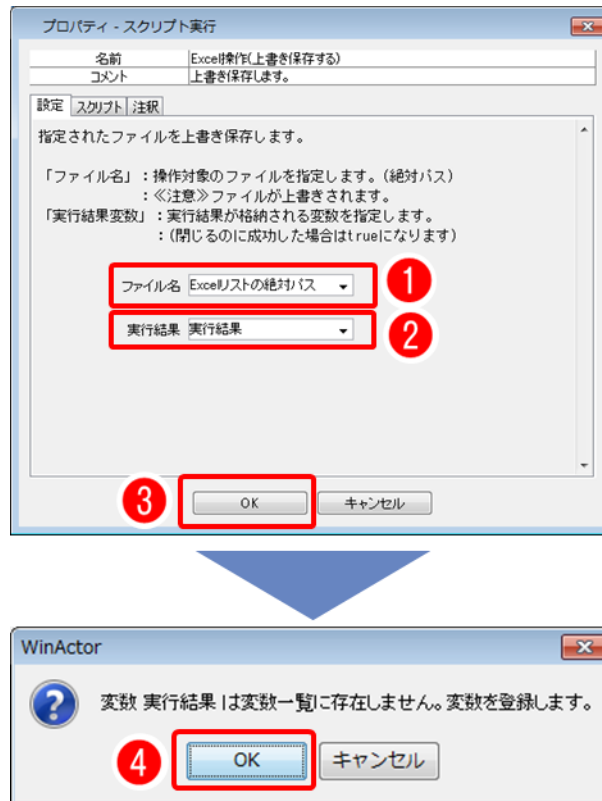
プロパティ画面が表示されます。



3. ①[ファイル名]のプルダウンで変数名[Excel リストの絶対パス]を選択
- ②[実行結果]のプルダウンをクリック[*]を選択ー変数名[実行結果]を入力
- ③[OK]をクリック
- ④登録確認のポップアップで[OK]をクリック

変数[Excel リストの絶対パス]に指定されたファイル(「[①Excel のファイルを開く作業を設定する](#)」(p.16)で設定)を上書き保存する作業が設定されます。

上書き保存の結果を格納する変数が新規作成され、変数一覧画面に表示されます。

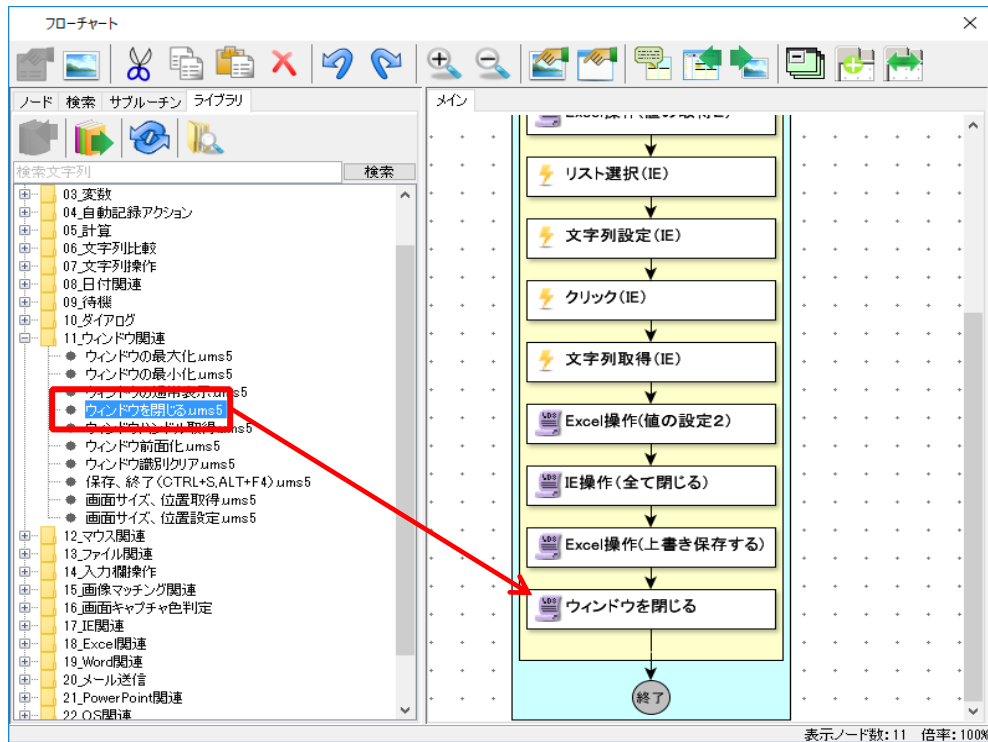


NOTE

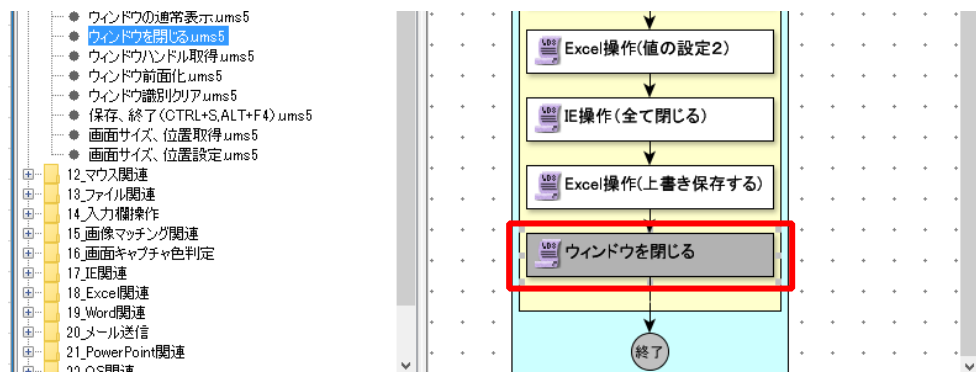
- ・ 新規作成した変数[実行結果]は、初期値の設定などは不要です。


□2: Excel ファイルを閉じる作業を設定する

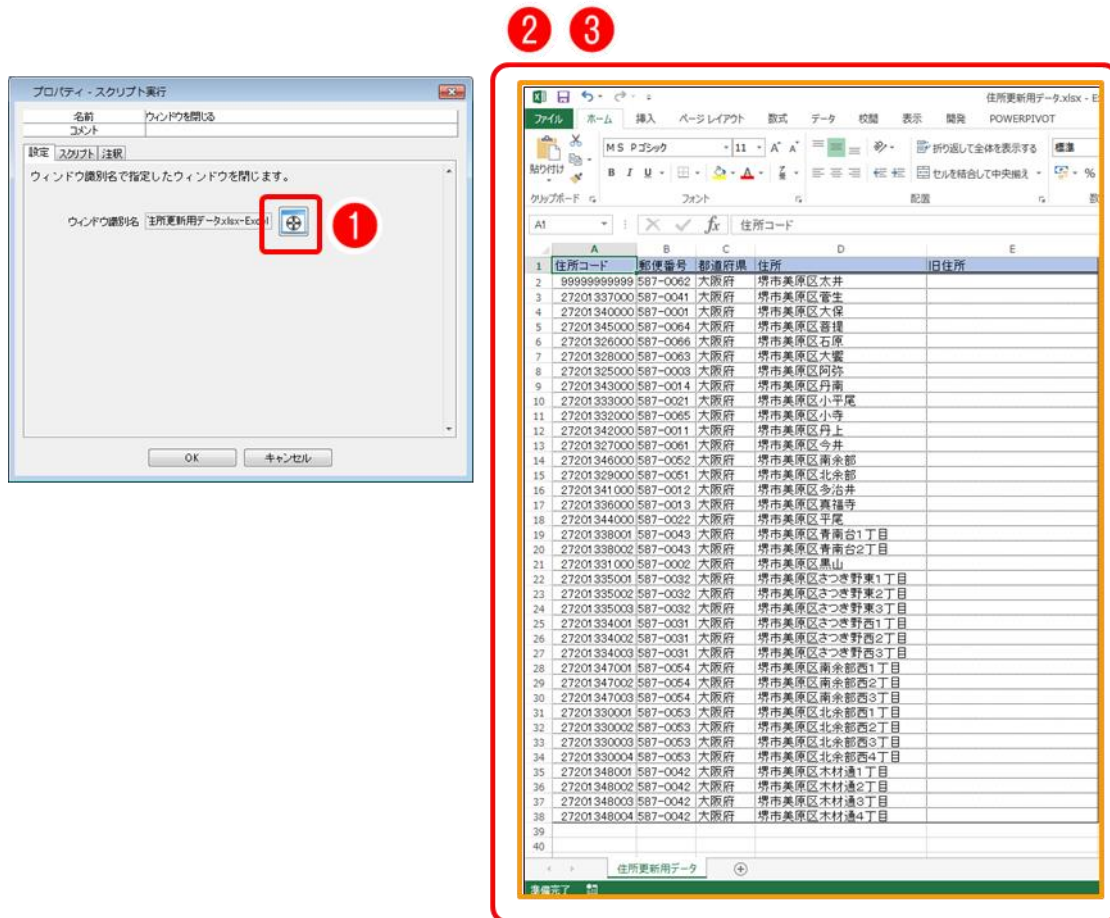
1. フローチャート画面のパレットエリアの[ライブラリ]タブー[11_ウィンドウ関連]ー[ウィンドウを閉じる]をシナリオの[Excel 操作(上書き保存する)]の下ヘドラッグ&ドロップ
シナリオに[ウィンドウを閉じる]が配置されます。



2. [ウィンドウを閉じる]をダブルクリック
プロパティ画面が表示されます。



3. ①プロパティ画面で[ウィンドウ識別名]横の  をクリック
 ②マウスポインタを、ウィンドウを閉じるアプリケーション画面上に移動
 ③住所更新用データ画面がオレンジの枠で囲まれたら、住所更新用データ画面をクリック
 住所更新用データファイルが操作対象アプリケーションに設定されます。



4. [OK]をクリック
 指定したファイルを閉じるように設定されます。

➡ 以上で、データを 1 件処理するシナリオは完成です。次に進みます。

Step2:作成したシナリオを実行・修正する

データを 1 件処理する手順のシナリオが完成したら、シナリオを実行し、意図したとおりに動作するか確認します。意図と異なる動作をした場合は、シナリオを修正します。

①作成したシナリオを実行する

1. メイン画面の実行ボタンをクリックして作成したシナリオを実行する
2. 意図したとおりに動作しない場合は、シナリオの問題点を確認する
詳しくは「[Step1:シナリオの問題点を確認する](#)」(p.61)を参照してください。

②シナリオの問題点を修正する

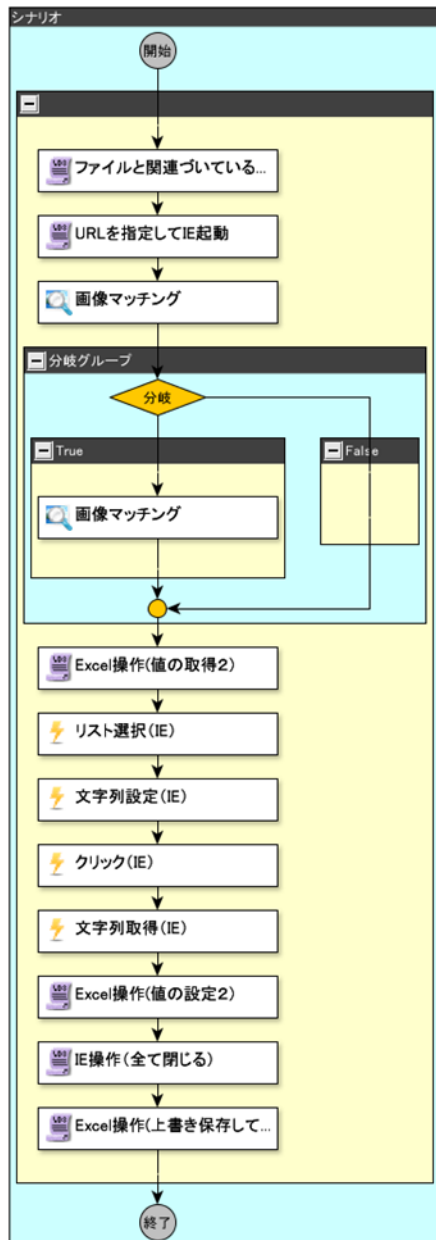
ノードのプロパティを修正する、ノードを置き換える、分岐や補足手順を追加するなどして、シナリオの問題点を修正します。

シナリオの修正方法について、詳しくは「[Step2:シナリオを修正する](#)」(p.62)を参照してください。

➡ シナリオが意図したとおりに動作したら、次に進みます。

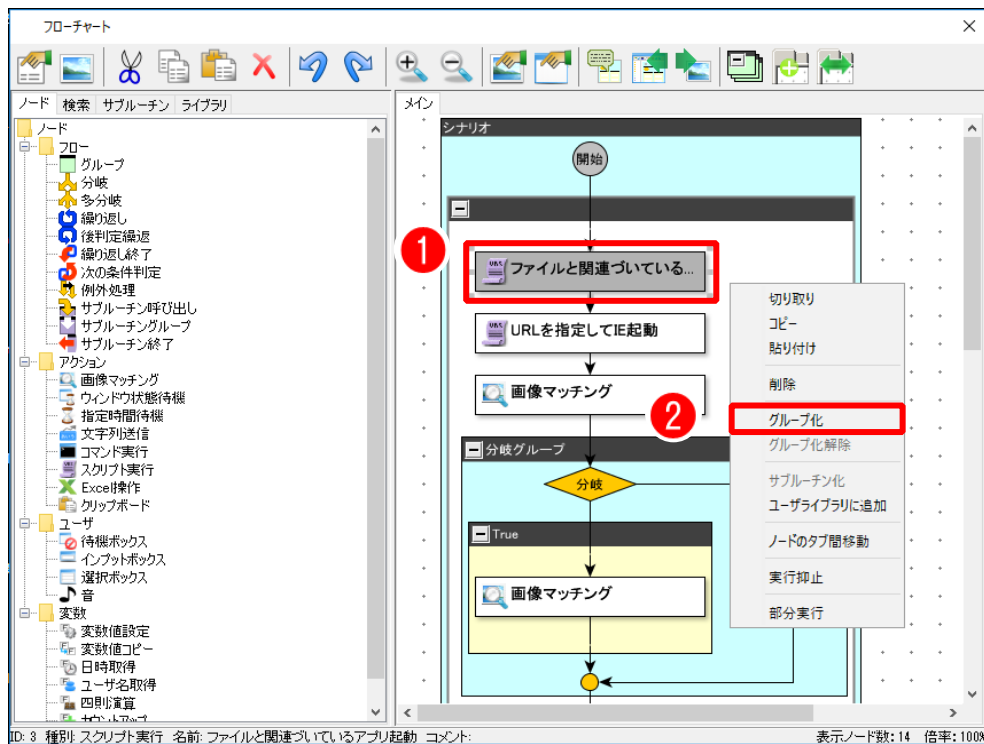
Step3:ノードをグループ化して整理する

ここまでで、1 件のデータを処理するシナリオが完成しました。
 しかし、このままだと、それぞれの作業がシナリオのどの部分で定義されているのかよくわかりません。
 そこで、ノードをグループ化し、グループ名を作業名に変更します。

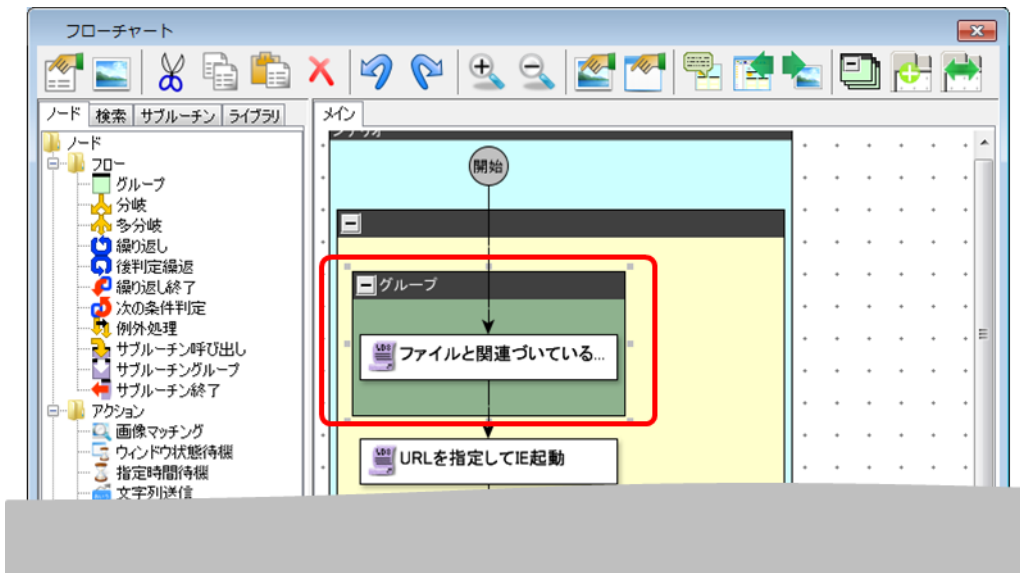


1. ①フローチャート表示エリアで、Ctrl キーを押しながらグループ化するノードをクリック
- ②選択状態で右クリック→[グループ化]をクリック

ノードがグループ化されます。タイトルバーに[グループ]が表示されます。

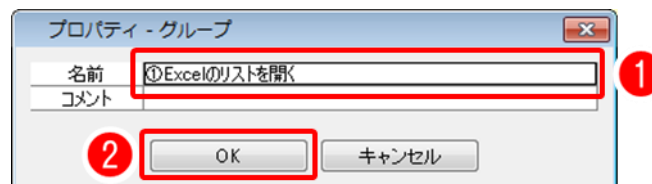


2. 作成されたグループのエリア内をダブルクリック
- プロパティ画面が表示されます。

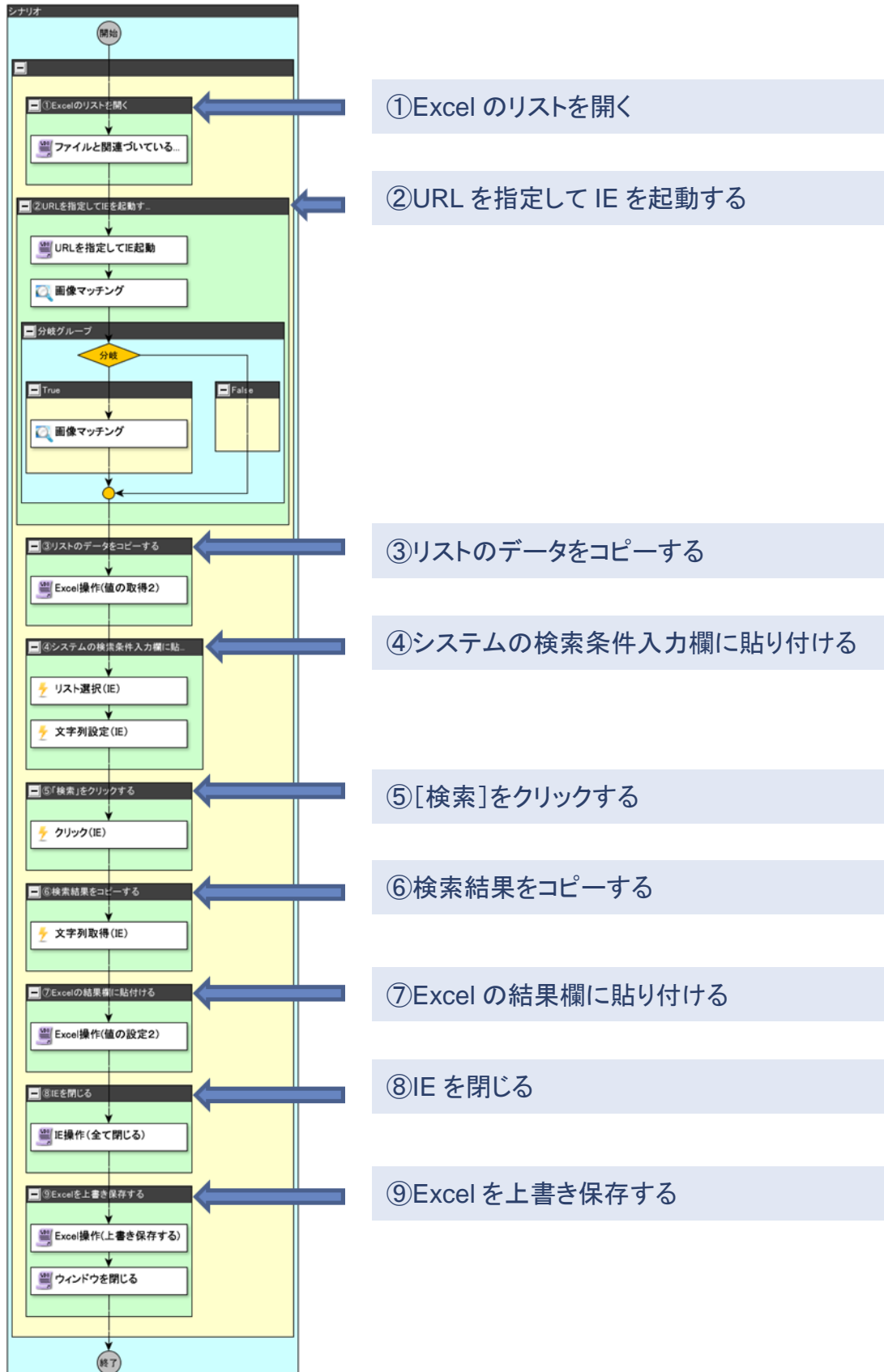


3. ①[名前]に作業内容がわかる文字列を入力
- ②[OK]をクリック

タイトルバーのグループ名が変更されます。



4. 手順 1～3 を繰り返す



➡ すべての作業をグループ化したら、次に進みます。

Step4:データの最後まで処理を繰り返す設定を追加する

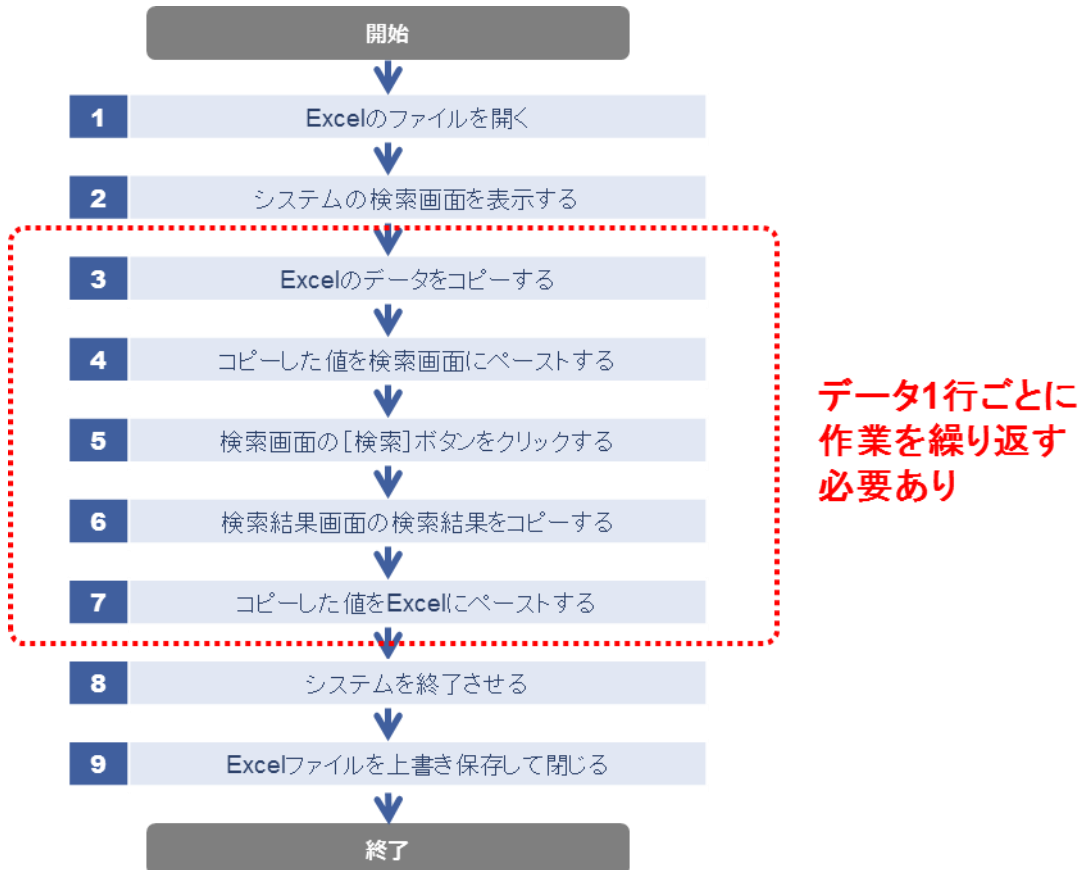
Step3 までで、1 件のデータを処理する作業をシナリオ化し、整理できました。

次に、Excel(住所更新用データ)の最終行まで、1 行ずつ処理をしていくように、繰り返しの設定を追加します。

①どこからどこまでを繰り返すか検討する

作業フローを見直し、どこからどこまでの作業を繰り返す必要があるか検討します。

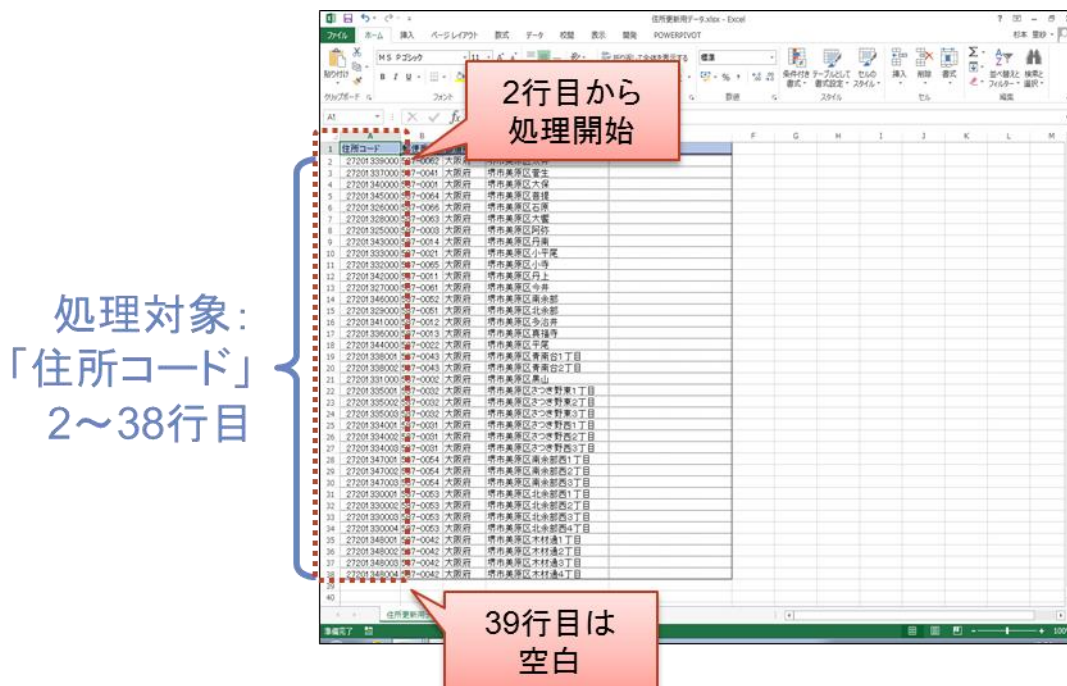
本章の例では、③～⑦の作業を繰り返す必要があります。



②シナリオに繰り返しの設定を追加する

ノード「繰り返し」を使用して作成する方法を記載します。


「住所コード」欄(A 列)の値を 2 行目から順に読んで繰り返し処理していき、値が空白になったら繰り返しを終了する、というシナリオにしていきます。



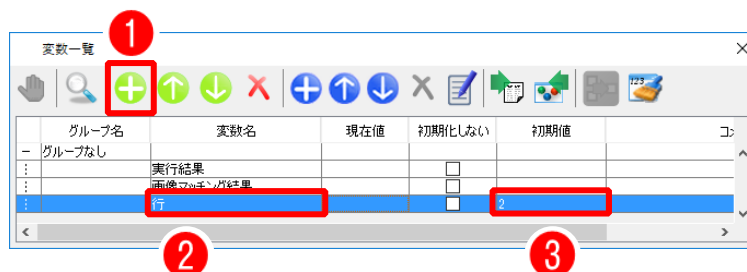
□1:繰り返しと変数を設定する

シナリオでは、Excel リストの「住所コード」欄(A 列)の、変数「行」に指定された行のセルの値をコピーして、作業を繰り返す設定をします。

まずは変数「行」を作成して初期値(処理を開始する行数)を指定します。また、ノード「繰り返し」を配置し、ノード内の作業を単純に繰り返す設定をします。

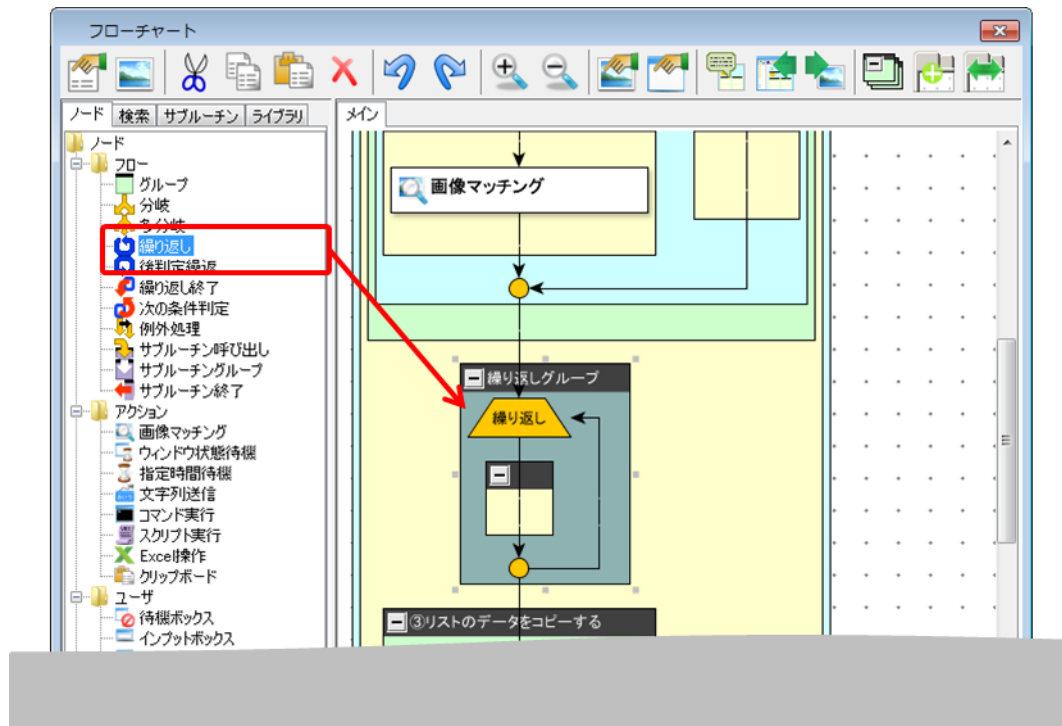
1. ①[変数一覧]画面で  をクリック
- ②追加された行の[変数名]に[行]を入力
- ③[初期値]に「2(半角数字)」を入力

変数一覧に変数[行]が追加され、初期値が[2]に設定されます。



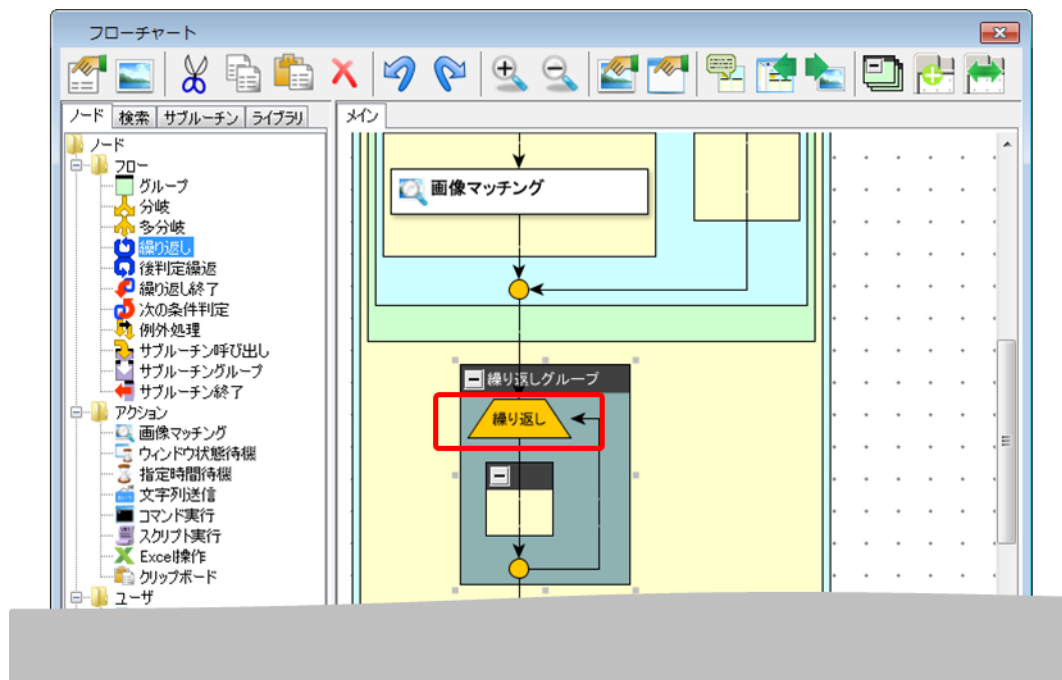
2. フローチャート画面のパレットエリアの[ノード]タブー[フロー]ー[繰り返し]を、シナリオのグループ[③リストのデータをコピーする]の上へドラッグ&ドロップ

シナリオに[繰り返しグループ]が配置されます。



3. [繰り返しグループ]の[繰り返し]をダブルクリック

プロパティ画面が表示されます。



4. ①プロパティ画面で[条件式設定]をクリック

②条件式画面で何も設定せず、[OK]をクリック

③プロパティ画面に戻ったら[OK]をクリック

繰り返しグループ内の作業を単純に繰り返すように設定されます。

❗ 重要

- この手順は、必ず実施してください。手順をスキップすると、エラーが発生します。

📌 NOTE

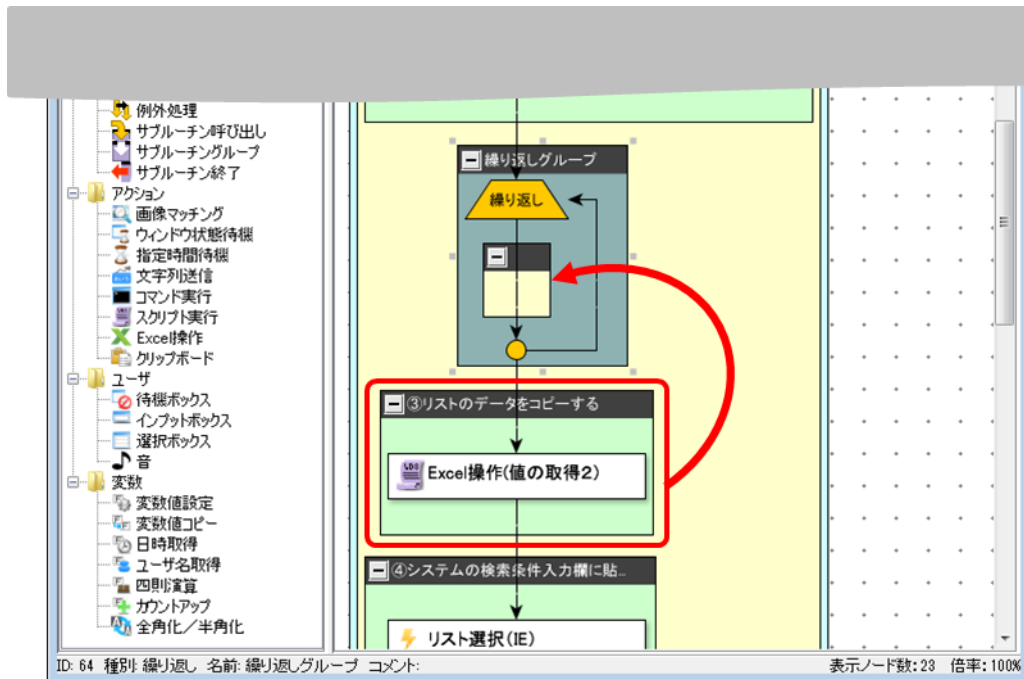
- ノード「繰り返し」の[条件式設定]画面で、[値 1][値 2]欄を[値⇒]だけの状態(具体的な値が設定されていない状態)にしておくと、繰り返しグループ内の作業が単純に繰り返されます。

□2:「住所コード」欄から値を取得する時の設定を変更する

「③Excel のデータをコピーする作業を設定する」(p.20)では、先頭データ(A2 セル)を指定して値を取得するように設定していました。ここでは、1 行ずつ処理を繰り返すために、変数「行」の値を参照して値を取得するように設定を変更します。

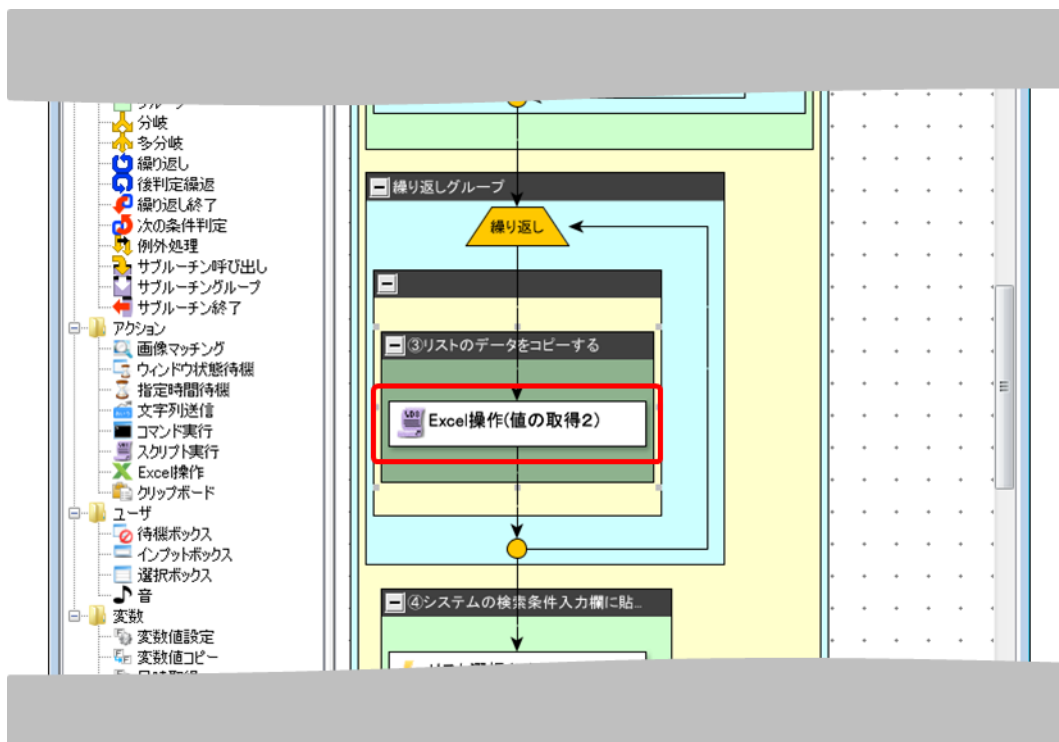
1. シナリオのグループ[③リストのデータをコピーする]を[繰り返しグループ]の中にドラッグ&ドロップ

[③リストのデータをコピーする]が[繰り返しグループ]に配置されます。



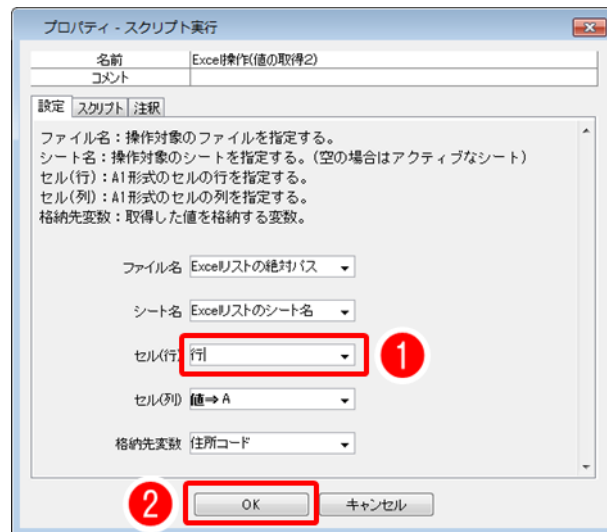
2. [③リストのデータをコピーする]の[Excel 操作(値の取得 2)]をダブルクリック

プロパティ画面が表示されます。



3. ①プロパティ画面で[セル(行)]のプルダウンで変数名[行]を選択 ②[OK]をクリック

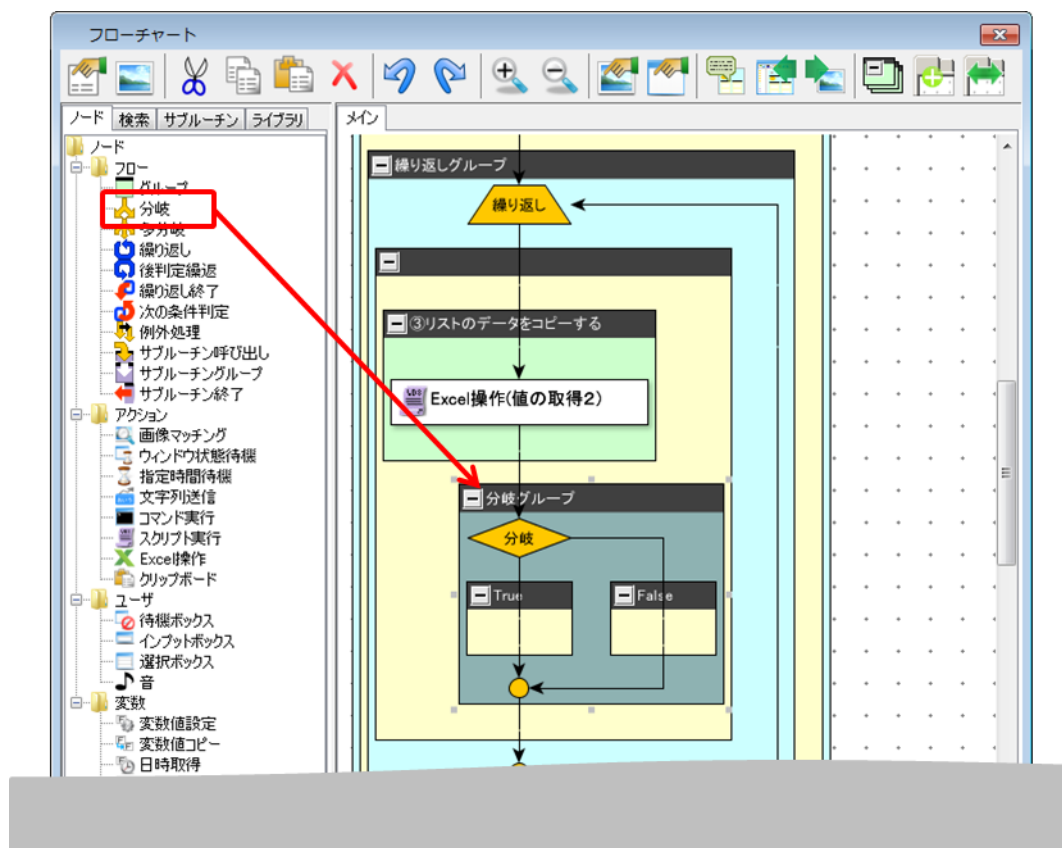
「住所コード」欄(A 列)の、変数「行」セルから値を取得するように、設定が変更されます。



□3:「住所コード」欄が空白かどうか判断する作業を追加する

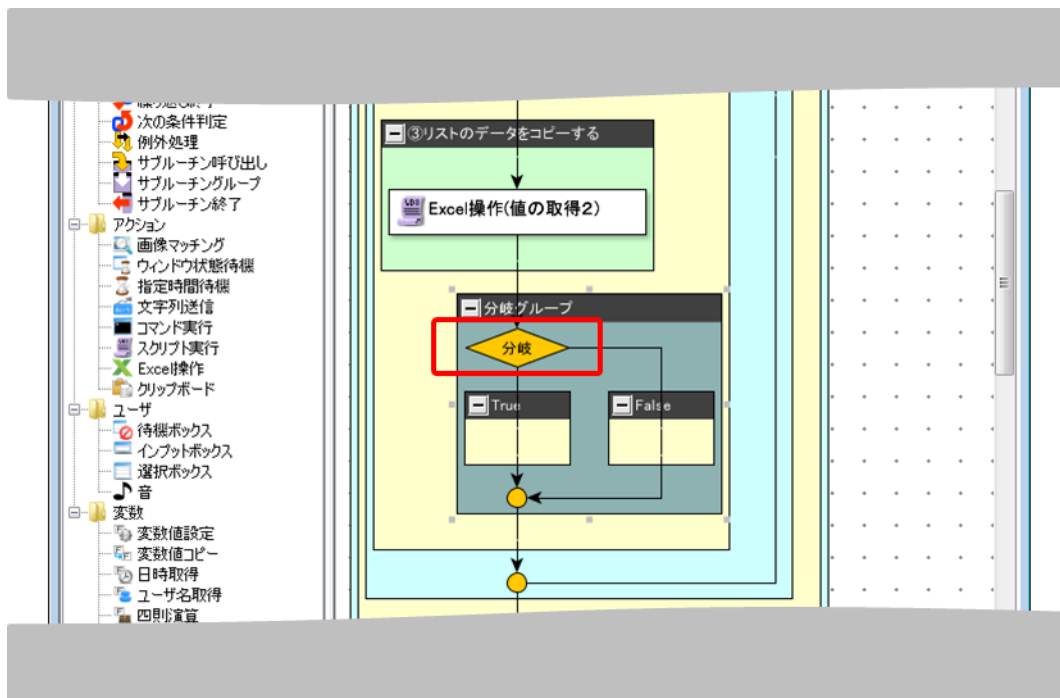
Excel の「住所コード」欄が空白かどうかの判断をするために、ノード「分岐」を設定します。

1. フローチャート画面のパレットエリアの[ノード]タブ-[フロー]-[分岐]を[繰り返しグループ]の[③リストのデータをコピーする]の下にドラッグ&ドロップ
[分岐]が配置されます



2. [分岐グループ]の[分岐]をダブルクリック

プロパティ画面が表示されます。



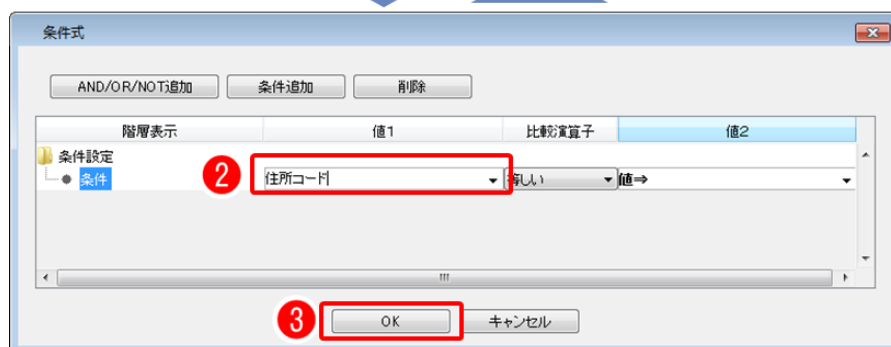
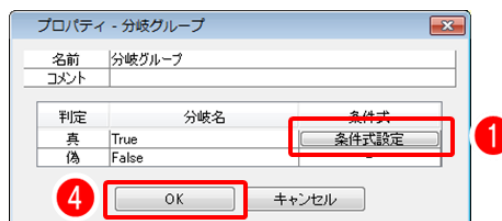
3. ①プロパティ画面で[条件式設定]をクリック

②条件式画面で[値1]のプルダウンで変数名[住所コード]を選択

③[OK]をクリック

④プロパティ画面に戻ったら[OK]をクリック

変数「住所コード」の値が空欄の場合に「True」と判定する条件式が設定されます。



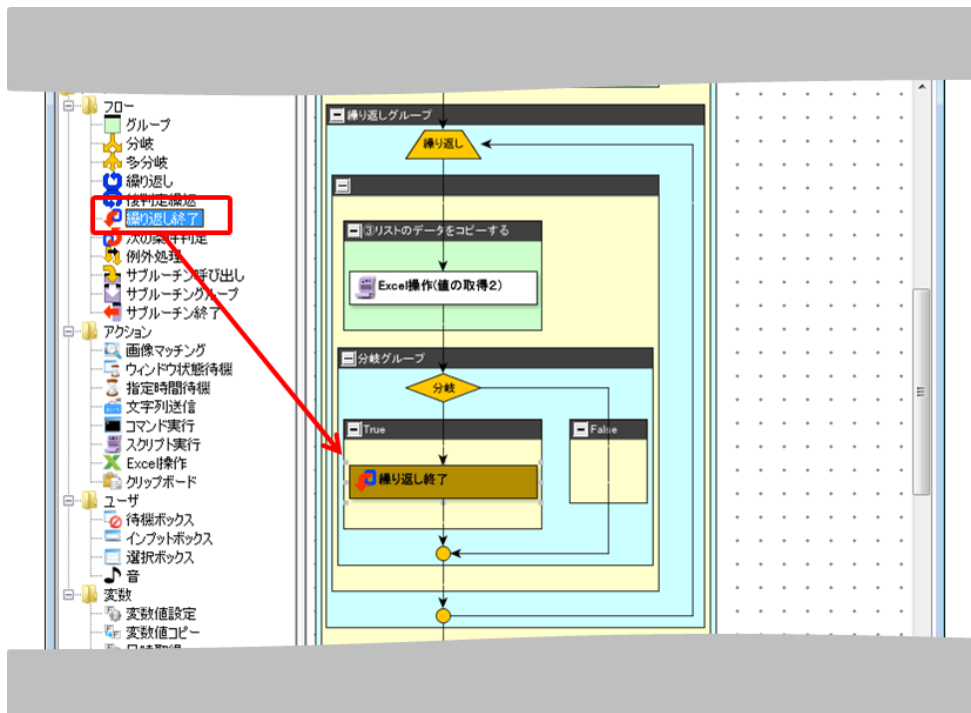
□4:「住所コード」欄が空白の場合と値がある場合、それぞれ何をするか設定する

「住所コード」欄が空白の場合(前の手順で追加したノード「分岐」で「True」と判定された場合)に、作業の繰り返しを終了して、次の作業(システムを終了してファイルを上書き保存)に進む設定を追加します。ノード「繰り返し終了」を使用します。

「住所コード」欄に値がある場合は、繰り返す作業を行うように、作成済みのグループを「False」(「住所コード」欄に値がある場合の分岐先)に移動します。また、「⑦コピーした値を Excel にペーストする作業を設定する」(p.32)では検索結果の値を「E2」セルに貼り付けるように設定しましたが、値を取得した「住所コード」欄と同じ行に検索結果貼り付けるように設定を変更します。

1. フローチャート画面のパレットエリアの[ノード]タブ-[フロー]-[繰り返し終了]を[分岐グループ]の[True]の中にドラッグ&ドロップ

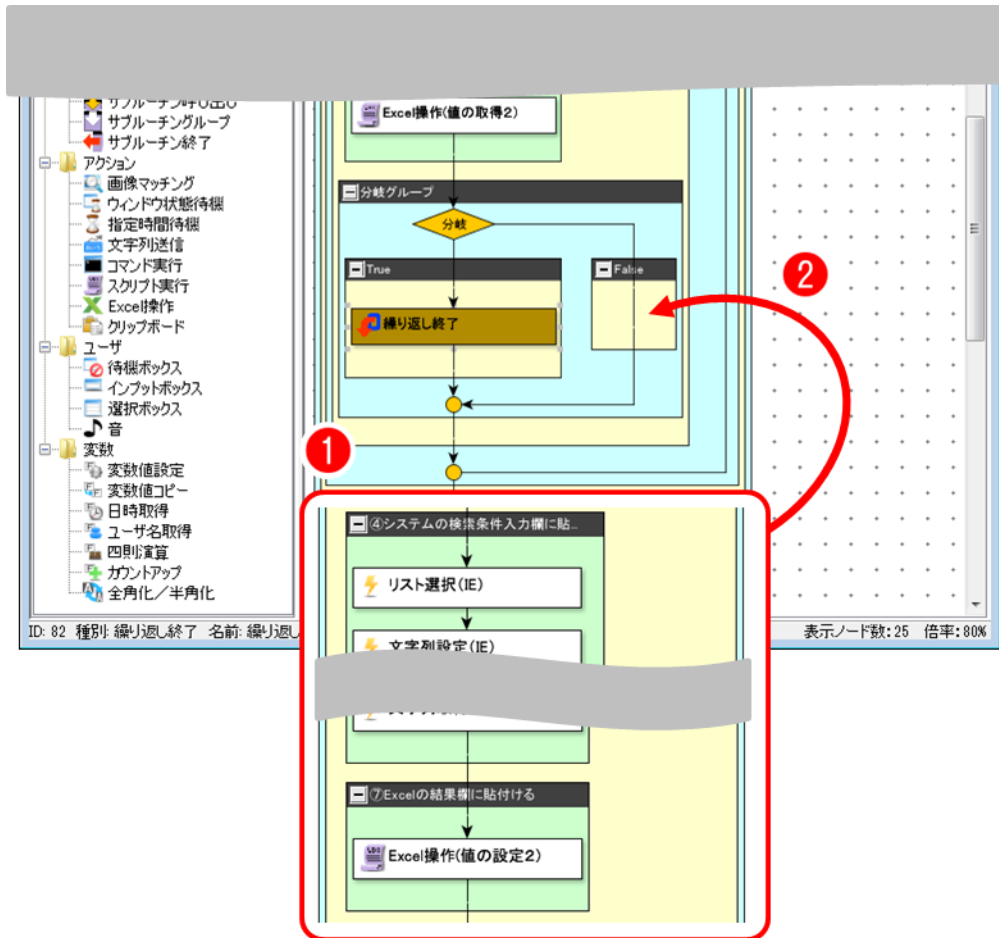
[繰り返し終了]が配置され、「True」の場合は繰り返しを終了して次の作業に進むように設定されます。



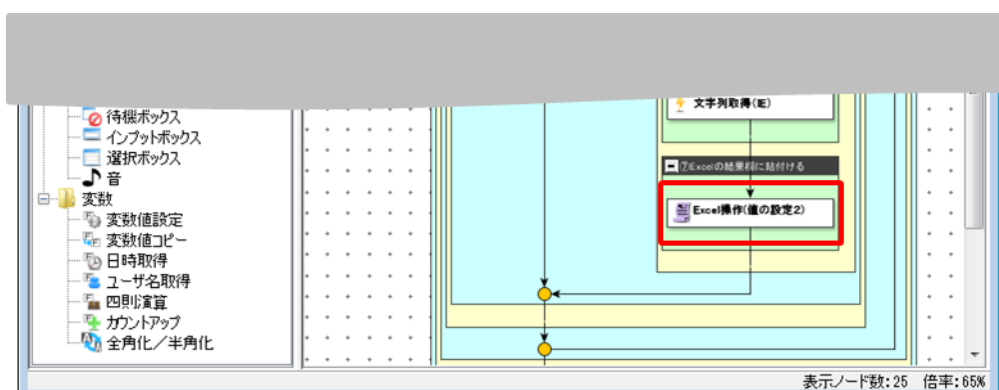
2. ①シナリオのグループ[④システムの検索条件入力欄に貼り付ける]～[⑦Excelの結果欄に貼り付ける]を選択

②[分岐グループ]の[False]の中にドラッグ&ドロップ

「住所コード」欄にデータがある場合に繰り返し実施する作業([④システムの検索条件入力欄に貼り付ける]～[⑦Excelの結果欄に貼り付ける])が、[False]に配置されます。

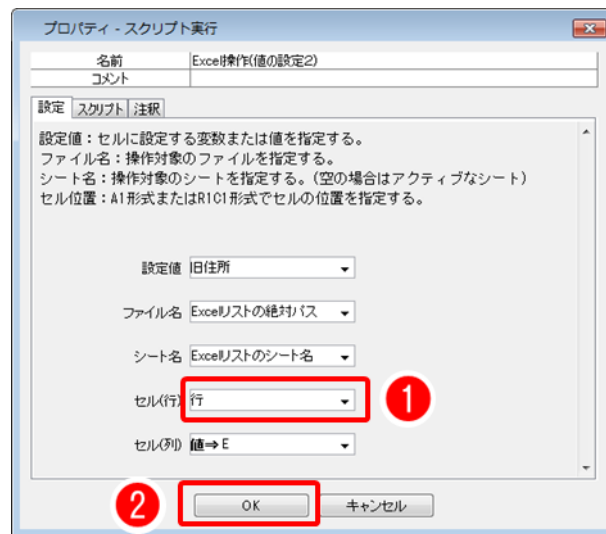


3. グループ[⑦Excelの結果欄に貼り付ける]の[Excel 操作(値の設定2)]をダブルクリック
プロパティ画面が表示されます。



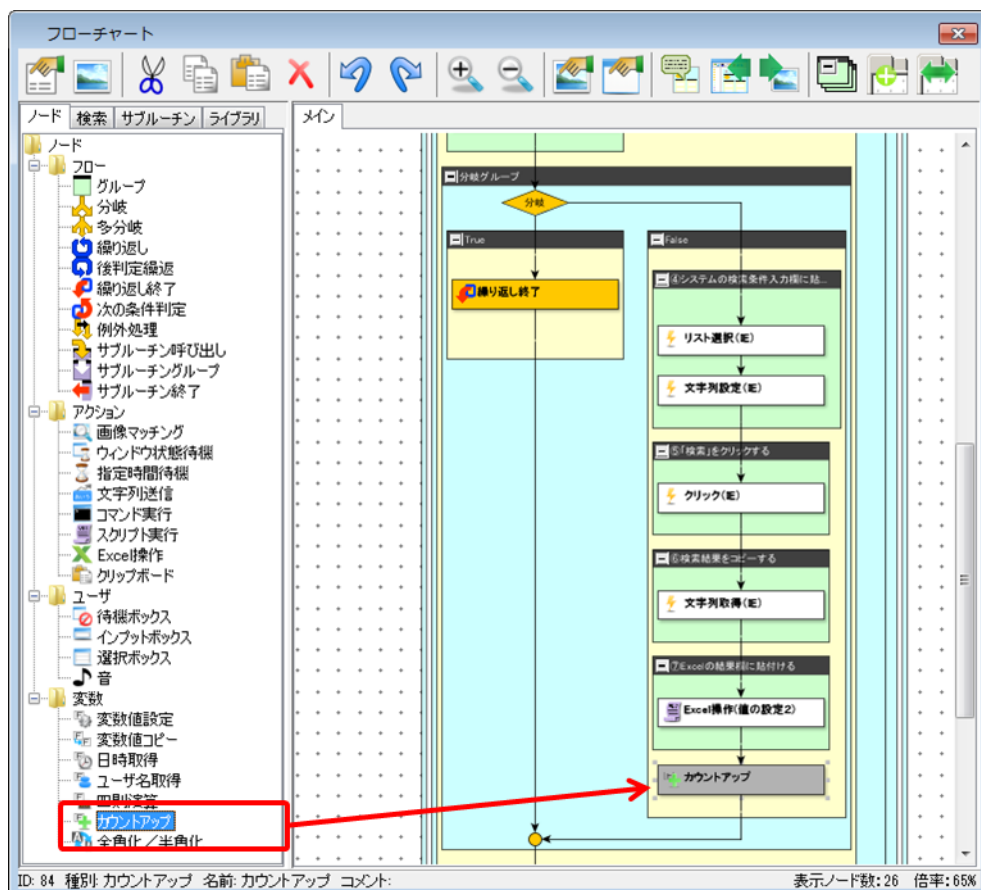
4. ①プロパティ画面で[セル(行)]のプルダウンで変数名[行]を選択 ②[OK]をクリック

「住所コード」欄の値を取得したのと同じ行の「旧住所」欄に検索結果を張り付けるように、プロパティが変更されます。



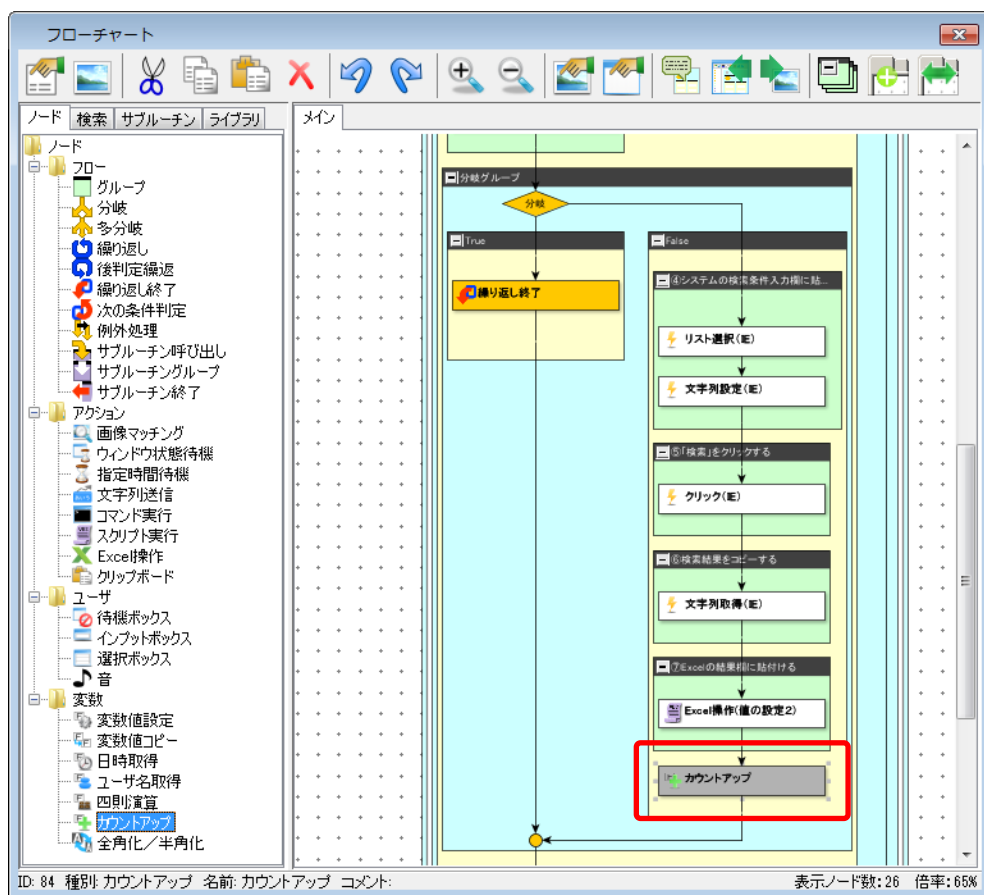
5: 作業する行を次の行に移動させる設定を追加する

1. フローチャート画面のパレットエリアの[ノード]タブ-[変数]-[カウントアップ]を[分岐グループ]の[False]の[⑦Excelの結果欄に貼り付ける]の下ヘドラッグ&ドロップ
[カウントアップ]が配置されます。



2. [カウントアップ]をダブルクリック

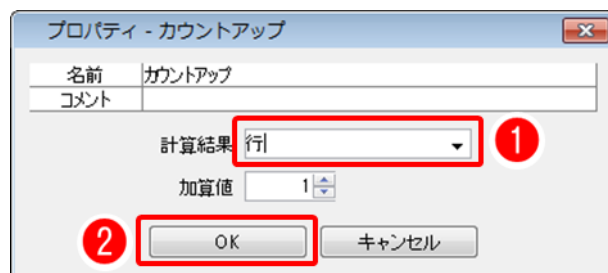
プロパティ画面が表示されます。



3. ①プロパティ画面で[計算結果]のプルダウンで変数名[行]を選択

②[OK]をクリック

[False]内の作業が終わったら変数「行」の値が 1 増える(作業を繰り返すと、次の行が処理される)ように設定されます。



□6:シナリオを実行して動作を確認する

シナリオを実行して意図したとおり動作するか確認し、エラーがあれば修正します。

詳しくは「[Step2: 作成したシナリオを実行・修正する](#)」(p.39)を参照してください。

➡ 繰り返しが意図したとおりに動作したら、次に進みます。

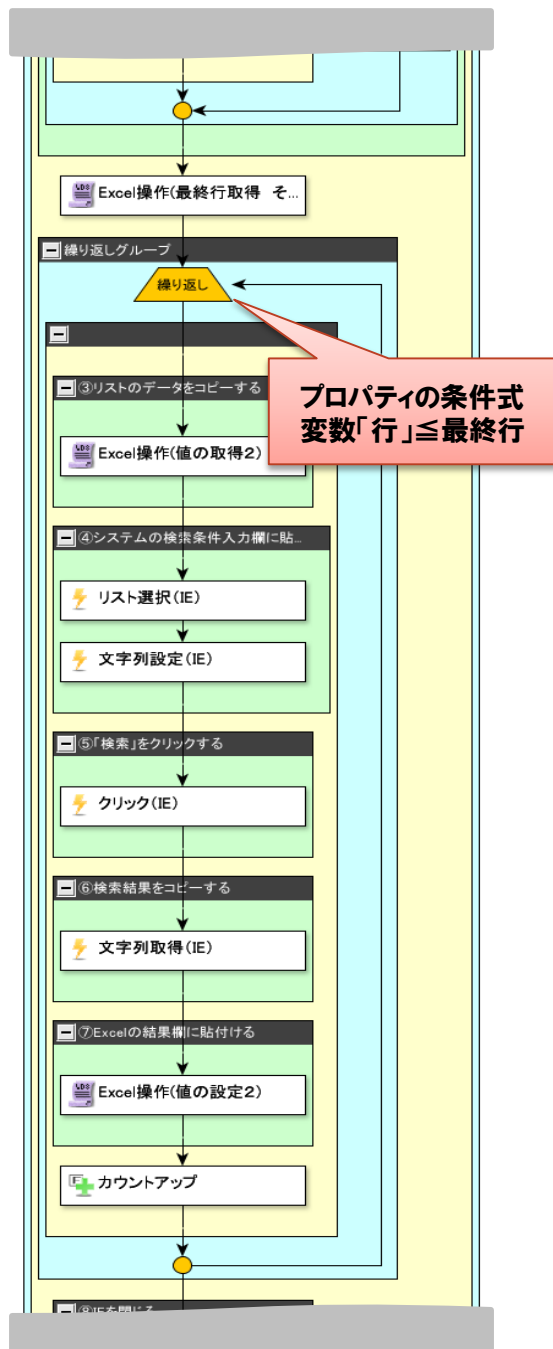
NOTE

- 作業を繰り返し実行させるには、ノード「分岐」を使って繰り返し終了条件を設定する他に、Excel の最終行まで繰り返し実行をするやり方もあります。

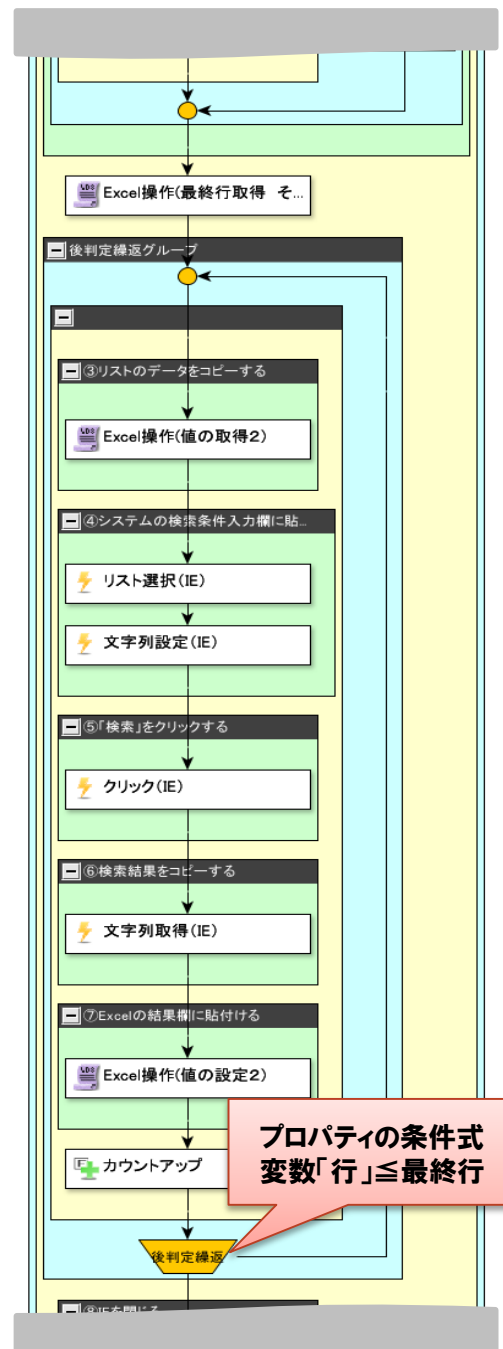
最終行まで繰り返し実行する場合のシナリオ

- 次のように設定します。
 - ①繰り返したい作業の前にライブラリ「Excel 操作(最終行取得)その1」～「Excel 操作(最終行取得)その4」の何れかを追加
 - ②①の下にノード「繰り返し」またはノード「後判定繰返」を追加
 - ③ノード「繰り返し」を使う場合、プロパティの条件式に「変数「行」≤最終行」を設定
 - ④グループの中に繰り返す作業をドラッグ&ドロップ

ノード「繰り返し」の場合



ノード「後判定繰返」の場合



Step5:検索結果がない場合の処理を追加する

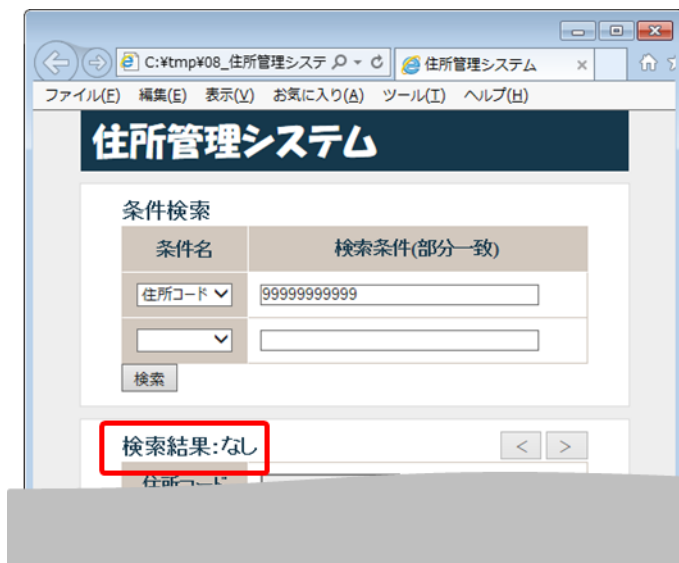
該当する検索結果がなかった場合、検索結果がなかったことを WinActor で判断し、[⑥検索結果をコピーする][⑦ Excel の結果欄に貼り付ける]を実行せずに次のデータの処理を行うように設定できます。

今回使用している住所管理システムでは、該当する検索結果がなかった場合には必ず[検索結果:なし]と表示されるので、その表示の有無をノード[画像マッチング]を使って判定するシナリオを作成します。

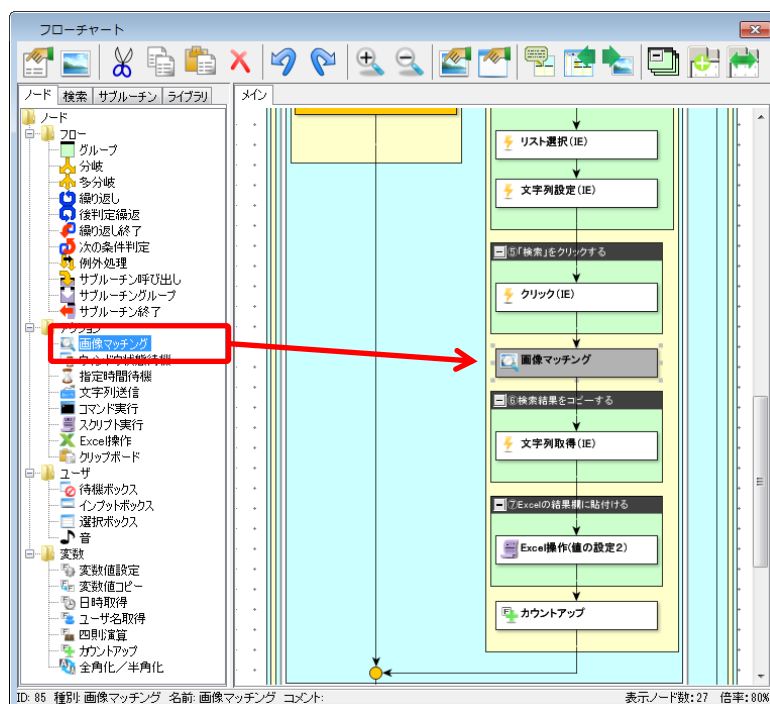
□ 1: 画像マッチングで検索結果の有無を判定する作業を追加する

1. 住所管理システムで、該当する検索結果がない場合の画面を表示する

ダミーの検索条件を入力して、該当する検索結果がなかった場合の固定メッセージ([検索結果:なし])を表示させておきます。

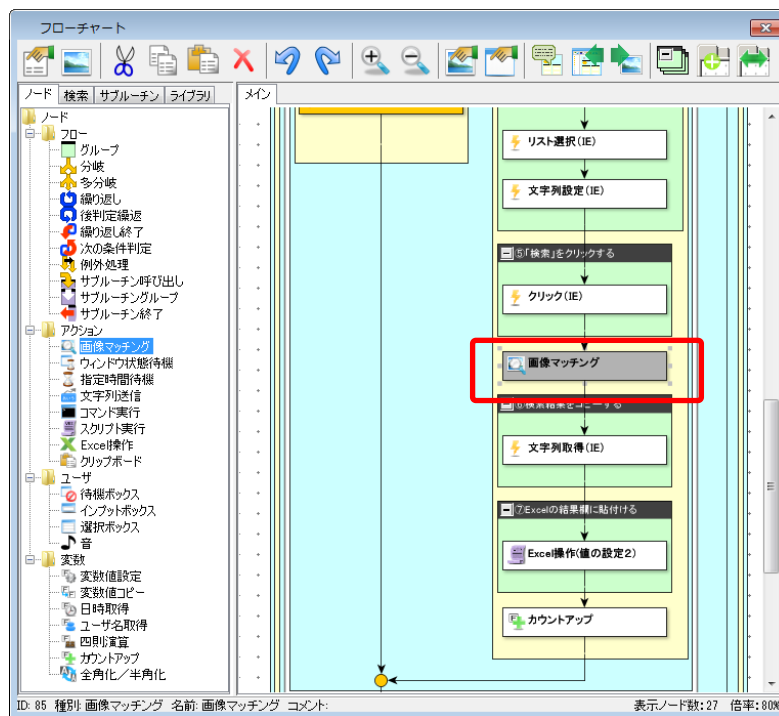


2. フローチャート画面のパレットエリアの[ノード]タブ-[アクション]-[画像マッチング]を[分岐グループ]の[False]の[⑤「検索」をクリックする]の下ヘドラッグ&ドロップ
シナリオに[画像マッチング]が配置されます。



3. [画像マッチング]をダブルクリック

プロパティ画面が表示されます。

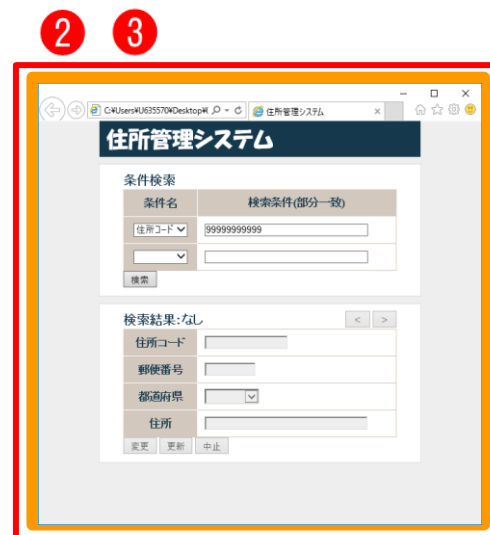
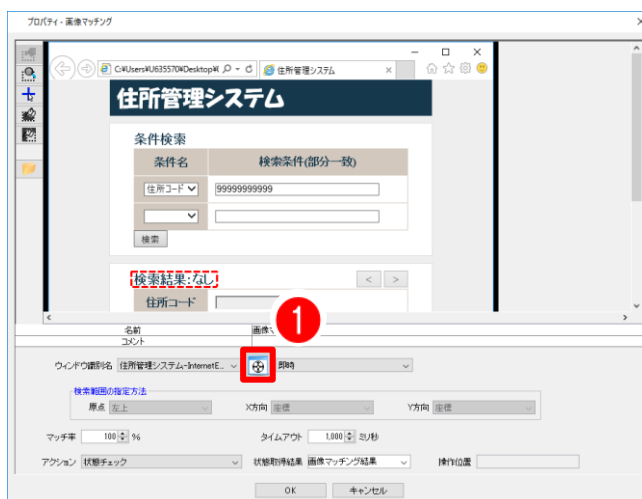


4. ①プロパティ画面で[ウィンドウ識別名]横の をクリック

②マウスポインタを手順 1 で表示した住所管理システム画面上に移動

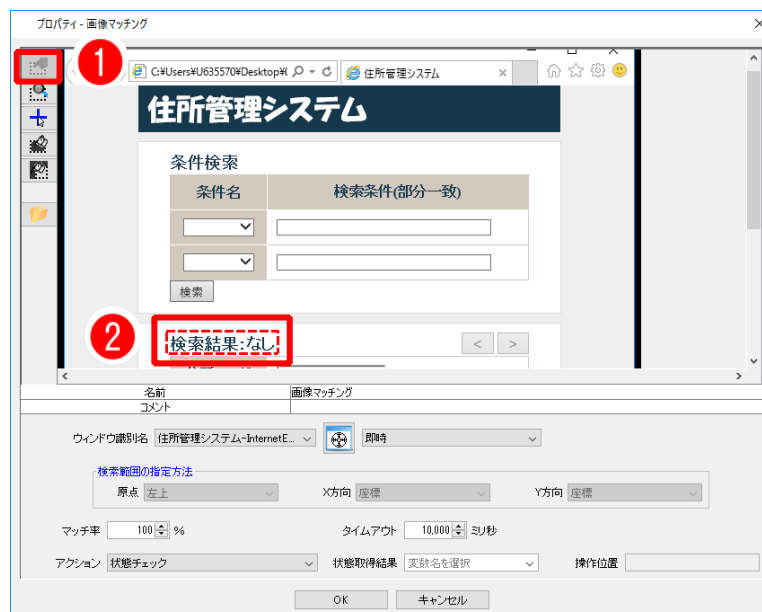
③住所管理システム画面がオレンジの枠で囲まれたら、住所管理システム画面をクリック

住所管理システムが記録対象アプリケーションに設定されます。
住所管理システムのキャプチャ画面がプロパティ画面に表示されます。



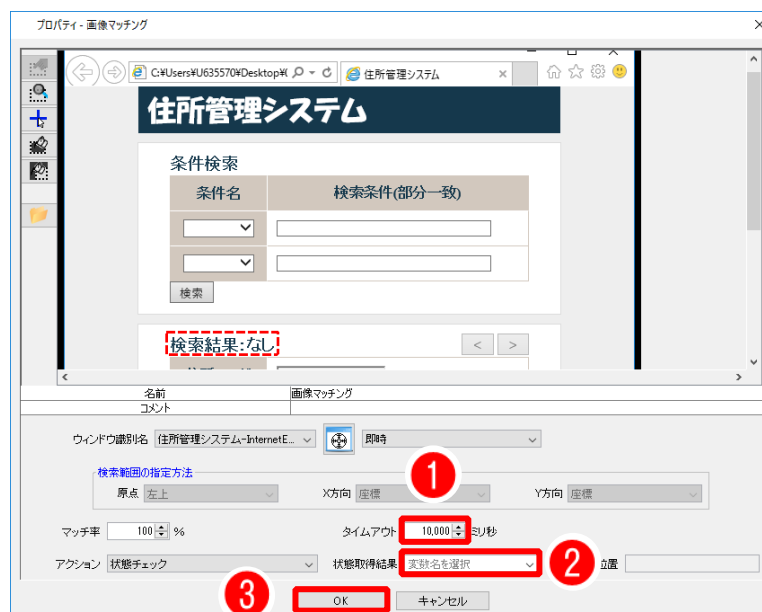
5. ①プロパティ画面で  をクリック
 ②マッチング画像に指定する範囲をドラッグ

「検索結果:なし」の部分がマッチング画像(赤色点線枠)に指定されます。



6. ①プロパティ画面で[タイムアウト]に「1,000」ミリ秒(=1 秒)を入力
 ②[状態取得結果]のプルダウンをクリック→変数名[画像マッチング結果]を選択
 ③[OK]をクリックします。

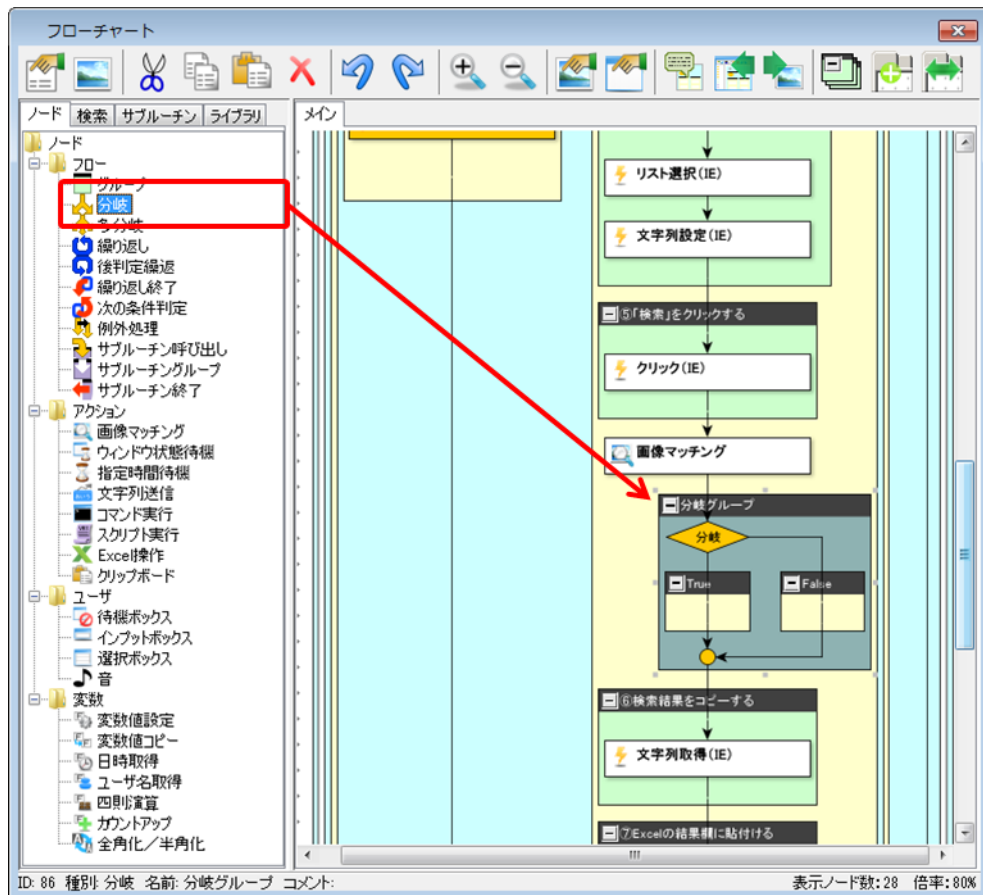
画像マッチングのプロパティが設定され、変数[画像マッチング結果]が変数一覧に追加されます。
 マッチング画像(「検索結果:なし」部分)が画面上に存在するかどうか確認し、検出結果(True または False)を変数[画像マッチング]に格納する作業が追加されます。



□2: 画像マッチング結果によって作業を分岐させる設定を追加する

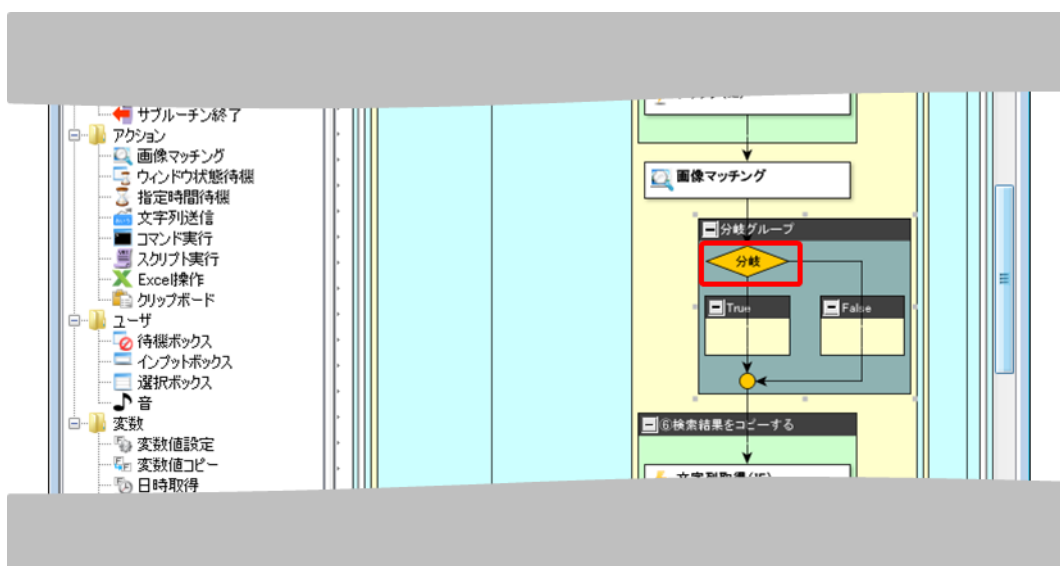
1. フローチャート画面のパレットエリアの[ノード]タブ-[フロー]-[分岐]を手順 2 で作成した[画像マッチング]の下へドラッグ&ドロップ

[分岐グループ]が配置されます。



2. [分岐グループ]の[分岐]をダブルクリック

プロパティ画面が表示されます。



3. ①プロパティ画面で[条件式設定]をクリック

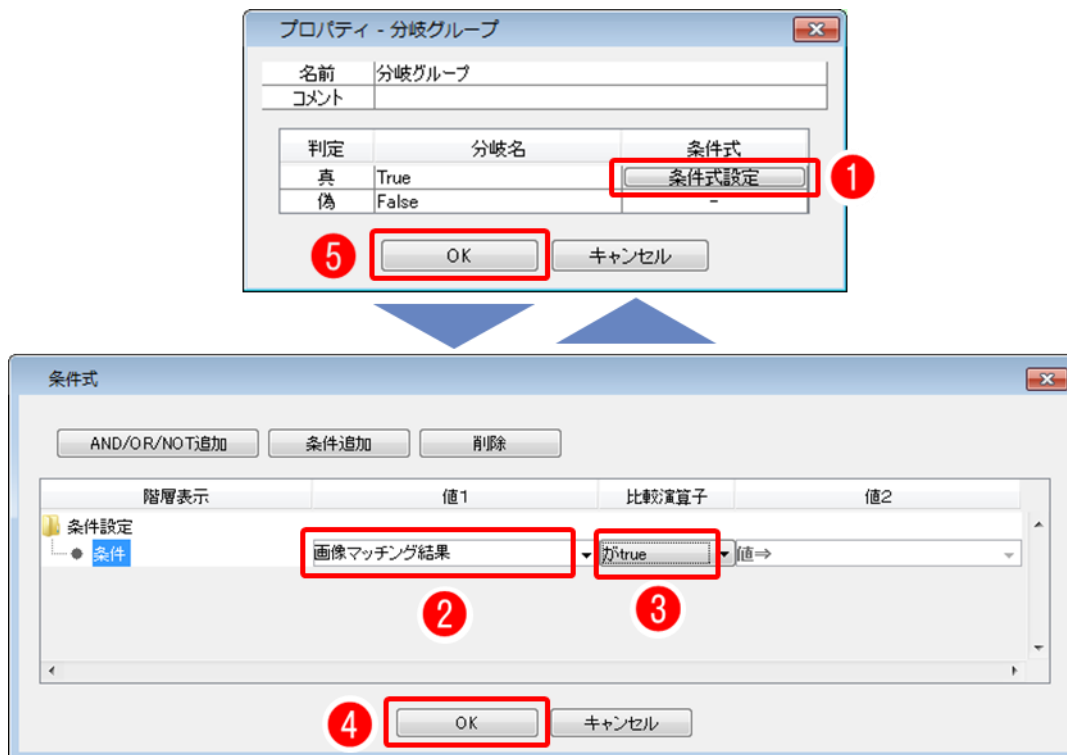
②条件式設定画面で[値1]のプルダウンで変数名[画像マッチング結果]を選択

③[比較演算子]のプルダウンで[が true]を選択

④[OK]をクリック

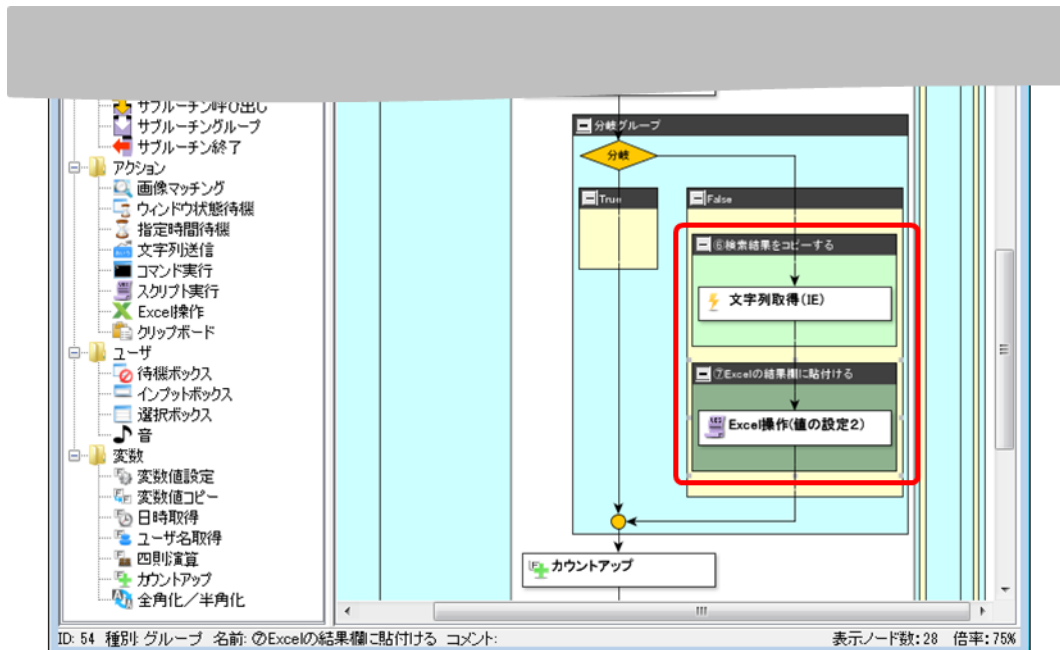
⑤プロパティ画面に戻ったら[OK]をクリック

[画像マッチング]の値が[True]の場合(=[検索結果:なし]と表示された場合)は分岐グループの[True]側に進み、値が[False]の場合(=正常に検索できた場合)は分岐グループの[False]側に進むように設定されます。



4. ①シナリオのグループ[⑥検索結果をコピーする]と[⑦Excel の結果欄に貼り付ける]を選択
②[分岐グループ]の[False]の中にドラッグ&ドロップ

[⑥検索結果をコピーする]と[⑦Excel の結果欄に貼り付ける]が[False]に配置されます。
正常に検索できた場合は検索結果をコピーして Excel にペーストするように設定されます。



□ 3:シナリオを実行して動作を確認する

1. Excel にダミーデータを入力してシナリオを実行する

検索できないデータを入力し、検索結果がない場合のシナリオが実行されることを確認します。エラーがあれば修正します。

詳しくは「[Step2: 作成したシナリオを実行・修正する](#)」(p.39)を参照してください。

➡ 意図したとおりに動作したら、シナリオは完成です。

4.シナリオがうまく動作しないときは

作成したシナリオがうまく動作しない場合は、問題点を確認して、シナリオを修正します。

Step1:シナリオの問題点を確認する

シナリオを実行すると、途中で停止してエラーメッセージが表示される場合は、エラーメッセージの内容を確認します。詳しくは、「WinActor 初心者の手引き」の「エラーメッセージが表示されている」を参照してください。

Step2: シナリオを修正する

シナリオの問題点が特定できたら、シナリオを修正します。

うまく動作しないノードを別のノードに置き換える

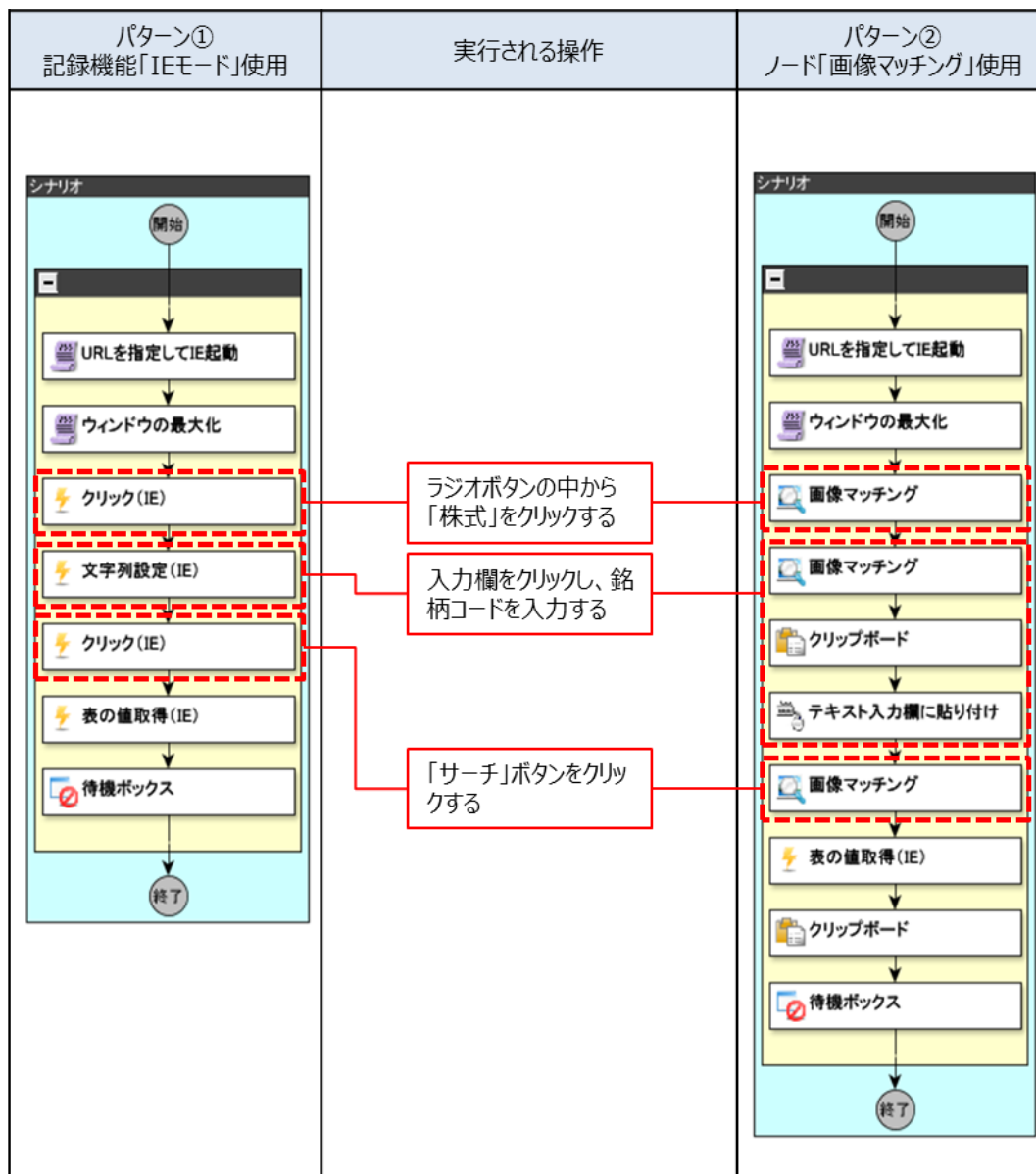
異なるノードを組み合わせると、同じ作業を実現できます。

例: 異なる作成方法で同じ作業をノード化した場合

同じ操作でも、作成方法によって使用するノードが異なります。

以下は、次の3ステップで株価を検索する作業を、「IEモード」と「画像マッチング」で記録してノードを作成した例です。

1. ラジオボタンで「株式」をクリック
2. 入力欄をクリックして銘柄コードを入力
3. 「サーチ」をクリック



アプリケーションが起動するまで待機する

IE や Office のアプリケーションの起動時間は、端末やネットワークの状況によって異なります。アプリケーションの起動が遅い場合、WinActor の処理が先に進んでしまい、エラーになることがあります。

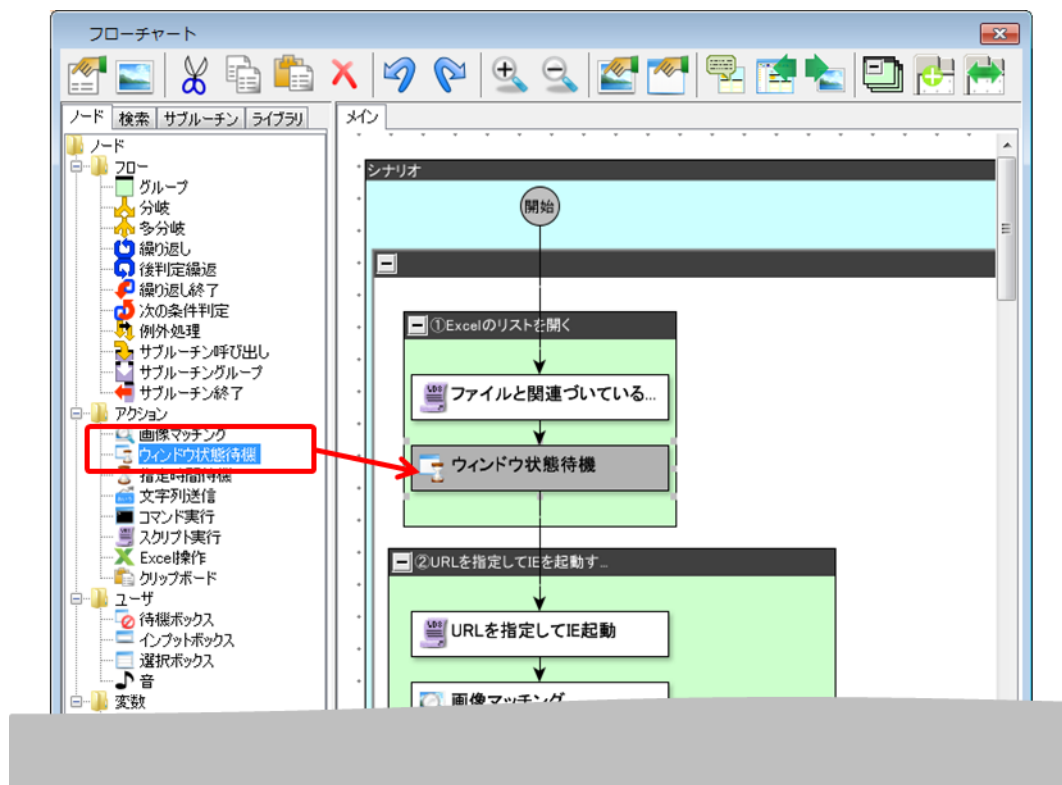
エラーを回避するためには、次の 2 つの対応方法があります。

❑ 1: ノード「ウィンドウ状態待機」を使用する

例として、グループ[①Excel のリストを開く]に[ウィンドウ状態待機]を追加します。

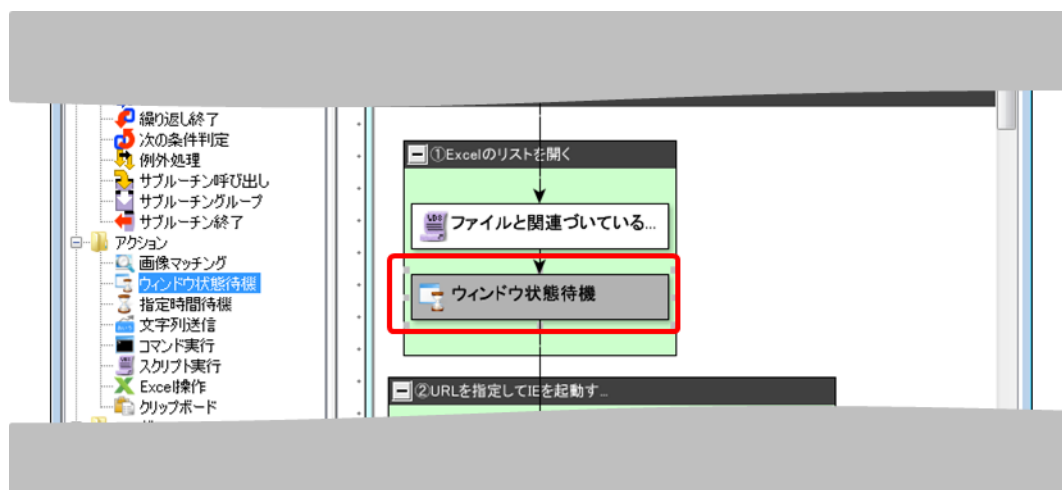
あらかじめ、「住所更新用データ.xlsx」ファイルを開いておきます。

1. フローチャート画面のパレットエリアの[ノード]タブ-[アクション]-[ウィンドウ状態待機]をシナリオのグループ[①Excel のリストを開く]の[ファイルと関連づいているアプリ起動]の下ヘドラッグ&ドロップ
シナリオに[ウィンドウ状態待機]が配置されます。



2. [ウィンドウ状態待機]をダブルクリック

プロパティ画面が表示されます。



3. ①プロパティ画面で[取得結果]のプルダウンをクリックー[*]を選択ー変数名[ウィンドウ状態待機結果]を入力

②[ウィンドウ識別名]横の  をクリック

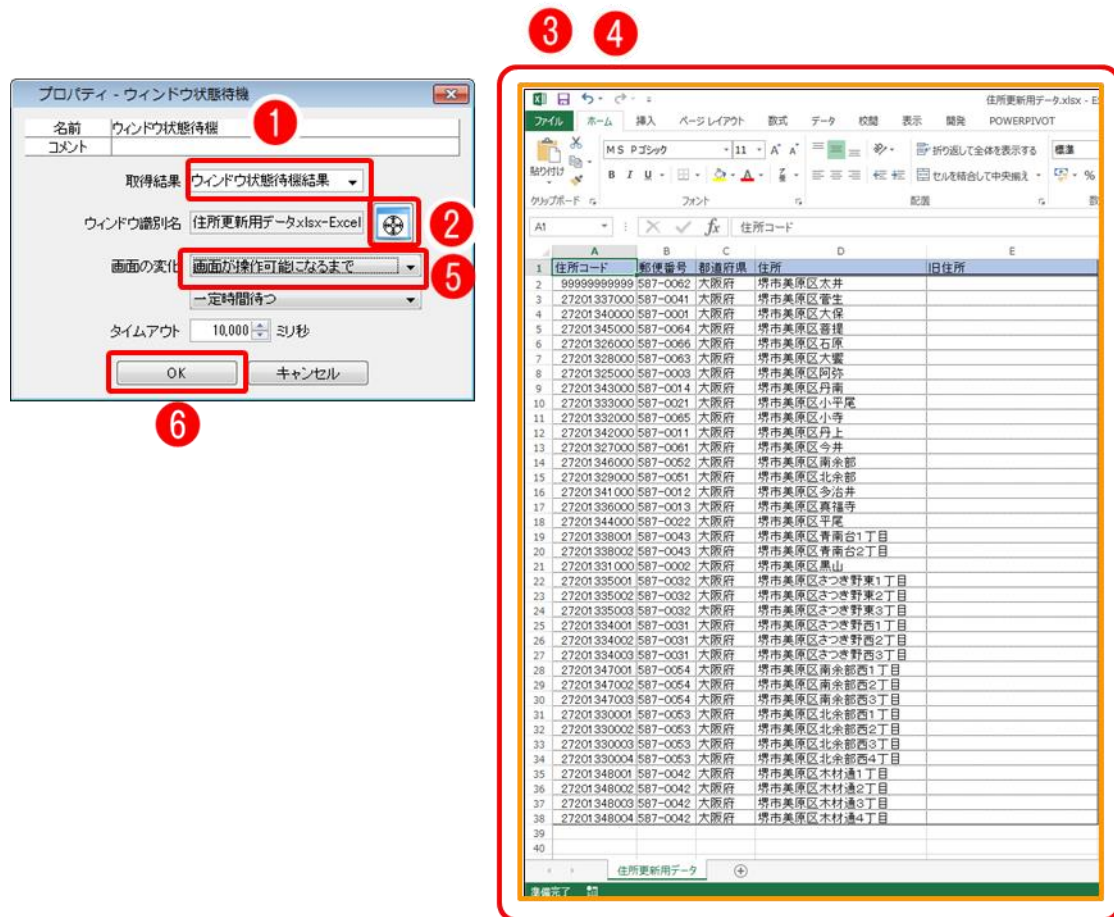
③マウスポインタを、住所更新用データ画面上に移動

④住所更新用データ画面がオレンジの枠で囲まれたら、住所更新用データ画面をクリック

⑤[画面の変化]のプルダウンをクリックー「画面が操作可能になるまで」を選択

⑥[OK]をクリック

ウィンドウ状態待機のプロパティが設定されます。



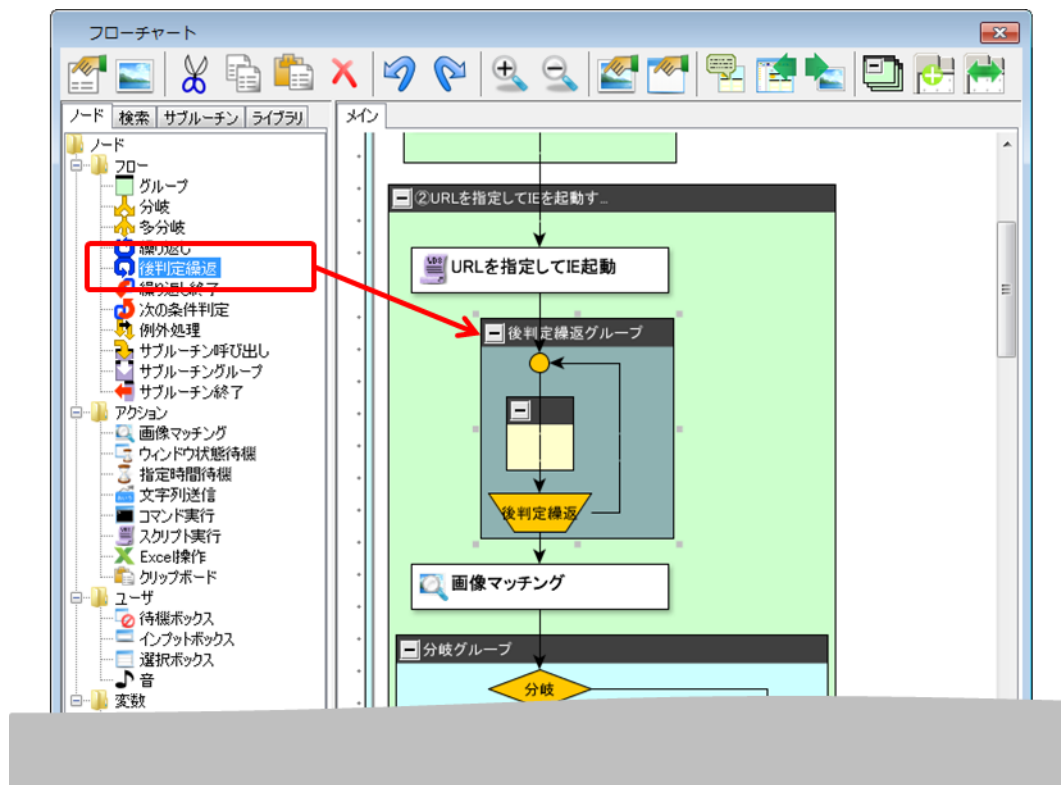
NOTE

- ・「画面の変化」について、詳しくは「WinActor 操作マニュアル」の「6.4.2.3 画面の変化と待機種別」を参照してください。

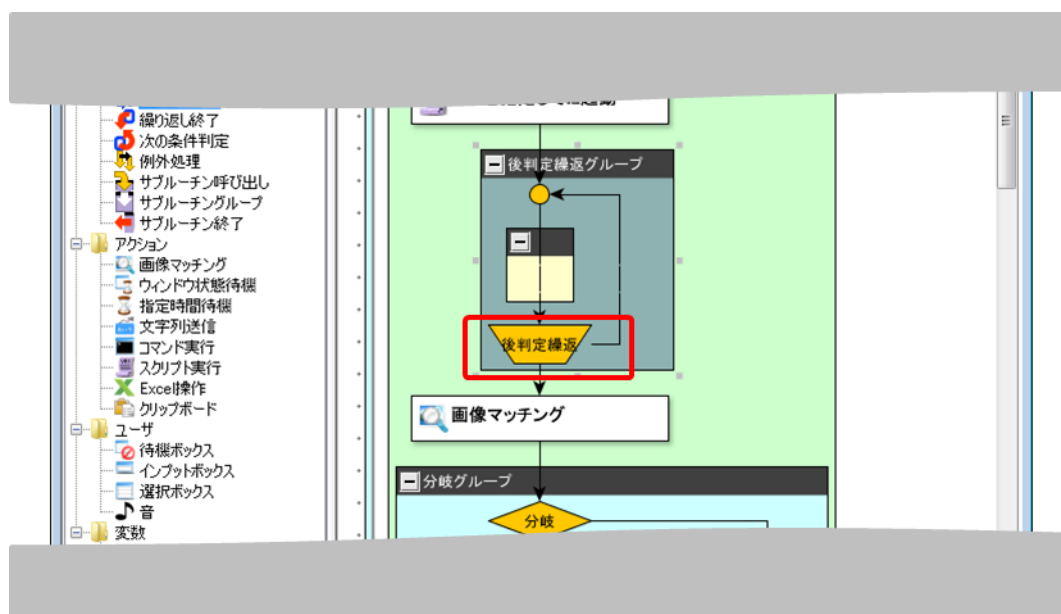
□ 2: 画像マッチングを繰り返して待機させる

例として、グループ[②URLを指定してIEを起動する]に[画像マッチング]を追加します。
あらかじめ、住所管理システムのIE画面を表示しておきます。

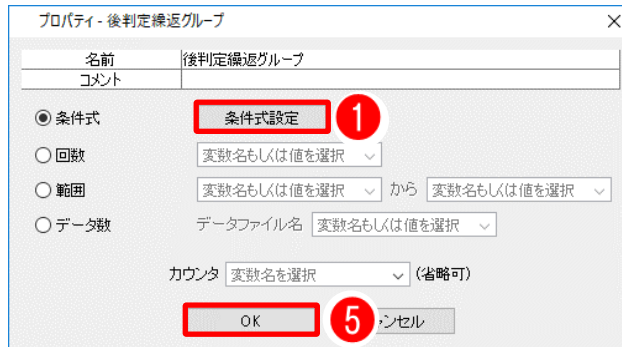
1. フローチャート画面のパレットエリアの[ノード]タブ-[フロー]-[後判定繰返]をシナリオのグループ[②URLを指定してIEを起動する]の[URLを指定してIEを起動する]の下へドラッグ&ドロップ
シナリオに[後判定繰返]が配置されます。



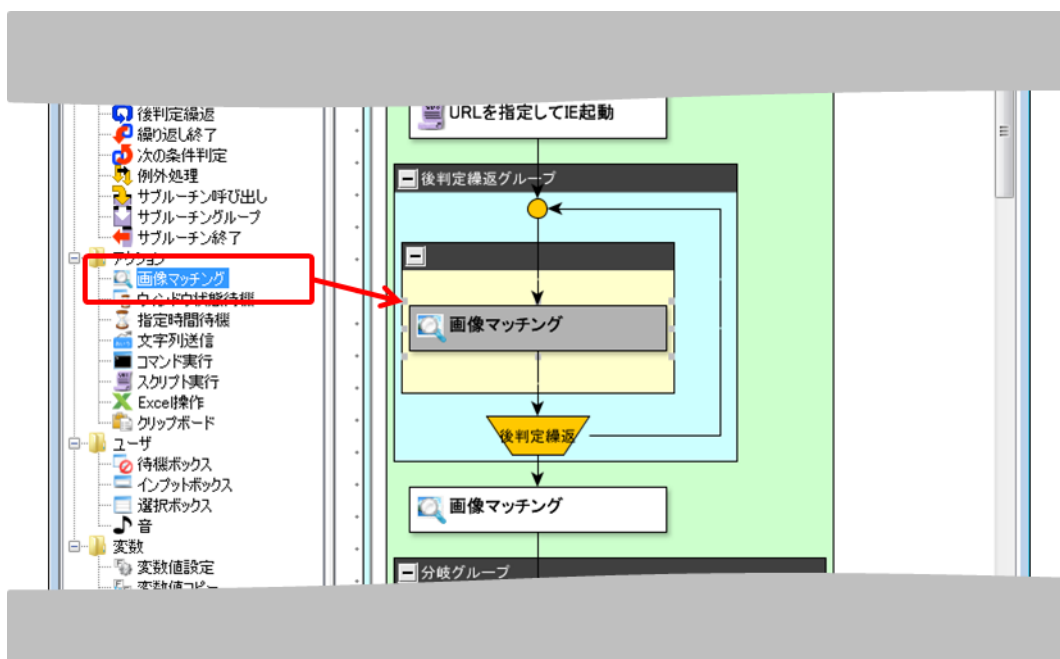
2. [後判定繰返グループ]の[後判定繰返]をダブルクリック
プロパティ画面が表示されます。



3. ①プロパティ画面で[条件式設定]をクリック
 - ②条件式画面で[値1]のプルダウンをクリックー変数名[画像マッチング結果]を選択
 - ③[比較演算子]のプルダウンをクリックー[が false]を選択
 - ④[OK]をクリック
 - ⑤プロパティ画面に戻ったら[OK]をクリック
- 後判定繰返のプロパティが設定されます。



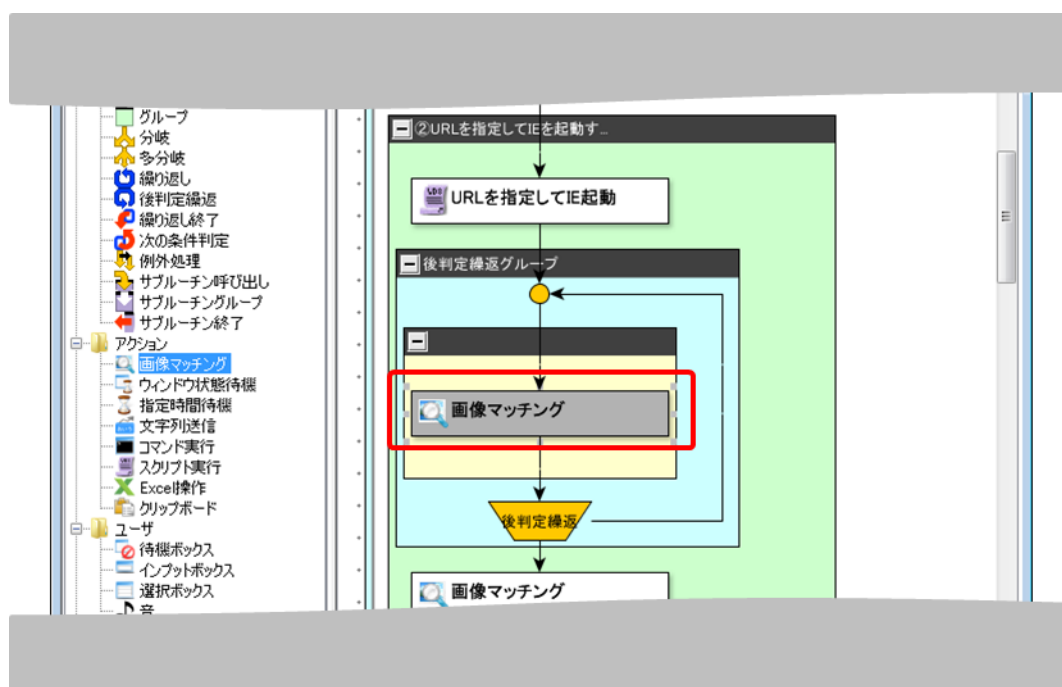
4. フローチャート画面のパレットエリアの[ノード]タブー[アクション]ー[画像マッチング]を[後判定繰返グループ]のエリア内へドラッグ&ドロップ
- シナリオに[画像マッチング]が配置されます。



4. シナリオがうまく動作しないときは

5. [画像マッチング]をダブルクリック

プロパティ画面が表示されます。



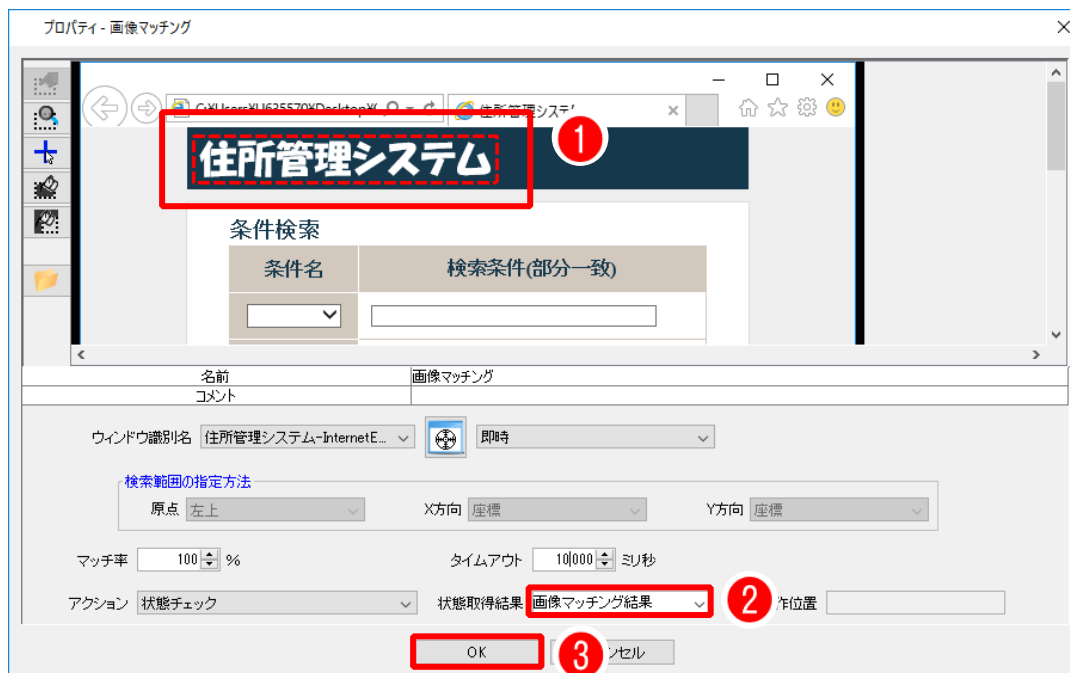
6. ①プロパティ画面で[ウィンドウ識別名]横の をクリック

②マウスポインタを、画像を取り込む住所管理システム画面上に移動

③住所管理システム画面がオレンジの枠で囲まれたら、住所管理システム画面をクリック



7. ① マッチング画像に指定する範囲をドラッグ
② [状態取得結果]横のプルダウンをクリックー変数名[画像マッチング結果]を選択
③ [OK]をクリック
画像マッチングのプロパティが設定されます。



IE の拡大率、アプリケーションの画面サイズをそろえる

画像マッチングで状態チェックやクリック操作を行う場合、シナリオ作成時の拡大率と実行時の拡大率が異なると異なる画像として認識されてしまいます。


また、異なる端末で実行する場合、画面サイズが異なるため A 端末で表示されているものが B 端末では表示されていないという場合に画面サイズを揃えることで解決できることがあります。

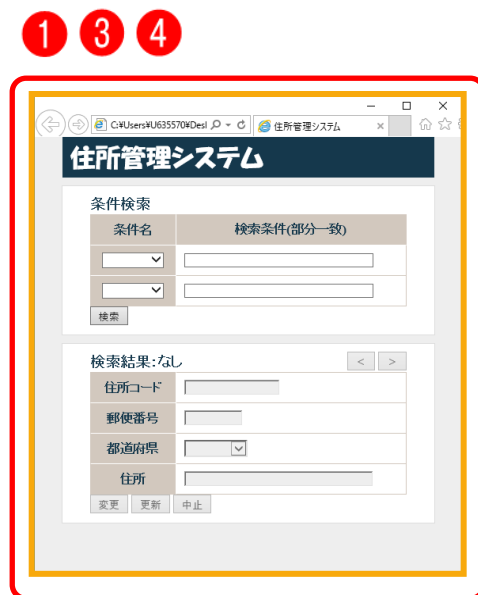
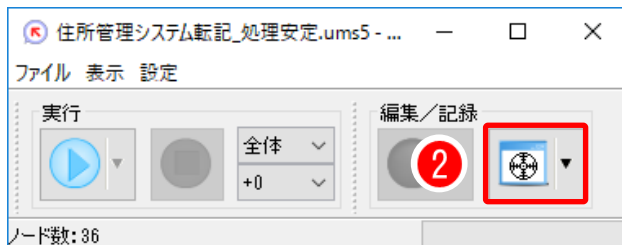
メニューバーの表示の有無でも表示領域が変わります(下図参照)。シナリオ作成時の端末と実行の端末が異なる場合は、画面サイズを揃える作業を追加しておきましょう。




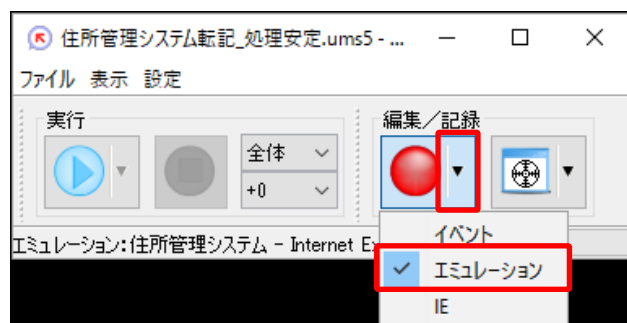
□ 1: 拡大率を 100% に設定する

IE の場合、Ctrl+0(または「Alt→V→Z→0」)のショートカットキーで拡大率を 100% に設定できます。例としてグループ「② URL を指定して IE を起動する」に追加します。

1. ①住所管理システムを起動
 - ②メイン画面の  をクリック
 - ③マウスポインタを、住所管理システム画面上に移動
 - ④住所管理システム画面がオレンジの枠で囲まれたら、住所管理システム画面をクリック
- 住所管理システムが記録対象アプリケーションに設定されます。



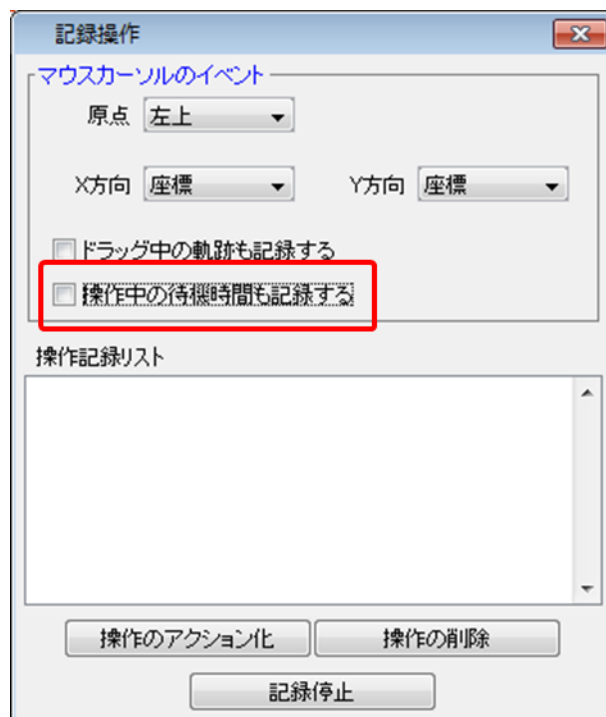
2. メイン画面の  横の「▼」をクリックして[エミュレーション]を選択
エミュレーションモードが設定されます。



3. メイン画面の  をクリック

記録操作画面が表示されます。

4. 記録操作画面の[操作中の待機時間も記録する]のチェックを外す
操作中の待機時間を記録しない設定になります。

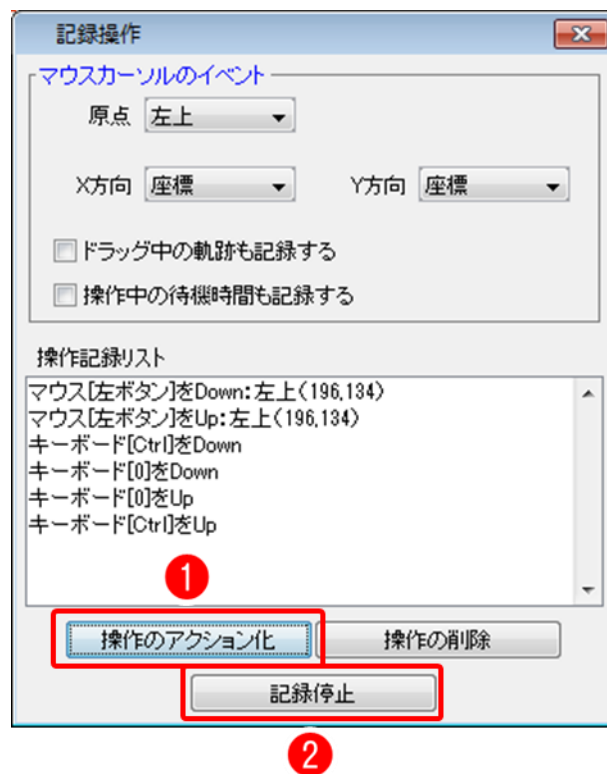


5. ①住所管理システム画面で任意の場所をクリック
②キーボードで「Ctrl+0」(または「Alt→V→Z→0」)を押下
IE 画面の拡大率を 100%にする操作が記録されます。

6. ①記録操作画面で[操作のアクション化]をクリック

②[記録停止]をクリック

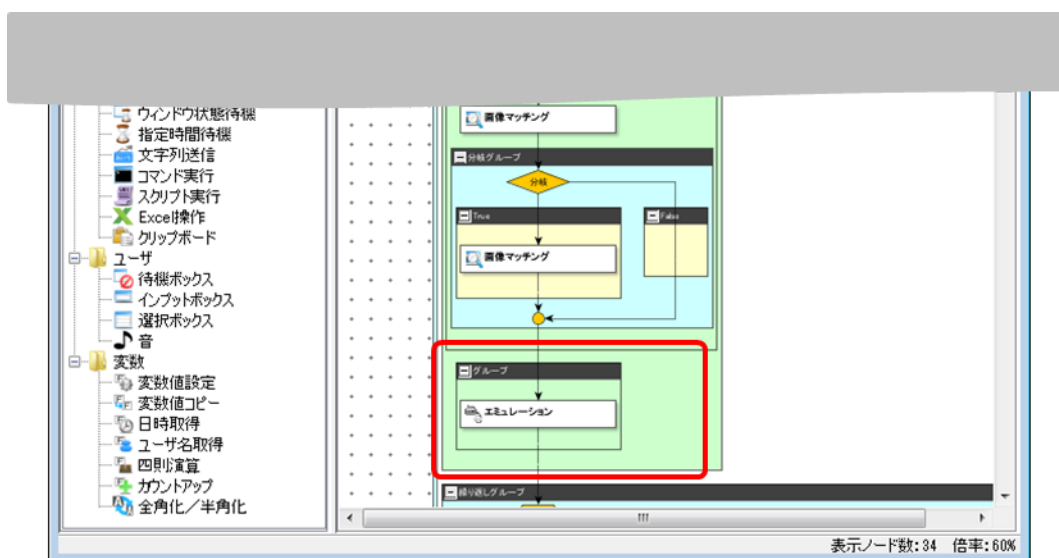
[エミュレーション]グループが作成されます。



7. ①作成されたノード[エミュレーション]を選択

②シナリオのグループ[②URL を指定して IE を起動する]の一番下へドラッグ&ドロップ

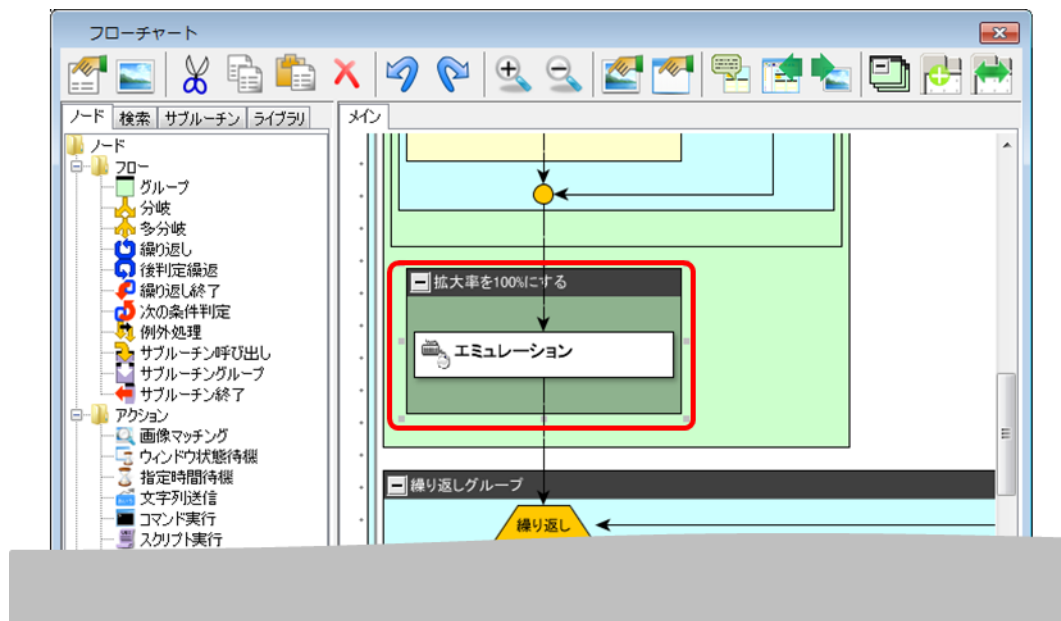
シナリオに[エミュレーション]グループが配置されます。



8. ①[エミュレーション]グループをダブルクリック
②プロパティ画面で[名前]を変更し、[OK]をクリック

グループの名前が変更されます。

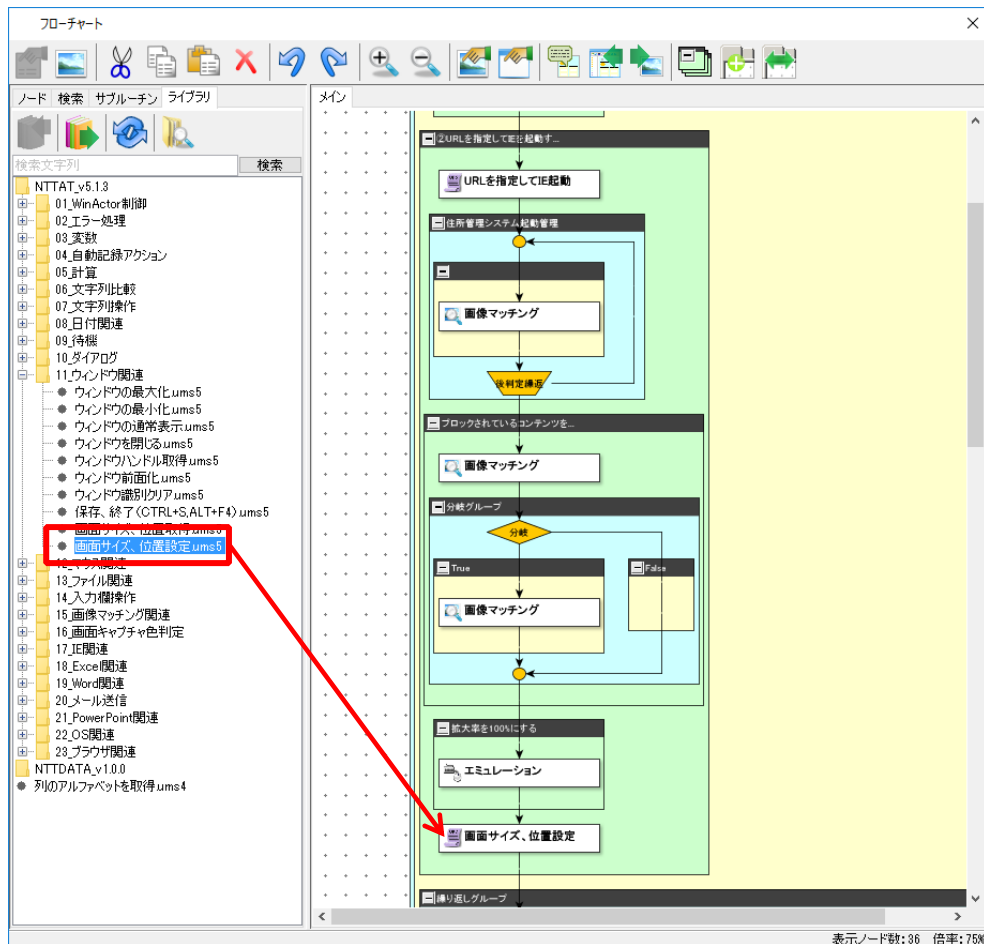
「拡大率を 100%にする」など、作業内容がわかりやすい名前をつけておくことをお勧めします。



2: 画面サイズを揃える

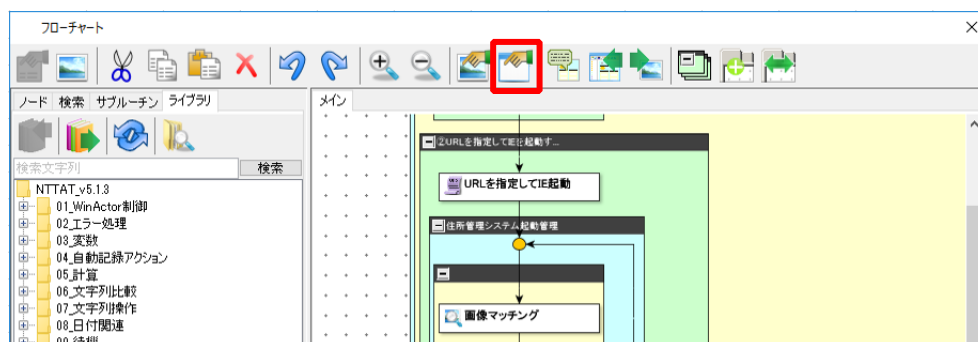
ライブラリ[画面サイズ、位置設定]を使用することで、画面サイズや位置を設定できます。
例としてグループ[②URL を指定して IE を起動する]に[画面サイズ、位置設定]を追加します。

1. フローチャート画面のパレットエリアの[ライブラリ]タブー[11_ウィンドウ関連]ー[画面サイズ、位置設定]をシナリオのグループ[②URL を指定して IE を起動する]内の一番下へドラッグ&ドロップ
シナリオに[画面サイズ、位置設定]が配置されます。



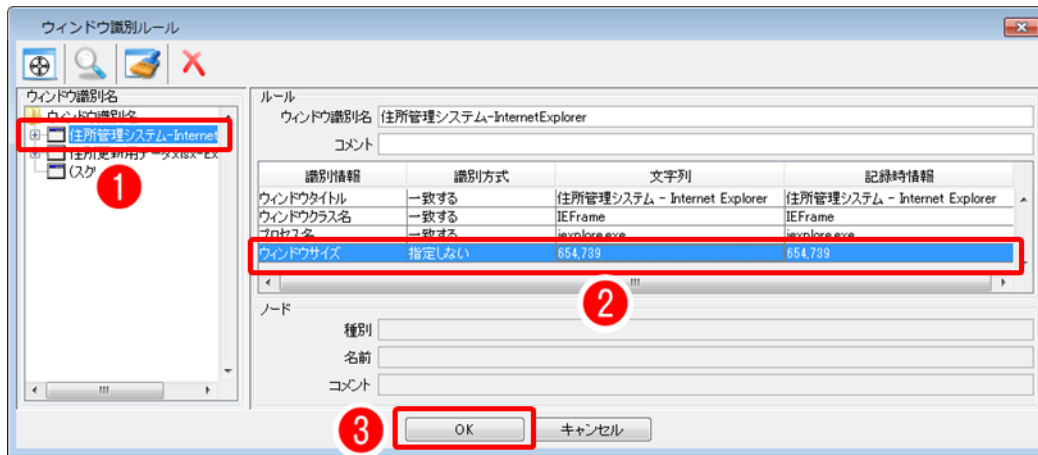
2. フローチャート画面のツールバーの をクリック

ウィンドウ識別ルール画面が表示されます。



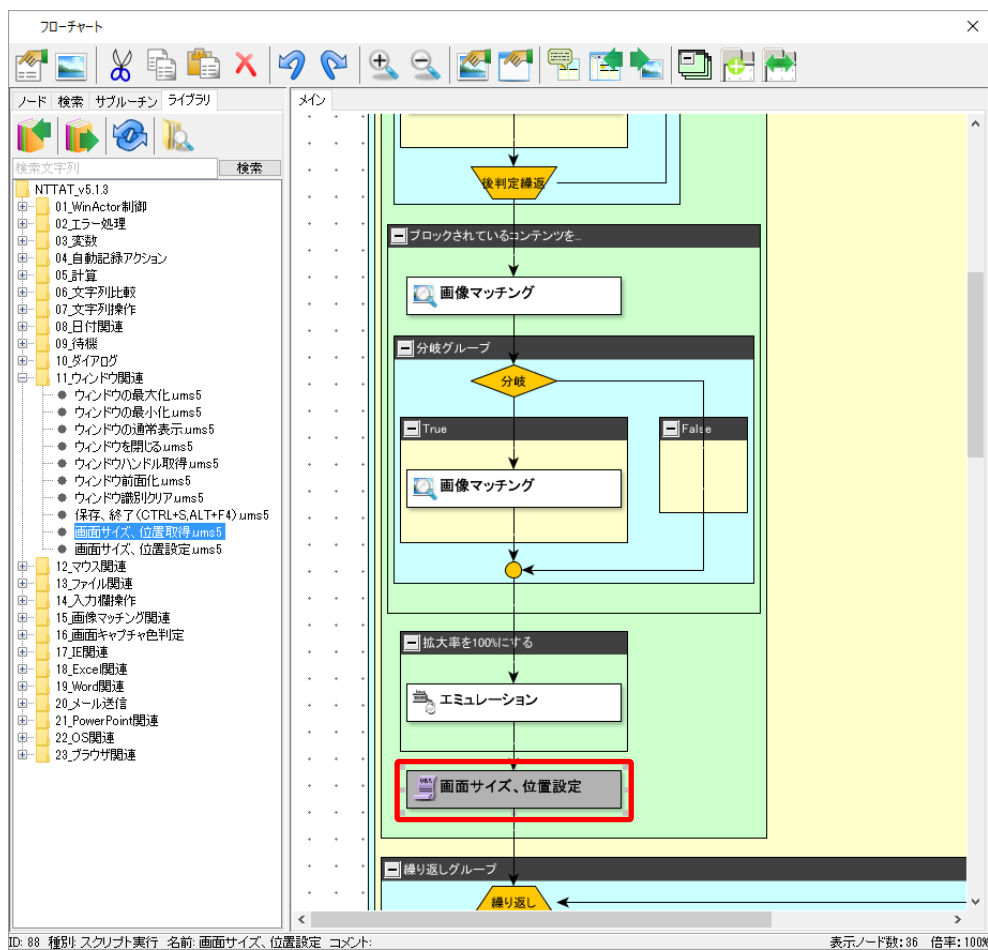
3. ①ウィンドウ識別ルール画面のツリー画面内の[住所管理システム-Internet Explorer]をクリック
- ②識別情報の[ウィンドウサイズ]の数値を控える
- ③[OK]をクリック

フローチャート画面に戻ります。控えた数値は手順 6 で使います。




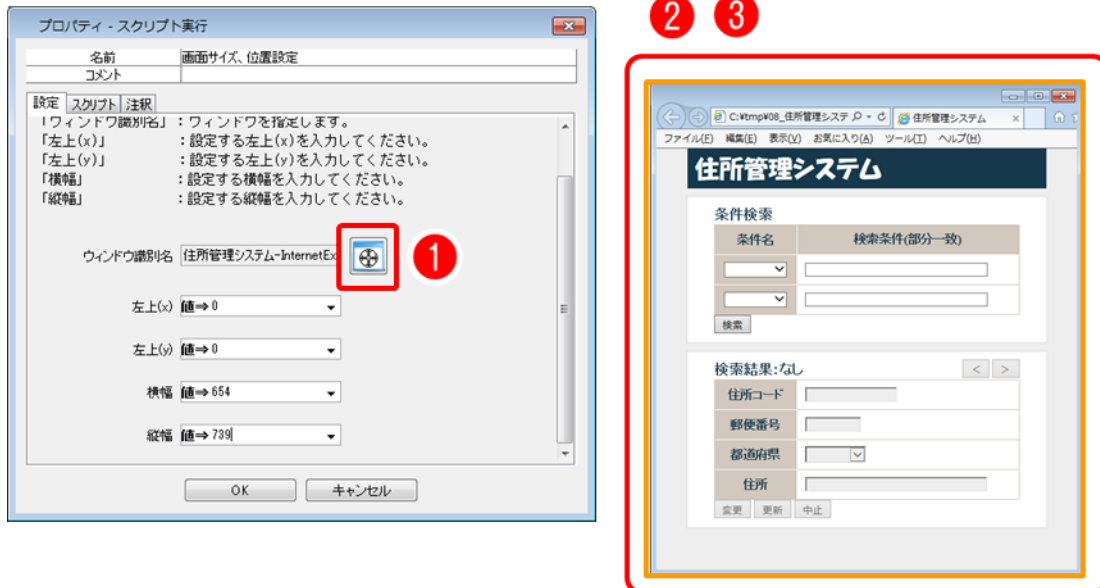
4. [画面サイズ、位置設定]をダブルクリック

プロパティ画面が表示されます。



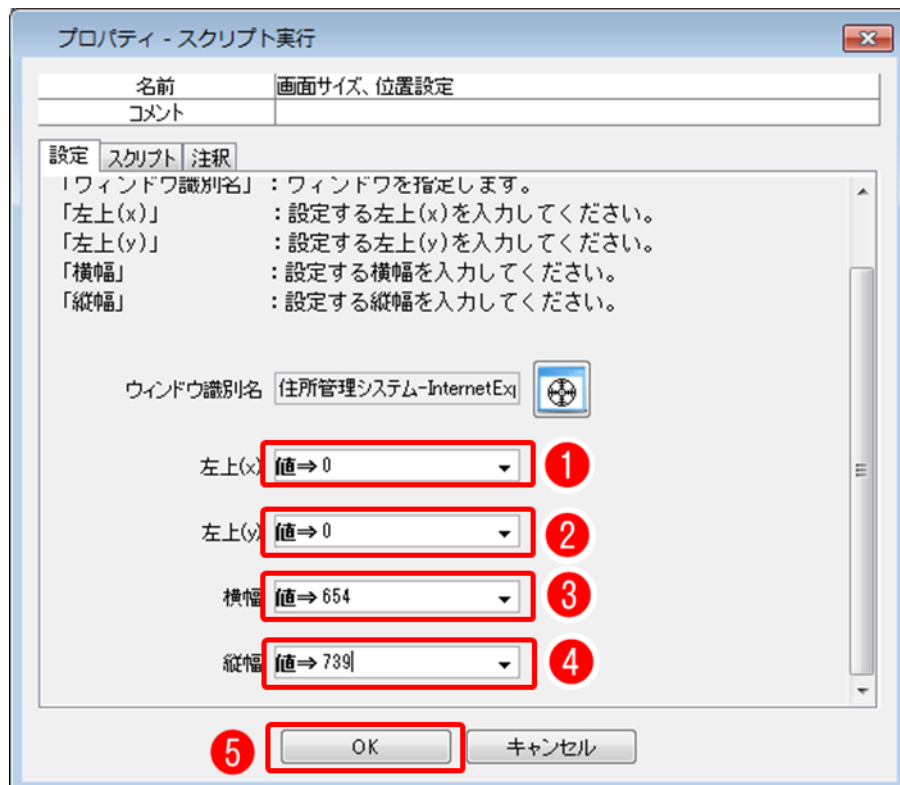
4. シナリオがうまく動作しないときは

5. ①プロパティ画面で[ウィンドウ識別名]横の  をクリック
②マウスポインタを、住所管理システム画面上に移動
③住所管理システム画面がオレンジの枠で囲まれたら、住所管理システム画面をクリック



6. ①プロパティ画面で[左上(x)]のプルダウンをクリックー[値⇒]に「0」を入力
②[左上(y)]のプルダウンをクリックー[値⇒]に「0」を入力
③[横幅]のプルダウンをクリックー[値⇒]に手順 3 で控えたウィンドウサイズの横の値を入力
④[縦幅]のプルダウンをクリックー[値⇒]に手順 3 で控えたウィンドウサイズの縦の値を入力
⑤[OK]をクリック

[画面サイズ、位置設定]のプロパティが設定されます。上記の設定で、画面の左上の位置がディスプレイの左上になります。

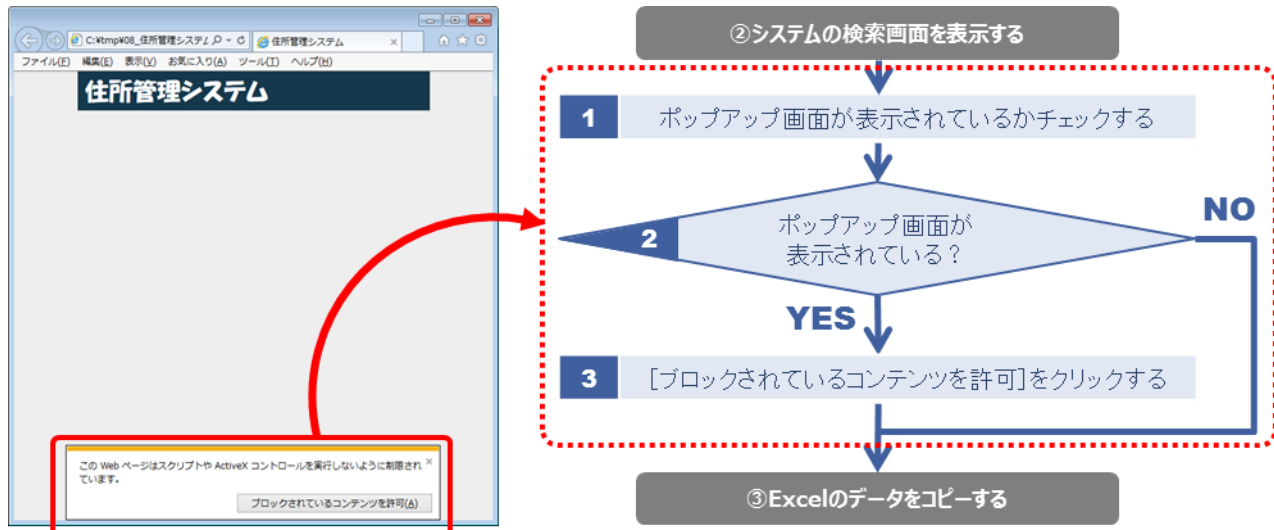


ポップアップ画面が出た場合は自動で閉じて作業を続行する

住所管理システムの検索画面を表示するとポップアップが表示されるケースがある場合は、ポップアップ表示の有無を確認し、[ブロックされているコンテンツを許可]をクリックして画面を閉じる手順の追加が必要です。

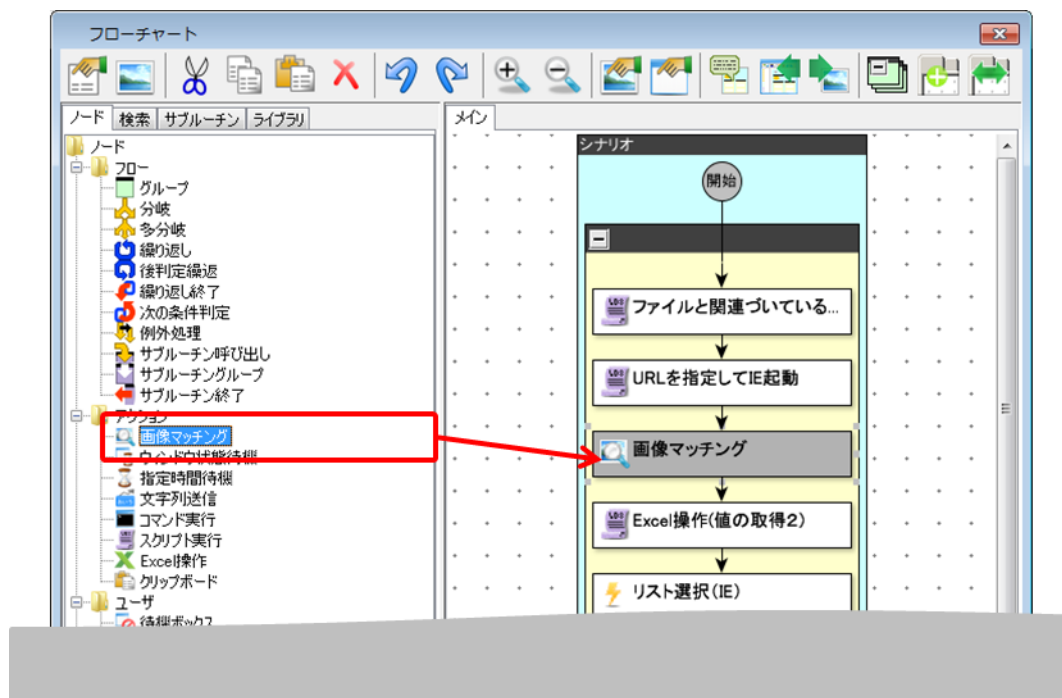
❑1: 作業フローを整理する

追加手順の作業フローと、どこに追加すればよいかを整理します。



❑2: ポップアップ画面を確認する手順をシナリオに追加する

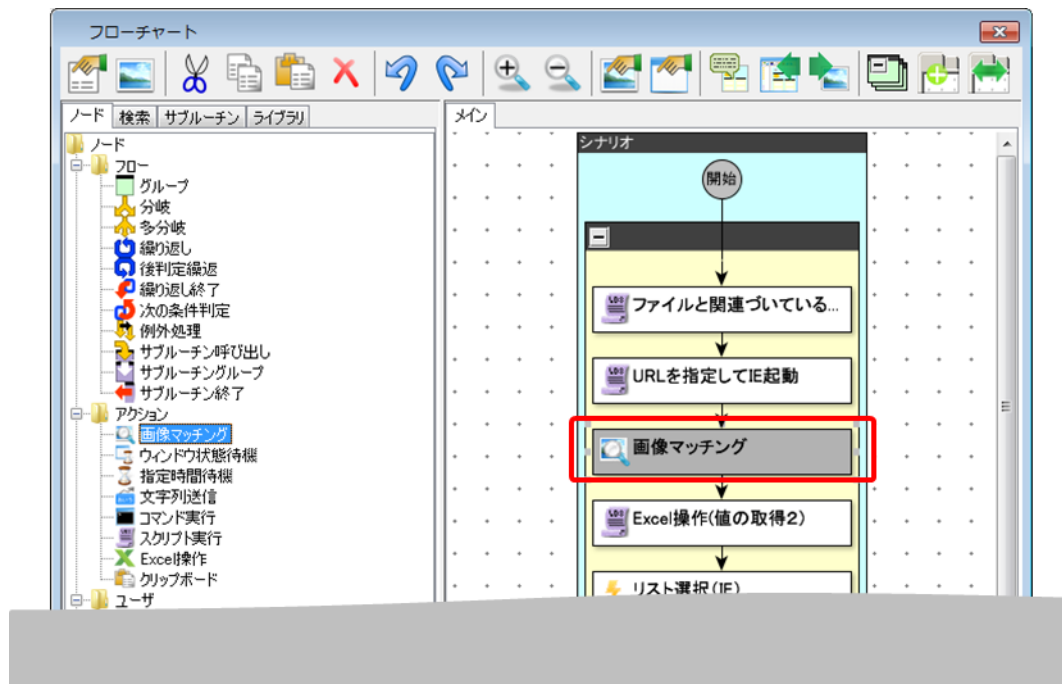
1. フローチャート画面のパレットエリアの[ノード]タブ-[アクション]-[画像マッチング]をシナリオの[URL を指定して IE 起動]の下ヘドラッグ&ドロップ
シナリオに[画像マッチング]が配置されます。



4. シナリオがうまく動作しないときは

2. [画像マッチング]をダブルクリック

プロパティ画面が表示されます。

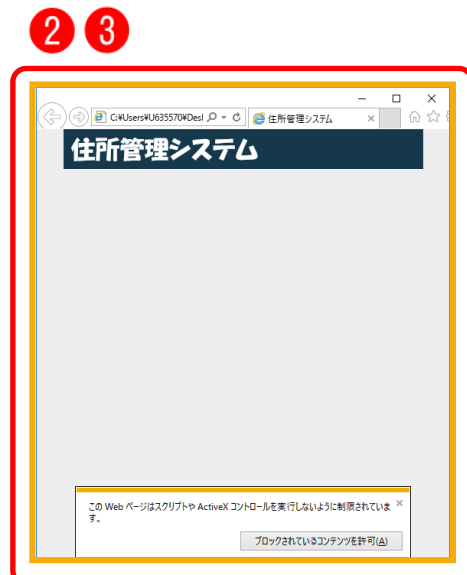
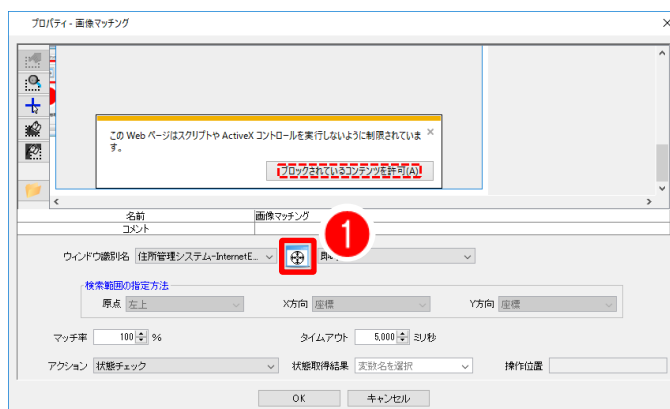



3. ①プロパティ画面で[ウィンドウ識別名]横の をクリック

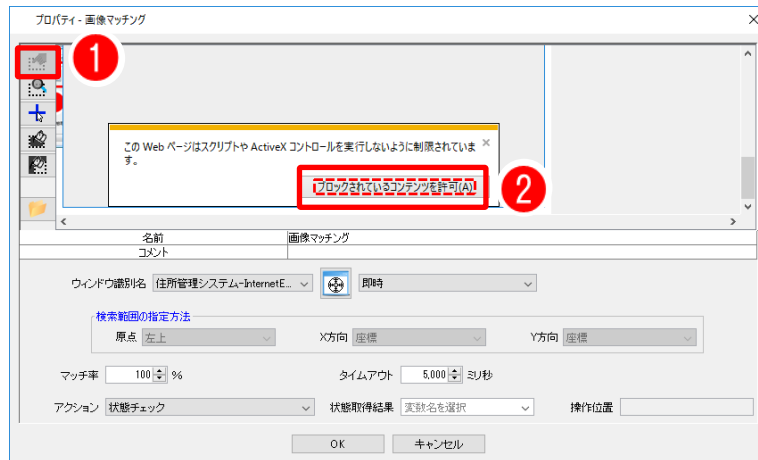
②マウスポインタを、画像を取り込む住所管理システム画面上に移動

③住所管理システム画面がオレンジの枠で囲まれたら、住所管理システム画面をクリック

住所管理システムが記録対象アプリケーションに設定されます。
住所管理システムのキャプチャ画面がプロパティ画面に表示されます。

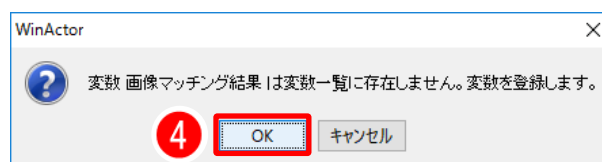
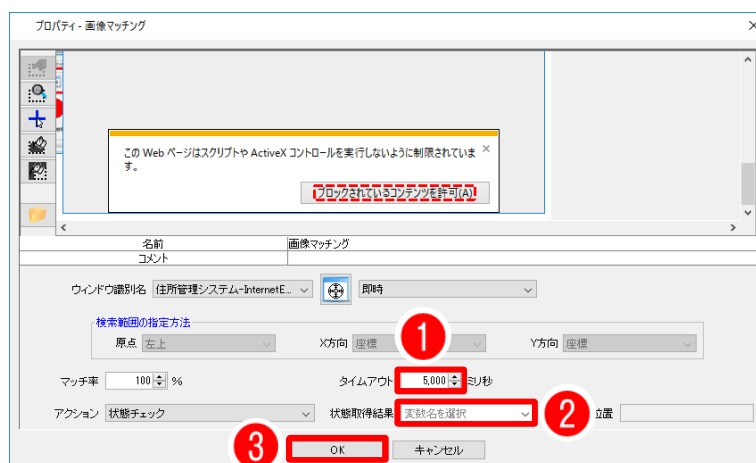


4. ①プロパティ画面で  をクリック
 ②マッチング画像に指定する範囲をドラッグ
 マッチング画像(赤色点線枠)が指定されます。



5. ①[タイムアウト]に「5,000」ミリ秒(=5 秒)を入力
 ②[状態取得結果]のプルダウンをクリックー[*]を選択ー変数名[画像マッチング結果]を入力
 ③[OK]をクリック
 ④登録確認のポップアップで[OK]をクリック

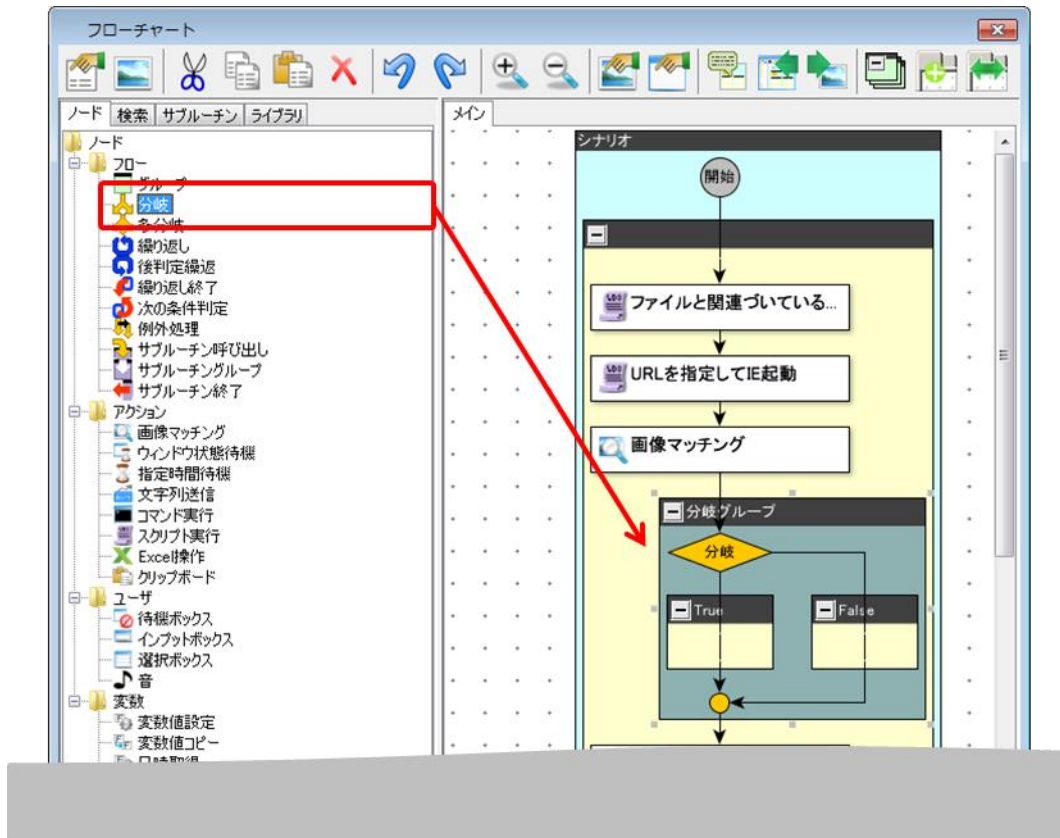
ポップアップ画面が出るかどうかを確認するために待つ時間と、確認結果を取得する変数[画像マッチング結果]を設定します。



□3: ポップアップ画面の有無でシナリオを分岐させる

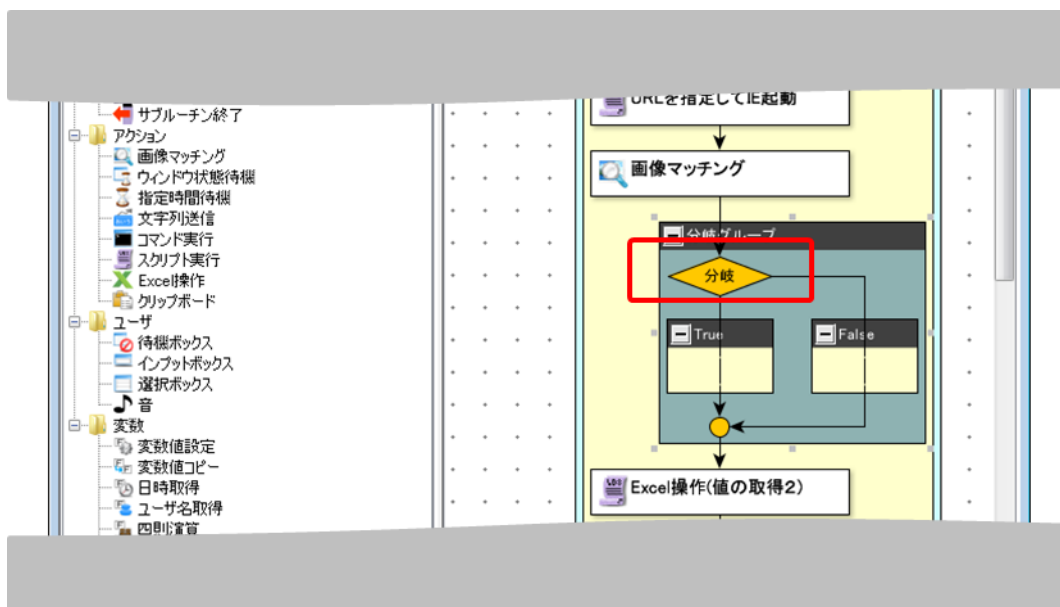
1. フローチャート画面のパレットエリアの[ノード]タブ-[フロー]-[分岐]をシナリオの[画像マッチング]の下へドラッグ&ドロップ

シナリオに[分岐グループ]が配置されます。



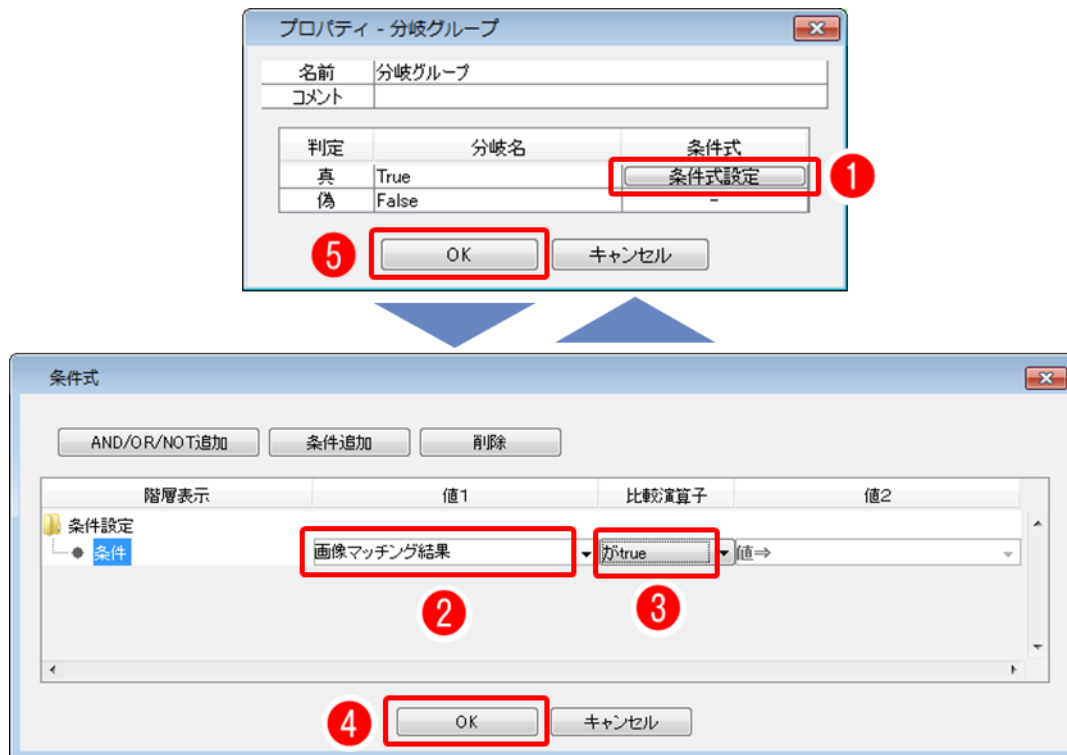
2. [分岐グループ]の[分岐]をダブルクリック

プロパティ画面が表示されます。



3. ①[条件式設定]をクリック
②[値1]のプルダウンをクリックー変数名[画像マッチング結果]を選択
③[比較演算子]のプルダウンをクリックー[が true]を選択
④[OK]をクリック
⑤[OK]をクリック

分岐のプロパティが設定されます。

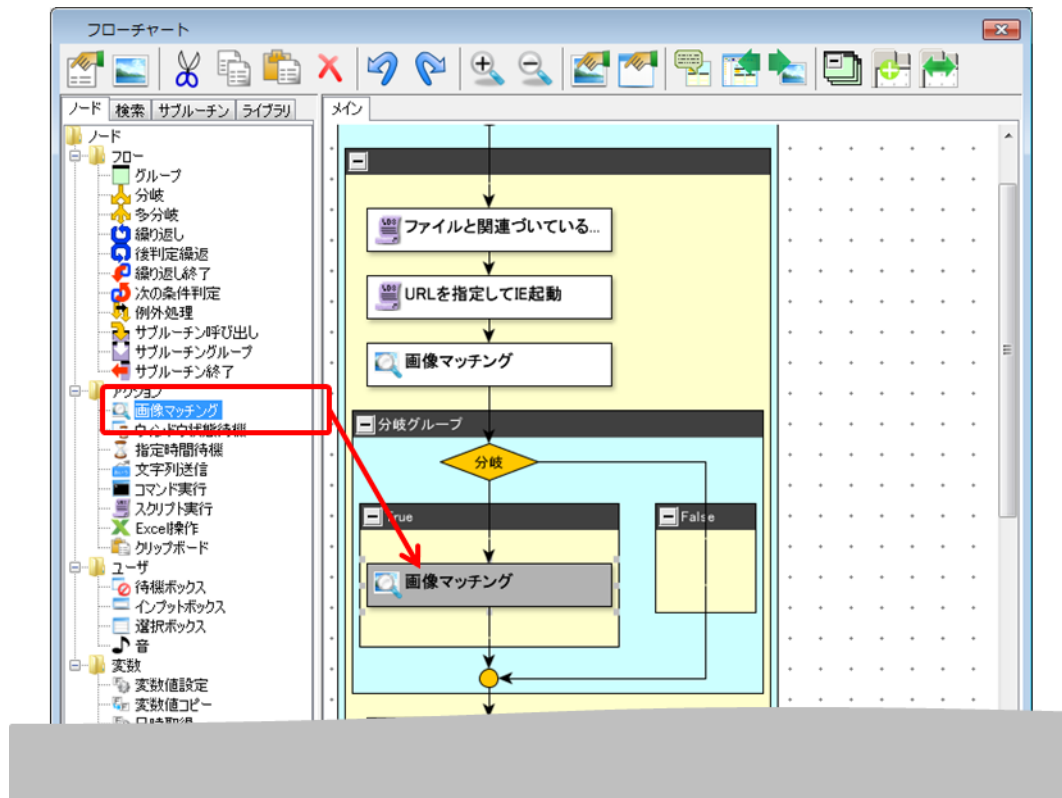


□ 4: ポップアップ画面が表示された場合の作業を追加する

ポップアップ画面で[ブロックされているコンテンツを許可]をクリックする作業を追加します。

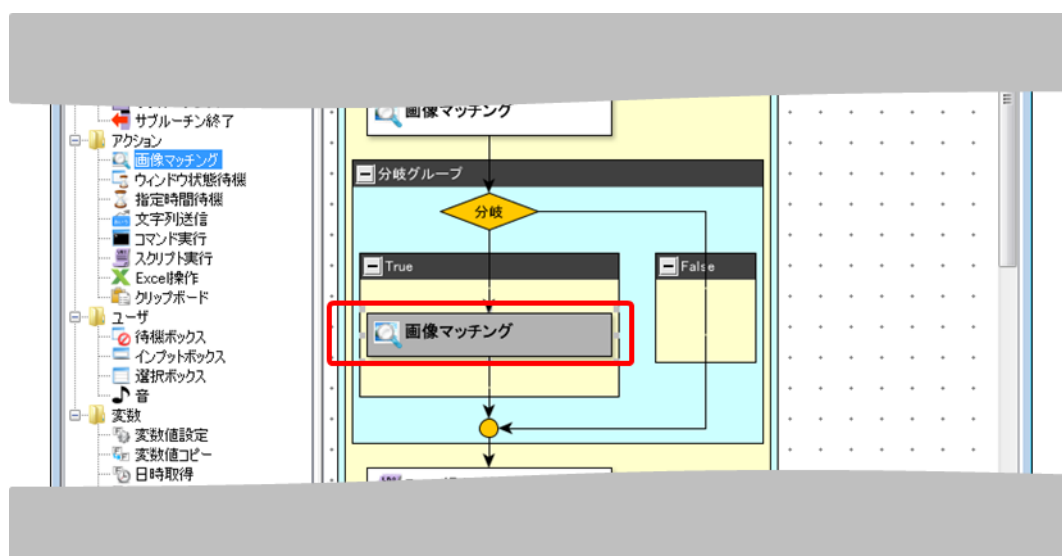
1. フローチャート画面のパレットエリアの[ノード]タブー[アクション]ー[画像マッチング]をシナリオの[分岐グループ]の[True]のグループにドラッグ&ドロップ

[True]グループに[画像マッチング]が配置されます。




2. 配置した[画像マッチング]をダブルクリック

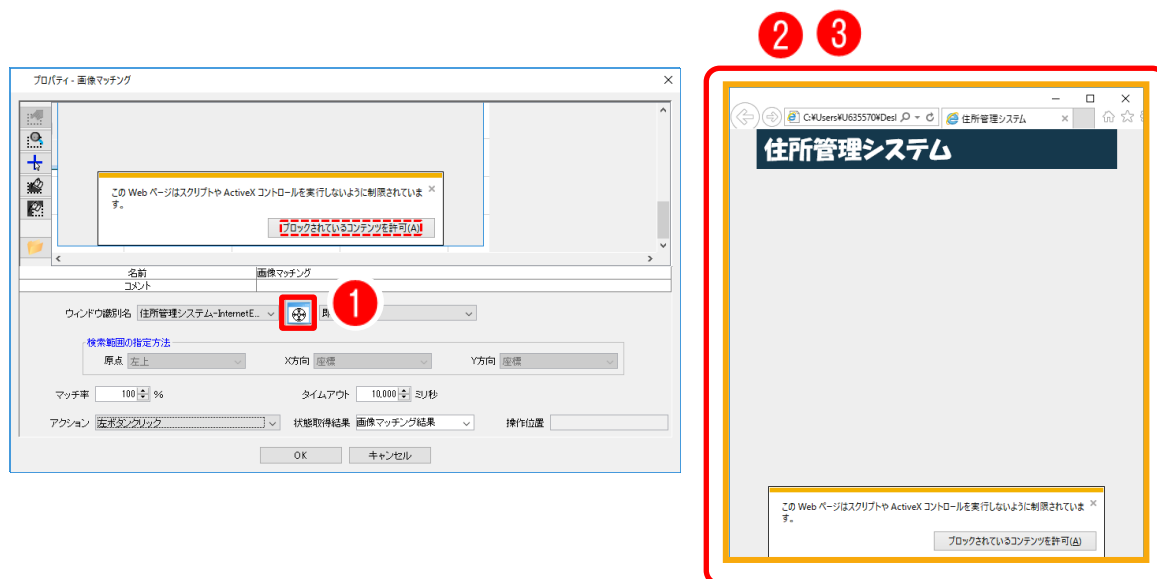
プロパティ画面が表示されます。




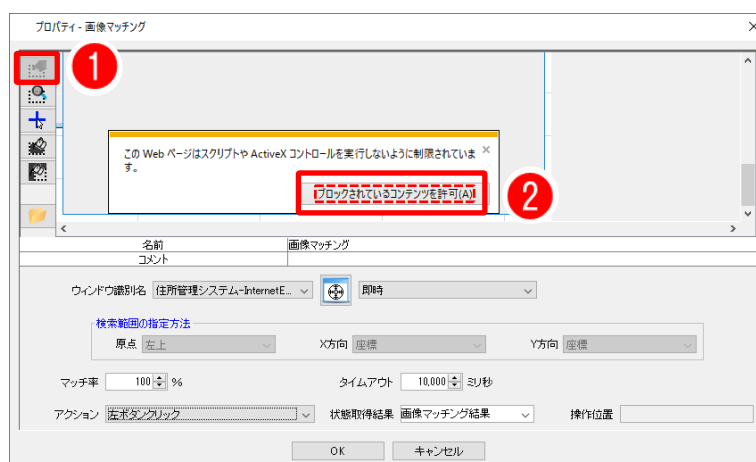
4. シナリオがうまく動作しないときは

3. ①プロパティ画面で[ウィンドウ識別名]横の  をクリック
②マウスポインタを、画像を取り込む住所管理システム画面上に移動
③住所管理システム画面がオレンジの枠で囲まれたら、住所管理システム画面をクリック

住所管理システムが記録対象アプリケーションに設定されます。
住所管理システムのキャプチャ画面がプロパティ画面に表示されます。



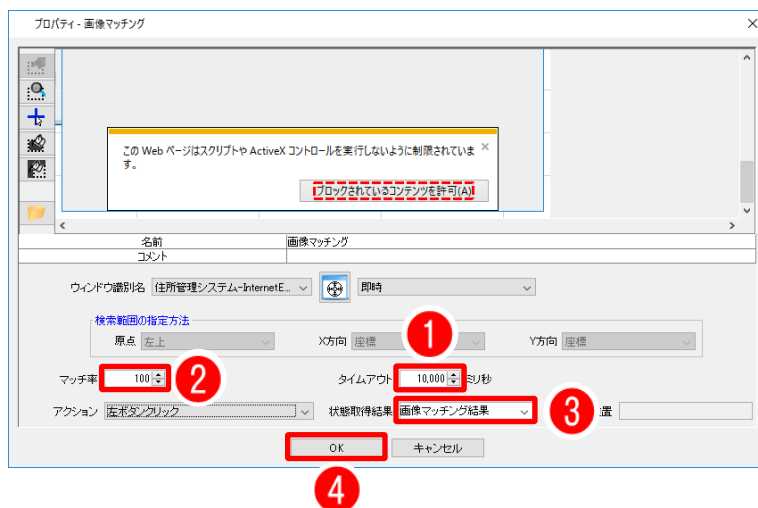
4. ①プロパティ画面で  をクリック
②マッチング画像に指定する範囲をドラッグ
マッチング画像 (赤色点線枠) が指定されます。



5. ①[タイムアウト]に「10,000」ミリ秒(=10 秒)を入力
②[アクション]のプルダウンをクリック―[左ボタンクリック]を選択
③[状態取得結果]のプルダウンをクリック―変数名[画像マッチング結果]を選択
④[OK]をクリック

画像マッチングのプロパティが設定されます。

ポップアップ画面が表示された場合、マッチング画像部分(ポップアップ画面を閉じるボタン)をクリックする作業が設定されます。



5.索引

E

Excel 操作(値の取得2)	20
Excel 操作(値の設定2)	32
Excel 操作(上書き保存する)	35

I

IE 操作(全て閉じる)	34
--------------------	----

U

URL を指定して IE 起動	18
-----------------------	----

あ

後判定繰返	65
ウィンドウ状態待機	63
ウィンドウを閉じる	37
エミュレーション	69

か

カウントアップ	52
画像マッチング	55, 65, 76
画面サイズ、位置設定	73
繰り返し	43
クリック(IE)	27
グループ化	40

は

ファイルと関連づいているアプリ起動	16
分岐	48, 76

ま

文字列取得(IE)	29
文字列設定(IE)	24

ら

リスト選択(IE)	22
-----------------	----

6.変更履歴

版数	変更日	章節項番	修正内容
1.0	2017/11/27		新規作成
1.1	2017/12/21	全般	文言の統一
		4 章 Step2 アプリケーションが起動するま で待機する 2: 6.	画像マッチングの画像の修正
1.2	2018/11/01	Ver4 から Ver5 に伴う変更	<ul style="list-style-type: none">・文言の修正・変数一覧の画像・フローチャートの画像・画像マッチングの画像・各プロパティの画像